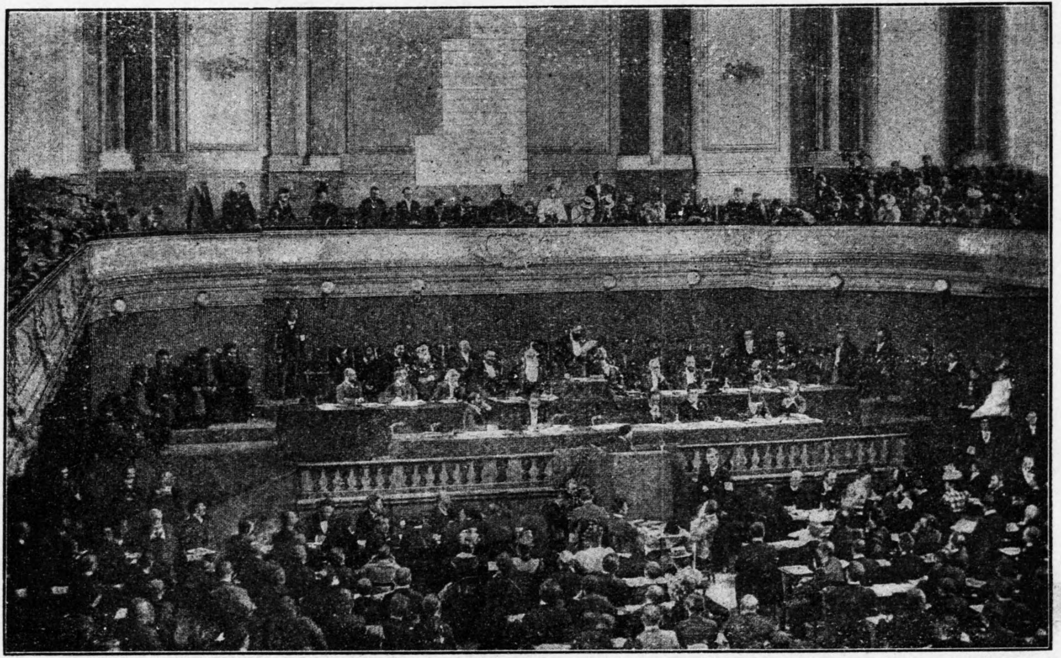
世界の猶太人網

ヘンリー・フォード著
包荒子解説

ヘンリーフォード著
包荒子解説

世界の猶太人網

東京二松堂藏版



全世界に散在せる猶太民族の代表者を網羅せる本會議は西曆紀元一八九八年八月二十八日より同月三十一日に亘り瑞西のバーゼル市に開催せられたるものにして　その第一回會議は此の前年即ち紀元一八九七年八月同市に於て開催せられたり　彼の有名なる「シオンの議定書」は該會議の議定と目せられる　猶太愛國者ベルンスタイン曰く『第一シオン會議は猶太人に自由の時代を開拓し　彼等に新しき進路を與へた　此の進路とは何か？　曰く「バーセルのプログラム」是なり』と

第二回シオン會議の入場之證

（猶太百科辭典より）

第二回シオン會議に制定せられたる第一シオン會議の紀念章

若しも黄金が世界の
第一の力であるならば
第二の力は出版物である！

アドリフ・クレミエ

序

本書は米國の自動車王として有名なるヘンリー・フォードの獅子吼した猶太問題解決に關する世界的大論文「インターナショナル・ジュウ」の解説である。該論文は一九二〇年五月より十月に亙り、週間雜誌ディアボン・インデペンデント誌上に連載され、後ディアボン出版會社に於て輯錄出版したものである。それ迄約二十萬の讀者を有するに過ぎなかつた該雜誌は、本論文掲載と共に忽ちにして三十數萬部の發行を見るに至り、更に本書の公刊さるゝや僅々數ケ月にして數百萬部を出版したことに徵しても、本論文が如何に世人の注目を惹起し、如何に興味あるものであるかを窺知することが出來よう。從つて本書は歐羅巴諸國に於て飜譯出版され、其の名は我が國にも響いて居るから、之を讀まれた人は多々あらうと思ふ。

抑々猶太問題は世界の癌であると謂はれて居る位、非常な難問題であると同時に、直接此の問題を包藏する歐米各國に於ては、夫々緩急強弱こそあれ、最も困難にして最も重大

な國内問題とされて居る。故に人若し歐米列國の急所は何かと問ふならば、それは財政でも軍備でもない、猶太問題であると答ふるのが至當であらうと思ふ。從つて猶太問題に關する論文や著述は、猶太人側の書いたものも非猶太人側の書いたものも共に尠なくない。併しながら歐米各國共言論界に於ける勢力は、猶太人側が占めて居る關係上、猶太人側の書いたものゝ方が能く普及されて居る、此のことは其の著者が猶太人なるや否やといふことに少しく注意を拂へば直に解ることであるが、就中我が國には猶太人側の言分の方が、多分に而も先入主的に注入されて居ることは爭はれない。勿論猶太問題はいゝ加減な何うでもいゝやうな問題ではない、隨つて之を論ずるものは眞摯な態度で論ぜねばならぬことは當然のことであるが、若し一部の人々のいふ樣に宣傳があり、誇張があるとすれば、それは世界言論機關を掌握し、宣傳を唯一の武器とする猶太人側の方に多いと思はねばならぬ。そこで本書の原著者は猶太人か何うかといふことを確めて置く必要があるが、ヘンリー、フォードは人も知る巨億の金持ではあるが、彼は猶太人でないアングロサクソン系米人である。

それは兎に角として本書は其の内容の示す通り、決して宣傳や煽動を目的として書かれたものではない。極めて公明正大に、極めて眞劍に、世界の癌たる本問題を、全人類の平和幸福の爲めに解決せんとして鋭利なるメスを振つたものである。猶太勢力の非常に盛んな米國に於て「猶太人」なる言葉の使用さへ憚る米國に於て、詳細綿密なる調査の下に縱横無盡に問題を解剖暴露し、事實を事實とし、虚構を虚構とし、或は基督教徒の管見を痛撃し、或は猶太人の偏見を戒しめ、徹底的に論述し得たのは、怪傑フォードにして始めて爲し得た所であつて、米國に於ては實に古今未曾有のことである。

從つて私が敢て禿筆を弄して本論文を紹介したのは、猶太崇拜病や恐怖病に罹つて居るのでもなければ、又基督教國の反猶太主義（アンチセミティズム）にかぶれて猶太人と沒交渉（？）な我が國に反猶太思想を鼓吹しようといふのでは勿論ない。實に全世界の各方面に亘る猶太人の大勢力の眞相を知らんが爲めである。即ち彼等は其の故國を有せずして各國に其の國民として居住し、而もヘルッルの所謂「猶太人は猶太人にして而も一國民なり」との確乎不拔の信念を有し、他民族に對する時は、左傾派も右傾派も、ブルもプロもなく、唯互に同民族なる

が故に協力一致し、今や其の實勢力は隱然として在來の國民、即ち米國に於ては米國人を獨逸に於ては獨逸人を壓倒せんとし、而も互に相連繫して或る意味に於て事實「世界を操縱支配」して居る。本原書が國際的猶太人(インターナショナルジウ)と名づけたのも此の意味からである。

我々日本國民が世界列强の班に列し、而も東洋に於ては其の覇者として其の平和を保障して居る以上、世界の各方面に於て甚大なる影響を與へて居る猶太民族とは、直接間接非常な關係を以て居ることは言ふ迄もないことである。具體的にいふならば、猶太問題と各種危險思想との關係は暫く之を措くも、世人が英國の延長の如く心得て居る日本の玄關先たる上海は、其の實猶太人の上海であり、又常に世界財界を支配し、時に社會を瀕死の狀態に導く金の相場の上下は、猶太人の手加減次第であるといふではないか、是れは一例に過ぎない。即ち私が本書を紹介する所以は、單に猶太問題そのものに興味あるといふ許りではない、世界に活動する日本人は、國際的猶太人の活躍振りを知らねばならぬことは勿論であるが、之と共に本書に依つて各國殊に吾人と密接な利害關係を有する米國及び露國の眞相をも窺ひ得るからである。

私は固より不文謭才のみならず、繁忙の中寸暇を利用して筆を操りたるを以て、原文の高雅流暢を缺くは勿論、原著者の意を十分表はし得ない所も多くあらうと思ふ。然しながら以上述べた意味に於て、本書が幾分たりとも我が國民に貢獻する所があつたならば幸甚の至りである。

昭和二年一月

（包荒子識す）

本書の解說に就て

原書の飜譯に當つては二三友人の助力に待つものが少くない、從つて本書が讀者の爲め多少の參考となつたならば、それは我が友人後援の賜である、玆に私はその努力に對し深く感謝の意を表する。

本論文は問題が問題だけに實に多方面に亘つて論述され甚だ浩瀚である。從つて一般讀者に取つて比較的興味の尠ないと思ふ點は公刊に當つて削除し、又特に說明を要すると思ふ所は、論文の骨子を傷つけない樣にして多少加筆した。そして世界に活動する猶太人の散在狀態に想到して「世界の猶太人網」と名づけた。又原文の第十三章以下は第十二章同樣シオンの議定書の條項を列擧して批判したものであるが、議定書は曩に二酉社より發行した拙著「世界革命之裏面」に全文揭載してあるから今回は之を省くことにした、請ふ之を諒せよ。

昭和二年一月

（包荒子）

原書の緒言

本書を出版して猶太問題を闡明にしやうといふ理由は、本問題が現實の問題であると共に、猶太問題が亞米利加の實生活内に侵入して來た爲め之れを鮮明に知るの要があり、又各國に於ては、該問題の存在によつて發生する幾多の隨伴的弊害を刈除するの必要があるが爲めである。

猶太問題が合衆國に存するのは既に年久しいことで、時に深刻に勢力を振つて、甚だ憂慮すべき結果に立ち至らんとしたこともあり、又國家の危機を釀成せんとする幾多の兆候を現したこともあつて、猶太人自身は能く之れを知つて居るが、而かも合衆國人は之れを知らなかつたのである。

猶太問題とは啻に周知の事柄即ち財政及び商業上の支配、政權の壟斷、有らゆる生活必需品の獨占及び亞米利加言論機關を意の儘に操縱すること等のことのみに關係する問題た

る に止まらないで、現今に於ては文明の實生活界にも侵入して居るのである、爰に於て乎該問題は全亞米利加人の死活問題となつた次第である。

尙ほ猶太問題は南亞米利加にも關係する問題であつて、今や大に其の範圍を擴張して南北を通じ、全亞米利加の諸事件に關連する脅威的一成分となつて居る。又猶太問題は諸國民を不安ならしむる計畫的組織的擾亂の危險なる現象と頗る重大關係を有し、而も決して新現象ではなく其の根源は遠く過去に存在し、斯の長期間の繼續は各種の變化過程を示し、過去は現在の、現在は將來の爲め各々次の過程の準備となつて、次の進むべき道を明示し來つたものである。

本書は猶太問題の研究を、一先づ一括して掲載したもので、其の目的とする所は、一九二〇年十月迄にディアボン・インデペンデント（Deardorn Independent）雜誌上に公表せられたる研究の諸結果を、該問題に興味を有する讀者に紹介せんとするに外ならない。右雜誌の註文は非常に多かつた爲め在庫品は須臾にして品切れとなつた程である。又本書の第九章迄の九つの論文を收めた一小册子を出版したが、此の册子も忽にして品切れとなつ

た。研究は尙は續行中で全研究が完成する迄は中絕しない意氣込である。

本書發行の動機は單に事實を世人に知らしめんとするにある、勿論此の他にも諸種の動機はあるけれども、一點の偏見も敵意も存しては居ない。蓋し斯る事業を國民に理解せしめ遂行せんとするには、不純なる考を交へては駄目だからである。若し一點でも非難さるゝやうな邪心が存するならば、其の邪心は必ずや文章上に現はれて來るもので、之れを隱匿することは不可能なことである。吾人は讀者諸君が必ずや本書の所說の論調が事實であつて、中庸を失して居らないことを首肯するであらうと確信して居る。國際的猶太人及び其の共鳴者の數は多數である、之等の輩は吾人がアングロサクンの文明なりと誇る所のものを事每に誹謗するの徒であつて、本書に對しても亦讒謗することであらう。又猶太人の爲すことゝさへいへば、理非に論なく之れを辯護する無考への徒も亦其の數前者に讓らない勿論之等の徒も本書を攻擊することであらう。憐れ此等の輩は猶太人指導者の爲す所は即ち之れ正當なりとの盲目的觀念に捉らはれて居るものである。右の如く本書は極めて公正の立場から論述しあると共に、又一方に於ては猶太人が爲めにする所あらんとして宣傳し

て居る彼の博愛とか乃至は寛宥とかの如き不徹底なる感情を毫も交へて居ない。吾人は唯だあるが儘の事實を事實として傳ふるものである。故に此の事實に對しては偏見なりと攻撃することも出來ないであらうし又憎惡することも出來ないであらう。

本書は猶太問題を悉く論じ盡くして居るものではない。併し本書が讀者を一歩前に導くことを得たならば、將來更に引き續き研究したる所を公にし、以て此の研究の範圍及び内容を更に一層明確に示すであらう。

一九二〇年十月

ヘンリー・フォード

目次

一、猶太人の性格と其の營利生活……………………………………一

猶太人の特性——猶太人の向上と猶太問題の出現——猶太民族の狀態と其の經濟的主權——猶太人は如何にして勢力を得たるか——古き猶太國の社會組識——猶太民族の不同化と「對外人法」——世界敎化か支配か——分散生活と豫言——古代猶太人の發展——商業的才幹と各種商法の發明——公債證書爲替小切手の發明と原因——株式會社の創始——國際的資本家——株式取引所の發明——英蘭銀行の設立——世界商業中心の移動と猶太人——國際民族と其の連繫——華客は國家なり——猶太人網——猶太人と國王及び貴族との關係——各國朝廷を手に入る——猶太戰法——獨逸諸會社と平和的侵略——同類事業の合同——世界中心財閥の存在——米國綿花の買收——勞資爭議の根本的解決法。

二、猶太人に對する獨逸の反動……三四

獨逸國民の疾患――猶太人と獨逸人との反對性と憎惡――大戰唯一の勝利者と獨逸の管理者――獨逸革命と猶太人――猶太新聞の思想製造――戰時需用品の獨占と志氣の不振――政府の頭上に策動せる猶太人――富裕猶太人と貧乏猶太人――右傾猶太人と左傾猶太人――プロレタリアの獨裁――第二線に退却――汎猶太國。

三、合衆國に於ける猶太人の歷史……五五

猶太人と經濟生活――コロンブス――イサベラ女王と「秘密の猶太人」――コロンブスと五名の猶太人の航海――煙草使用の發見者――ブラジル人と和蘭人との戰と紐育猶太人の試練と成功――米人の朝貢所――獨立戰爭に於けるハイム・ソロン――物價の上下と猶太人の支配力――猶太人の營業心理――汗の工場――猶太人の同化に就て猶太人街の成立――猶太人の獨立事業――海外に於ける米國實業家の正體――非猶太

人は支配的勢力を獲得するを得ず——失敗せる事業。

四、猶太問題の意義と事實……………………………………七五

日本に於ける眞面目なる猶太研究——歐米の猶太問題と日本の猶太問題との差異——ヘルッルと猶太問題の存在——歐米人の猶太問題に對する態度——各國に於ける猶太問題——猶太人の能力と權勢獲得——猶太問題を生ずる根本原因——インターナショナル猶太人の意義——問題は富力にあらずして支配なり——種族と宗教との問題——「猶太人」なる誇り——猶太人は永久に猶太人なり——英人がシェクスピアの言葉を有するが如し——機敏に對する疑の眼——英國に於ける猶太商人排斥の原因——デパートメントストーアと薄利多賣の創始者——猶太商業團——工業界の金融ブローカー

五、反猶太主義(アンチセミティズム)は合衆に實現するや否や……………………九五

猶太問題に對する猶太人の宣傳——猶太人の種類。

一　斯の如きは反猶太主義にあらず
(一)問題の認識――(二)問題の公開――(三)世界支配計畫の眞相發表。
二　反猶太主義の程度
(一)無暗に猶太人を毛嫌するもの――(二)憎惡及び敵意を有するもの――(三)迫害暴行となれるもの――(四)基督教の偏見を云々するは當らず――偏見は猶太側にあり。
三　反猶太主義は米國に生ぜんとす
(一)反猶太主義は米國に現れん――(二)米國に猶太問題の生ずる原因――(三)猶太問題の中心――(四)偏見と煽動――(五)正義の反動。
六、言論雜誌界に猶太問題の出現……一一二
露國の眞相發表の不可能――メトロポリタン誌の猶太問題發表――ウィリアム・ハードの論文――隱謀觀念の存在――猶太問題とソウェート問題との關聯――露國事情の

觀察――米國事情の觀察――猶太問題存在の事實。

七、アーサー・ブリスベーン氏の猶太人援助……………一三四

新聞記者としてのブリスベーン――世界の成功者と世界商業利得の二分の一――平和會議に於ける猶太人――アラスカは米國領にあらず――經濟界の秘密――米國の砂糖と綿花――憎惡と偏見――米國新聞の恐怖。

八、猶太世界征服綱領の存在如何……………一四五

猶太人の反駁――猶太人の忠節――猶太人は世界を對照とす――猶太問題の政治的要素――ヘルツルの信念――猶太人の猶太人以外に對する作用――ジューイッシュ・クロニクル紙の所論――シオニズムとボリシェウィズム――社會主義者及び過激主義者たる理由――破壞的行爲の原因と獨裁――破壞思想の資金――猶太人の二運動――猶太國の建設とパーレスタインの移民――猶太政府の存在如何――猶太人の自覺的結合―

——シオンの議定書の出現——英國とシオンの議定書——議定書と其の價値。

九、猶太人の世界支配の歷史的基礎……………………一七〇

「猶太人」なる言葉の發言の自由——シカゴ・トリビューン紙の社說——過激主義と世界革命運動——ボリシェウィズムと世界支配權獲得運動との區別——世界支配權建設運動の結果——猶太禍に對するモニター紙の警告——二つの先入主——猶太人の金力と地位の獲得——猶太王と追放者の侯——猶太議會サンヘドリーン——ナポレオンの猶太議會サンヘドリーン召集——猶太議會の現存——世界猶太人の會合——猶太世界政府——ダウィド王家。

十、シオンの議定書(プロトコール)に對する觀察……………………一九四

シオンの議定書ト猶太思想——議定書立案の目的と非猶太人——サンフランシスコの議會——議定書は法律の如し——議定書は狂人の作か。

十一、非猶太人の人間性に關する猶太人の見解……二〇六
世界計畫の縮圖――議定書の骨幹――猶太人の見解に誤りなし――人間の本性は不良なり――迂路による――マッソン秘密結社に對する猶太人の觀察――分解法――理論と約束――破壞と進步――自由主義――政治の秘訣――全猶太人の一致――世界に對する基礎的觀念――マルクス主義及びニーチェ主義――先づ精神的に次に經濟的に――人類社會の分裂作用――投機に立脚する經濟組織
十二、シオンの議定書一部の實現……二三八
文學的珍書か――最高政府と立法者――基督敎の瓦解――人心の頽廢――外交の秘密を握る――自由と權利の諸解説と兒童敎育――非猶太青年の放縱と猶太青年の純潔――奢侈と流行の製造――禁酒運動の原因

附錄參考

一、獨逸人の猶太問題に對する態度……二四九
二、無線電信と猶太人……二六〇
三、上海に於ける猶太實勢力……二六三

世界の猶太人網

ヘンリー、フォード著
包荒子解説

一、猶太人の性格と其の營利生活

今國際的大勢力を有する猶太民族の活動を論究するに當つて、先づ猶太人の性格を承知して置く必要がある。新國際百科字典には猶太人の精神的及び道義的著明なる特性として次の諸點が列擧されて居る。

骨の折れる肉體的勞働を嫌ふこと。鞏固なる家族的意識と、熱烈なる同族愛を有すること。宗教的本能の强烈なること。航海者及び軍人としての勇氣よりも、豫言者及び殉教者としての勇氣に富むこと。民族的孤立に堪ゆる偉大なる力と、至難なる境遇を意と

せず飽く迄忍堪する非常なる力を有すること。個人たると團體たるとを問はず開拓の天才なること。投機的營利事業就中金錢に關して狡猾拔目なきこと。權力を尊重し社會的地位の優越を誇示し、東洋的華麗好みなること。一般に智的能力極めて高きこと。

扨て現今猶太人は全世界の注目の的となり、之に關する批評は頗る盛んである。蓋し世界大戰間に猶太人が財界に於て政界に於て、將た上流社交會に於て一躍有力なるものとなつたからである。實に猶太人の向上は素晴らしいものであつて、其の必然の結果として玆に猶太人の置位、權勢、目的等を批判的に研究するといふ一般の情勢を誘致する樣になり而も此の考察たるや、多くは猶太人にとりて反感を有する嫉視的のものであることも止むを得ぬ所である。排斥といふ手段は猶太人にとつては決して事新らしいものではない、併し現今の樣に猶太人の性格及び其の超國民的性質に立ち入つて、深く穿鑿研究するといふ樣なことは全く始めてのことである。從來猶太人は二千年以上にも亙る長い間、他民族の感情的反猶太主義(Antisemtismus)を經驗し來たつたものである。併しながら斯樣な憎惡も、之を要するに全く感情上の憎惡であつて、決して明かに意識して憎惡したものではな

い。從つて尙ほ理智的に現はれ得るの餘地を存して居たものであつた。けれども今日は既に此の感情的の憎惡を受くると同時に、猶太人は科學的觀察といふ顯微鏡下に檢討せられて居るのだ。即ち斯かる觀察によつて猶太人の權勢、猶太人の非融合性及び猶太人の惱みの原因が認識せられ理解されんとするに至つて居る。

露國では「ボルシェヴィズム」の發頭人は猶太人であるとして、猶太人に罪を歸して居るが、之は猶太人に責を歸する人々によつて色々で、責を歸するのが至當であるとも又不隱當であるともせらるゝ樣な頗る漠としたものである。併しながら亞米利加人は、彼の社會及び經濟組織の轉覆を企てゝ居る青年猶太人達が、熱烈なる雄辯を揮ひ且つ豫言の火を付けて廻つたことを實際に目擊し承知して居る者である。それであるから米國人は右の責は正に何人に歸すべきやといふことに就ては、極めて正當冷靜なる判斷を下し得る立場にあるのである。又獨逸では獨逸滅亡の罪は猶太人にありと猶太人を非難して居る。之に就ては多數の書籍が出版せられ、各書には無數の例證が載せられて居る。今や獨逸人は深く顧みて猶太人の恐るべきことに氣を配つて居るが、又英國では次の樣な意見が行はれて居

る。

「猶太人は實際上の世界の覇者であつて、猶太人全體は諸國民を超越する「超國民」を構成して居る。此の超國民は金の力で世界を支配し、又自らは表面に現はるゝことなく黑幕となつて各國民を操縱し、甲乙相戰はしめて居る」

と又亞米利加に於て注意されて居るのは次の問題である。

「一體猶太人は——老猶太人は金儲けから、又若い猶太人は野心から——幾何の範圍に亙つて戰爭機關に關係したのか、其れは主として商工業と關係ある戰爭機關ではあらうが、一體幾許の者が從軍したのか」といふ點と

「彼等猶太人が政府の役人として知り得たる所を、私利を圖るために利用したことはないか、一體此の機密を如何に多く自己の利益の爲めに利用したか」といふ此の二點に尤も著目して居るのである。

之を要するに猶太問題は、今や各國を通じて表面に現はれて來た。然るに怪しからぬことには、此の問題を公に發表することは不得策であるとして、默殺しやうと努力して居る狀

態である。併し從來の正しき經驗が教ふる樣に、此の問題は縱令抑壓して居つても何時かは爆發する日が來るのであつて、其の時こそは却つて望ましくない有害な形をとつて現はれて來るであらうと思ふ。

猶太人は世界の謎である。猶太人の數は少ない、然るに猶太人は世界の金融及び資本制度を支配して居る。猶太人には國なく政府なく、彼等は諸國に散在して生活して居りながら、而も彼等の民族的統一、民族的靱強性は實に確乎不拔なもので、此の點は何れの國民と雖も到底及ばない所である。猶太人は殆んど何れの國に於ても法律上の制限を受けて居るが、併し或る國々に於ては、事實上隱然たる支配者となつて居るのだ。古い豫言には次の樣なことが告げられて居る。

「猶太人は猶太人自身の國土に歸り、此の國土を中心として世界を支配するに至らんされど此のことは諸國民全部の聯合攻擊に堪へたる後始めて實現することである」

と、猶太人の從事率が他の何づれの民族の從事率よりも高比率を示して居る特別の營利手段は即ち商業である。縱令其の仕事が纖維の賣買であらうとも——兎に角商業である、

古著の賣却から國際的の商業及び財政の切り盛りに至る迄、實に猶太人には最高の能力がある。猶太人は肉體を使ふ仕事を嫌ふことは、他の何れの民族よりも甚だしい。夫れだけ又商業に對しては絕對的に勤勉である。猶太人に非ざる若者は、工業界又は技術方面に其の職を求めるが、猶太人の若者は苟も其の職務が營利生活の商業的方面と關係を有する以上は、行商人、手代、小使となることを毫も辭せないばかりでなく、否寧ろ自ら進んで其の職に就くといふ風である。「プロイセン」の以前の調査に依ると、其の全人口二十六萬九千四百人中猶太人は一萬六千百六十人で、其の中一萬二千人が商人で、四千人が職人であつたといふ、然るに「プロイセン」の住民の方はどうかといふと人口二十五萬三千二百人中、商業に從事して居るもの僅に一萬七千人に過ぎなかつたとのことである。

若し最近の調査をしたならば、商人と相並行して教授及び文學者の數が著しく增加して居ることを見るであらう。併しながら此が爲め商業に從事する者の比率は決して減少せざるべく、又賃銀勞働者は極く僅少の增加を示すか又は全然增加を示して居ないだらうと思ふ。亞米利加のみに就て言へば殆んど凡ての大商業全部、トラスト、銀行、礦石類、主要

なる農産物就中煙草・木綿及び砂糖は猶太人の財政家又は其の代理者の勢力下にある。殊に猶太人の記者は亞米利加で非常に有力な一大團體をなして居る。又「商館の極めて多數は猶太人の會社の所有する所である」といふことは、猶太人の百科辭書にも出て居るが而も表面は猶太人の名前となつて居ないで、實は猶太人の所有である商店も中々に多いのである。又都會の土地所有は猶太人が多く而も大地主である。猶太人は又劇場にも大勢力を持つて居る。加之亞米利加全國の通信制度は絕對に彼等の支配する所だ、彼等は亞米利加に住んで居る他の何れの民族よりも數に於ては少數であるが、併し每日非常に廣範圍に亙つて有利な記事材料が其の手裏に集められる、若し彼等が記事を作り、且つ之を指導するの權力を掌握して居らなかつたならば、到底猶太人は有利なる材料を現今の如くには多く集め得ないであらう。ウェルナー・ゾムバルト（Werner Sombart）は其の著「猶太人と經濟生活」(Die yuden und Wirtschaftbleben) 中に次の樣に言つて居る。

「亞米利加で將來も最近三十年間の樣に萬事が進み、入國者の增加率も依然同一であると假定する時は、今後五十年又は百年後には合衆國は次の樣な國となるであらうと想

像される、即ち住民は唯「スラヴ」「ニーグロ」及び「猶太人」だけとなり、其の中で經濟的主權を掌握するものは當然猶太人であろう」と、併し斯ういふ「ゾムバルト」は、猶太人に好感を有する學者であることを茲に附記して置く。

猶太人は如何にして勢力を得たか

偖て玆に一つの問題が起つて來る「若し猶太人が勢力を有して居るとするならば——一體如何にして其の勢力を得るに至つたか？」といふ疑問である。亞米利加は自由の國である、猶太人は僅に全人民の約百分の三に過ぎない、即ち合衆國では三百萬の猶太人が九千七百萬の「非猶太人」に對立して居るのである。若し猶太人が勢力を持つて居るとするならば——是れ猶太人の能力が卓越して居る結果であるのか、それとも又非猶太人が無能で無頓著である結果か、此の問題に對しては單純に次の樣に答へるのも一案であらう、「猶太人は亞米利加にやつて來て、他の民族同樣色々な艱難を經て、遂に競爭に勝つたのである」と。併しながら斯の樣な答解は有らゆる事實を考慮して與へられたものとは言はれない。更により良き答を與へんとすれば、必ずや先づ答の前に二つの點を明かにして置くこ

とが必要である。其の一つの點は、總べての猶太人悉くが富みを所有しては居らない、猶太人は皆小ながら自巳の財產は持つて居るが、中には貧乏の猶太人も中々多い、從つて猶太人が亞米利加の最も主要なる財政上の支配者であるといふことは眞實ではあろうが、各猶太人が皆悉くが財政上の支配者の一人であるといふことは眞實ではない。其所で富める猶太人が勢力を得るには如何にするか、又貧しき猶太人は如何なる方法によりて勢力を得るかといふことを考察して見るならば、此の兩階級が截然區別して存在することも明瞭となる譯である。第二には猶太人は連帶責任即ち仕事を相共同して行つて居るものであるから、猶太人の成功と非猶太人の成功とを同一の標準で測定するが如きは妥當ではないといふことである。若し猶太人が大洋の彼岸より豐富なる資本の援助を受け、そして亞米利加で莫大なる財產を集蓄し得たのならば、換言すれば亞米利加に移り住んだ猶太人が、財政上の據點を歐洲に有して居るのならば、其の勃興隆盛を測定するのに、自巳の努力と力以外には何等の支點をも有して居ない獨逸人とか又は波蘭人とかの成功を測るに用ひたと全然同一の標準を用ふることは公平でない。無論確かに多くの猶太人は、亞米利加に來る

ときは個々に何等の援助なくやつて來た者に違ひないが、さりとて現今猶太人の富は各種のことに壓到的勢力を得るに至つた所以を、「是れ彼等の個人的事業力の賜物なり」と斷定する譯にも行かないと思ふ。然り此の勢力こそ方に海の彼岸の猶太人の有する財政支配權の擴張に外ならぬ。猶太人の勢力を說明するには如何しても此の點に着眼してかゝらねばならぬのである。元來今問題となつて居る此の猶太人と言ふ民族は、未だ國亡びざる以前即ち彼等が國民時代に於ては農夫であつたのである。されば彼等の最初の資性は物質主義者といふよりも、寧ろ宗敎的精神的分子を多分に持つて居つた、商業國民に非ずして寧ろ牧人國民であつたのだ。併しながら彼等が故國を失ひ自已の政府を有せざるに至つて以來又常に到る所で何等かの排斥を受けてから、玆に彼等は幾變遷を經て、今や此の地球上の隱然たる實力的支配者として振舞ふに至つたのである。然らば如何にして彼等に斯の如き珍奇な性質が生じたのであろうか、又何故に斯の如き性質となるのが當然であると見做されて居るのであらうか、次に之を述べて見やう。

先づ猶太人が國家を形成して居つた其の最初から筆を進めることにする。元來猶太人の

國民としての性格は、どういふ具合に養成されたかといふに、猶太人が遵奉して居た法律は、有り餘まる程の富を作ることを不可能ならしむると同時に、又貧困窮迫に陷る樣なことのない樣に出來て居た。斯樣な法律の支配下に彼等猶太人は、國民として立つて居たのである。從つて猶太建國以來改革に從事した多くの人々も、先づ第一に此の猶太の社會組織、即ち建國頭初の猶太人が組織して居つた社會組織に著眼するを要し、之に準據して理想的の社會組識を立案するといふ安排であつた。即ち其の基礎となつた法律といふのは即ち「モーゼ」の法典であつて、此の法典は利息をとることを禁止し、之に依つて現今の猶太財政家が形成して居る樣な、金力專制政治の出現を不可能ならしめ、又他人を窮迫せしむる樣な永續的利益を得ることをも不可能ならしめて居るものである。換言すれば猶太の社會組織は、成金になつたり又は投機をしたりするのには至極都合が惡いものであつたのである。又猶太國では土地で金儲けする譯にも行かなかつた、國土は國民に分配せられて居り、若し借金をしたり又は苦しいことがあつて土地を手放す樣な事が起つても此の土地は法律で五十年後には又舊の所有者の手に歸つたのである。即ち斯の如くして所謂「喜

び の年」(五十年祭の年)毎に社會組織は、又以前の狀態に復歸したから、「喜びの年」は社會上の一と區切りであつた、大地主や金權階級の發生は、斯かる制度の下では到底不可能なことであつたのだ。勿論五十年と謂ふ期間は、個人が十分に腕を揮ひ正當なる競爭を實行貫徹するには、決して短かい期間ではなかつたから、事業を企てゝ活動するには一向支障がなかつたのである。

それであるから若し猶太人が國を亡ふことなく、依然「パーレスタイン」に於て國家を維持して居り、「モーゼ」の法典の下に國民としての生活を續けて居つたとしたならば、後世の猶太人に見るが如き財政上の判然たる特性を得る樣なことはなかつたであらう。猶太人が金持に成つたのは、決して猶太人同志の間の競爭や取引に因るのではなかつた。此のことは近世に於ても其の通りで、猶太人は決して他の猶太人を相手に金儲けはしない、否彼等は彼等の住んで居る國の國民より金を搾りとり、又は其の國民を利用して金持と成つたのである。モーゼの法典は猶太人に「非猶太人に對しては猶太人同族に對すると別な方法に依つて商業取引をなすも妨げない」と許して居つたのである。即ち所謂「外人法」に

は次の如く記されな居つた、「汝等猶太人は異入種には高利を以て金を貸すも可なり、されど同族に對しては高利にて金を貸すべからず」と。

猶太民族の不同化と「對外人法」

猶太人は各國民間に廣く散在生活して居る、併しながら彼等は決して其の國民と同化するといふこともなく、又決して其の判然たる特質を失ふこともなかつたのである。斯くて猶太人は幾百年の長き間に亘つて所謂彼の「對外人法」を實際に適用したのであつた。彼等は異民族間にあつて常に異民族として取扱はれて居た、時には虐待酷遇されたことも勿論屢々あつた、其の代り彼等は又それだけ「モーゼ」の法典を實際に服行して、金に依つて他民族を苦しめ一種の相殺的正當行爲（彼等猶太人としては虐待に對する正當なる報復と考へ得る譯である）を行ひ來つたのである。以上此れだけ述べたのでは、猶太人が財政上に卓越して居ることの說明としては頗る不十分である。猶太人の財政上の卓越性を十分に說明するには、何うしても猶太人其のものを解剖研究して見る必要がある、即ち猶太人の堅忍不拔、發明的才幹其の他特別なる天賦の才能を研究するの必要があると思ふ。

世界敎化か支配か

猶太人の古代歷史を見ると、「イスラエル」人は全世界の民族を臣屬と爲し、自ら之に君

言は悉く「イスラエル人が世界を敎化する」といふことを目的として居る樣に見えるが、併しながら決してさうではなかつた、彼等の意志は世界を支配するにあつたのである。從つて豫言と意志とは全然相矛盾して居るのであつて、尠くとも此のことは舊約全書の語調から見て明かであるのだ。古き記錄に見るも神は「汝等イスラエル人よカナン人を放逐せよ、之れ汝等が彼等の墮落によつて汚されざらんが爲めなり」と命じて居るに拘らず猶太人は此の神託を遵奉しなかつた。是れ彼等がカナン人を放逐する時は、其の結果としてどれだけの勞働力を失ふかといふことを知つて居たからであつて、彼等は神命に反いて「カナン」人を奴隸としたのである。古書には次の樣に書いてある「イスラエルが强大となるやカナン人をして朝貢せしめ彼等を放逐せざりき」と。斯の如く「イスラエル」人は神に對する柔順者となり、そして宗敎的に世界の指導者となるよりも、寧ろ物質的支配者となりたいといふ彼等の慾望は、「イスラエル」初紀よりの著しい特徵であつて、是れ爾後盡くることなき神の所罰及び艱難の原因とも見るべきものである。

抑々猶太人は二千五百年の長い間各國に分散生活して居るが、彼等は之を「神が猶太人を幸福にせんが爲め、我等に與へたる運命なり」と觀じて居つた。近代猶太人の宗教家中には、今日でも猶ほ「神が猶太人を諸國に差遣せるは世界を敎化せんが爲めなり」と主張して居るものが無いではないが、然し斯かる主張は之を證明する事實を缺いて居るから人を首肯せしむることが出來ない。實際最近數世紀を通じて、「イスラエル」人が如何なる目を以て「非猶太人」の世界を眺めて居るかといふに、彼等は如何にすれば非猶太人の力を自己の爲めに屈服し得るであらうか、といふ點にのみ著眼して居るのである。彼等猶太人は胸中には依然として次の樣な幸福を夢見て居る、卽ち「猶太人は遠く故國を追はれて到る所虐待せられて居る、併しながら何時かはイスラエル人にとつて幸福なる時代が到來し新しきパーレスタイン國を建て玆に追放、亡國の悲みの終る時代が來るであらう、そして古の豫言者達が告げた通りに、「エルサレム」が世界の文明の中心となる時代が來るであらう」と。

惟ふに若し猶太人が他民族の爲めの勞働者となつて居つたならは、恐らく猶太人は斯く

も世界中に遠く散在しはしなかつたであらう。併し彼等は商人となつたので、其の本能に驅られつゝ苟も人の住んで居る所には出かけて行つたのである。既に支那には古き昔に於て猶太人が居つた又サクソンが英國を支配して居つた時代に既に猶太人は英國に居つた。南亞米利加では猶太の商人は、巡禮者が始めてプリマウス=ロツク(Plymouth=Rock)に上陸した時よりも百年も以前に住んで居つた。セント・トーマス島(St. Thomas)では猶太人は既に一四九二年に砂糖工場を開設した。又今日の合衆國海岸に未だ僅に少數の村落が點在したに過ぎなかつた時代に、猶太人は既にブラジルで確乎たる地盤を占めて居つた。猶太人が如何に遠隔の地迄行つたかといふことはジョージア(Geo Rgia)で始めて生れた白人の子がアイザーク・ミニス(Ysaak-Minis)と呼ぶ猶太人であつたといふ事實が物語つて居る。猶太人が普く全地球上に存在し居ることゝ同族間の團結頗る鞏固なることは、他民族間に散在せる猶太人をして、克く一國民として維持せしめ、且つ世界到る所に代理人を派遣せる一大會社たらしめたのである。

けれども猶太人をして財政上の支配權を獲得するまでに向上せしめたのは、尙ほ他に天

賦の才能が與つて力あるのである、即ち次から次へと常に新しき商業上の方法を發明するの才幹である。猶太人が未だ商戰場裏に姿を現はさなかつた間は、世界各國の貿易は頗る單純なる形式で行はれて居つた。然るに現今商業を殷盛にし且つ容易ならしめて居る所の商業上の多數の方法に就いて、其の起源を調査して其の糸を手繰つて見ると、常に其の末端には殆んど皆猶太人の名稱を發見しないことはないといふ有樣である。現今必須不可缺となつて居る債權の證書、爲替の證書類の多くは猶太人から發明考案されたもので、此等のものは啻に猶太人相互の間に使用する爲めのみならず、猶太人と商業取引をして居る非猶太人に使用させ之を抑留する目的で發明されたものである。現今猶ほ存在する最舊式の爲替は、猶太人シモン・ルーベンス(Simon Rubens)が發明したものであつて、小爲替も等しく猶太人の發明であり、又「持參人に支拂ふべし」と書く持參人拂小切手も亦猶太人の發明である。

「此の證書持參人に支拂ふべし」といふ證書に關して昔面白い話がある。嘗て猶太人の敵が猶太人達の金を最後の一錢まで全部奪ひ取つたが、不思議なことには猶太人達は忽ちに

して恢復し依然金持であつた。すつかり掠奪されて無一文から、斯うも速に復活するといふことは、一體どうした譯であらう實に不思議であると思つた。所が猶太人達の財産は匿名の「證書所有者」といふ名の下に實は隱されてあつたので、大部分の財産は掠奪を免れたのであつた。又昔猶太人宛に送る荷物を掠奪するのは海賊として差支ない彼等當然の權利なりと一般に認められて居た時代があつたが、此の時代に於て猶太人は如何にして被害を免れたかといふと、彼等は其の荷物を保險證書所持者といふ無名のものに對して送る手段を取つたからである。

實に猶太人は人を相手とせずに品物を相手として商賣することに努力した。以前法律上の要求は總て人に對して行はれたのであるが、斯の如く猶太人が品物を主とし人物を度外視したといふことは、猶太人が自已と取引する人物よりも、品物の價値の方が確實であり安全であることを看破したからである。從つて猶太人は代價の要求を常に品物に向つてする樣に仕向けた。此の方法によれば、安全といふ外に尙ほ猶太人といふことを人に氣付かせずに商賣が出來るといふ、猶太人にとつて誠に都合のよい利益があつたのである。此の

方法が商業取引に使用せられて以來、人と交易するよりも品物で取引する方を好むといふ殘酷なる一素質が、商業生活に這入り込むことゝなり、此の殘酷性は今日に於ても依然存在して居る。

株式會社の創始

又猶太人の施設に「無記名會社——株式會社」といふのがある、此の制度は代々相傳へ且つ猶太人が獲得した勢力を掩蔽するに都合のよい制度で「所持者に支拂ふべき證書」と共に創始者は等しく猶太人である。匿名會社即ち株式會社と言ふ名前をつけて置けば、猶太人の資本で經營して居る事業も猶太人の事業と感付かれずに濟む譯である。

國際的資本家

尙ほ猶太人は國際的資本家としての開祖であり、且つ唯一のものである、併し彼等は通常表面に立つて公然と活動しない、彼等は寧ろ「非猶太人」の銀行やトラストを手先として使ひ道具として利用して居る。故に表面上非猶太人同志の資本家の商業戰と見ゆるものも、實は猶太人の此の習性と關聯して居ることが多い。

株式取引所の發明

株式取引所の發明も亦猶太人の財政的才能の御蔭である、ヴェニス(Venediy)及びゼノア(Genna)は大商業、大銀行業が行はれた所であるが、之等の都市は古き記錄によると公

然「猶太人の都市」と記されて居る。又伯林、巴里、倫敦、フランクフルト及びハムブルグに於て、最初の株式取引所に絶大なる勢力を揮つて居つたのも猶太人である。彼の有名なる英蘭銀行は、和蘭から移住して來た猶太人の意見と援助とによつて設立されたものであるが、アムステルダム及びハムブルグの諸銀行は猶太人の勢力によつて建設を見たものである。

英蘭銀行の設立

今茲に猶太人の放逐及び猶太人の歐羅巴漂浪と關聯して居る特異の現象を述べる必要がある。それは猶太人が移動するに伴つて商業の中心も亦常に移動するといふ現象である。猶太人が西班牙で壓迫を受けず自由な生活をして居つた時代には、西班牙は世界金融界の中心地であつたが、西班牙が猶太人を放逐するに及び、同國は財政上の覇權を失ひ、遂に之を恢復することが出來なかつた。歐洲の經濟史を研究する者が常に説明に苦しむ問題は商業の中心點が、何故に西班牙より葡萄牙、伊太利と變轉し、更に和蘭、英國、獨逸と北方の國々に移つたかといふことである。此の理由が未だ嘗て明快に説明されたことはない然し此の商業中心の移轉は、猶太人が南方より逐はれて北方へ逃げた時と、時代に於て符

世界商業の中心の移動と猶太人

節を合するが如きものあること及び今日迄繼續して居る北方諸國の繁榮は、猶太人が北方諸國に到來すると共に始まつたものであるといふこと、此の二つの事實を知れば最早右の問題の說明は決して六ケ敷くはない。即ち事實に於て猶太人が他に移り行かねばならなくなつた時には、金融上の世界中心點も亦猶太人と共に移動したのである。

既に述べた如く、猶太人は歐洲は愚か世界中に擴がつたが、到る所其の血族的關係、信仰及び迫害に依つて互に兄弟的關係を維持して居つたからして、彼等は既に某程度迄國際的民族となり得た。當時に於ては何れの民族又何れの商人團と雖も、猶太人の如く國際的と成り得たものはない。それで猶太人の分散生活の特徵とする所は、到る所に居て而も相互密接に觸接を維持して居ることである。彼等は世界に於て未だ自覺ある國際的通商組織の存在しなかつた以前、既に脈胳ある組織を作り、猶太協同生活の神經系統によつて連絡して居つた。中世紀時代の多くの學者達は、猶太人か歐洲の出來事を、各國の政府よりも餘計に知つて居つたことに就て驚異の目を瞠つて居る。併し猶太人は啻に之を餘計に知つて居る許りではない、將來の事に就ても一層詳細に察知して居るのだ、實に政治上の諸條

件及び諸關係に就ては、職業的政治家と雖も彼等に及ばないのである、それで其の通信連絡は如何にして行はれるかといふと、彼等は書面を以て相互に通知し、團體から團體へ、一國から他國へと通信しあつて居たのである。斯くて彼等は不知不識の中に、何時か財政通信の基礎を作るに至つた、此の通信が彼等にとつて投機的思惑を爲すのに非常な價値があり、殊に通信が貧弱、緩漫、不信用の時代に於て人よりも速に知るといふことが、如何に大なる利益を齎したかといふことはいふまでもないことである。猶太人の斯かる狀態は彼等をして自ら諸國の國債の仲介者たらしむると共に、愈々金融界に精勵せしむるに至つた

華客は國家なり

抑々猶太人の華客は國家であつて、國債の募集は猶太財政家が諸國に存在して居る爲め非常に容易にされた。斯くて諸國にある猶太財政家は國際執政官の如き境遇となり、王と王とを爭はしめ又政府と政府との間を操縱し、國民間の偏見と恐怖とを巧に利用して尠からざる利得を收めたのである。

現今猶太人財政家に對し頻繁に繰り返さるゝ非難の一つは、彼等が特に國家を相手とし

て擇び、其の廣大なる財界を支配して其の恩惠を受くることである。實際に於て實業家としての猶太人に關する總ての批評の中、個人を顧客として居る單獨の實業家に對する非難は比較的僅少であつて、多數の猶太人小實業家は其の取引に於て十分に尊敬せられ、多數の猶太家庭も亦同樣に我等の隣人として尊敬せられて居る。隨つて傑出せる猶太財政家に對する批評は、概して言へば人種的見地から出て居るものではない譯である、併し遺憾ながら人種上の一分子即ち人種的偏見が、矢張り此の問題にも混入して居ることは否めない人種的偏見は兎角誤解に陷り勝ちのものであるが、然らば人種的偏見が如何して此の問題に挿入されて居るかといふに、實に次の說き單純な事實に因るのである。即ち世界中に網の目の樣に張り渡されて居る國際的財政といふ連鎖の各關節には、必ず猶太人の一資本家猶太財政家の一族又は猶太人支配の銀行組織が存在して居るといふ事實である。多くの人々は此の狀態を指して、是れ猶太人が非猶太人を支配せんが爲めに作つた計畫的組織であると見做し、又他のものは此の狀態を指して、猶太人の同族愛の現はれであつて、彼等は自己の事業を子々孫々に繼承せしめ、且つ更に之より他に岐路を增加せんとするものであ

るといつて居る。舊約全書に依れば、猶太人は丁度葡萄の木の樣なものである。葡萄の木は次から次へと新しい枝を增して行く、そして古い根は益々深く地中に這入り込むが、而も總ての根は悉く又新しい葡萄の木を生やすと。

諸政府と取引するといふ猶太人の才能は、上述の諸性質同樣、猶太人の追放時代に其の原因を求むることが出來る。此の時代に於て猶太人は、商賣相手との取引で金の力を知つたのである。彼等が赴く所常に呪の如く他國民の反感を喚起した、民族としての猶太人は決して人氣が良くなかつた、此のことは如何に熱烈に猶太人が之を辯明しても、事實は之を否定することは出來ぬであらう。勿論猶太人個人としては尊敬すべき立派な紳士もあり又其の性格中には中々愛好すべき點もある、けれども猶太人全體として即ち民族として彼等が負はねばならない重荷は、此の民族的不人氣である。現代文明諸國に於て、迫害といふことが全く不可能なる狀態に於てすら猶ほ此の不人氣は存在して居るのである。加之猶太人全體が自ら非猶太人と友情を結ばうと努力しない風もある、是れ恐らく以前の失敗に懲りた故意でもあらうが、然し實際は猶太民族は他民族よりも高等なる人種に屬すといふ

各國朝廷を手に入る

先天的優越感の然らしむる所ではなからうか。其の何れが眞の原因なるにせよ、兎に角猶太人が全力を注いだことは、國王及び貴族等の信用を博するといふ點であつた。縱令國民が猶太人に對して齒を嚙みしめて憤慨することがあつても、國王と廟堂とが猶太人の味方である限り、それが猶太人にとつて何等の痛痒を感じないのは當然である。故に猶太人が最も窮迫せる時代に於ても、尙ほ所謂「宮廷猶太人」といふものがあつて、金錢の貸借や債務といふ係蹄によつて、國王の御前に入り込んだもので、實に猶太人の戰法は「大本營に這入り込む」といふことにあつたのである。例へば露國に於て猶太人は、決して最初から露國民の氣分を和げ之と融和しやうなどゝは試みなかつたが、併し露國朝廷を手に入れることには非常に骨を折つたものである、又獨逸國民に對しても同樣で、妥協的態度には出ないが、併し獨逸の宮廷を手に入れることには成功して居る。英國では國民の反猶太思想が猛烈であつたが、之に對して猶太人は侮慢的に肩をぴくつかせて空嘯いた丈けである、彼等は英國貴族を脚下に從へ、其の掌中には英國取引所死活の鍵を掌握して居るのだ人民の反感彼等にとりて何かあるである。此の「本據を衝く」といふ猶太人の戰法は、猶

太人が諸政府及び諸國民上に有力なる勢力を揮ひ得たことを説明して餘りあるものである更に此の戰法は政府の入用品を何時でも整へるといふ彼等の老巧さによつて、一層其の効力を發揮したのである。某國政府が金を必要とするときには宮廷猶太人は其の調達を斡旋し、他の財界中心地又は他國の首府にある一味猶太人と連絡し直に金を融通した。又甲政府が乙政府に負債を支拂はうとするが、併し巨額の黄金を騾馬の脊に托し强盜匪賊の横行する不安な地方を通過させることは好ましくないといふ樣な場合には、猶太人は易々として甲政府の負債支拂を引き受け、彼等が一片の證書を送付することに依つて、全負債は直に乙首府の銀行で支拂はれた。又始めて軍隊の給養が請負制度となつた時に、此の給養を擔任したのも矢張り猶太人であつた。要之猶太人は資本と組織とを以て居つた許りでなく尙ほ一國民を自己の負債者とするといふ點に頗る滿足を持つて居たのである。

猶太人の此の戰法こそは困難なる數世紀に亘る長年月の間、猶太民族を援助したものであつて、其の効果は頗る偉大なるものである。そして此の戰法は今日に於ても依然踏襲されて居つて毫末も變化の兆候がない。實に猶太民族は人口に於ては誠に微々たるものである

が、今日各國政府に對する彼等の權力は大したものである。此の否定することの出來ない事實は、猶太人が眞に卓越せる民族である所の證據であると、自ら誇示するのも無理のないことである。

尚ほ爰に述べねばならないのは、猶太人は商業上の諸形式に於て常に嶄新なる發明をする能力を持つて居ることであるが、此の發明力は今日に於ても尠しも衰へず依然として次から次へと新發明をなして居る、而も其の土地の模樣、環境の變化に應じて之に順應するといふ適應的性能をも持つて居る。即ち彼等は人に先んじて諸外國に支店を開設し、本店から代理者を派遣して其の地の要求を迅速に滿し得る如くして巨利を博した。大戰間には能く「平和的侵略」といふ言葉が話題に上つたものだが、此の意味は獨逸政府が合衆國に多くの商業上の支店及び獨逸諸會社の出張所を建設し、商賣によつて合衆國を征服するといふことである。合衆國に多くの獨逸の支店が設立されたことは固より爭はれない事實である。けれども之を仔細に觀察する時は、之は決して獨逸人の事業ではなく、全く猶太人の企業であつたのである。元來獨逸人の古い商館は頗る保守的で、到底自ら合衆國に出か

けて行つてまで顧客を求めるような進取の氣象を持つて居なかつたのである。之に反し猶太人の商館は、獨逸人の商館の樣なそんな保守的のものではなく、どし〳〵亞米利加に進入して商品を送つたのである。此の結果遂には獨逸の商館も競爭上猶太人の商館の眞似をせざるを得ざる樣になつたが、しかし最初の著想は猶太人で決して獨逸人の獨創ではない

現代的商業手段たる同類事業の合同も亦猶太財閥の創案した所である、例へば猶太人が最初一發電所を手に入れると、次に彼等は電力を使用する電車をも同じく手に入れるのである。此の目的の一つは全部に亘る利益即ち發電から電車の運行に至る迄の總てから生ずる利益を一つさい合つさい搔き集めようとするのにあるのかも知れないが、主なる目的は斯うである。發電所を所有する所から先づ電車會社に對し供給した電力の價格を上げる、又其の影響によつて乘客に對し乘車賃を上げる、斯くて出資者は全般に亘つて「より多くの利益」を得るのである。而も此の際最後の使用者たる乘客に接する電車會社は、雜費が騰貴したから止むを得ないと辯明するが、其の實は前に述べた通り出資者たる事業所有者が勝手に値上げしたもので、經濟界の不況に依つて餘儀なく値上げしたのではない。

現在世界には明に中心財閥が存在して居る、此の中心財閥は、全世界を賭博用の卓とし「世界支配」を賭金にして、嚴肅なる組織の下に大規模な而も精細に仕組まれた勝負をして居る。現代の文明諸國民は最早、世界狀態の總ての變化は「經濟狀態」に左右されるものである、といふ主張を信用するものは一人もない。是れ「經濟上の法則」といふ假面の下に毫も此の法則に由來しない頗る多くの現象、即ち廣範圍に亘つて、諸國民を自己に隷屬させやうとする所の意志と力とを持つて居る少數の利己心から生ずる幾多の現象をも、包括するからである。

元來財政組織は國民固有のものであるかも知れないが、併し今日に於て財政組織が國家的のものであるとは何人も信じない所であつて、實に財政は今日國際的性質のものである從つて此の國際的財政に競爭があるとは是れ亦何人も考ない所である。それで現在世界には二三の全く獨立した銀行はあるが、確乎たる獨立の銀行は殆んどなく、全活動計畫を明かに洞察して居る大銀行家即ち少數の猶太人が、無數の銀行及びトラストを其の麾下に擁して居るのだ。そして彼等は甲乙各々其の任務を分擔し、其の間毫も齟齬なく完全に協調

が保たれ、又世界的大事業の色々の部分に於ても少しの競爭もない。而も各國の主要なる銀行間には各々其の業務發展上整然と統一した政策があつて、其の有樣は恰度遞信事務と全く同樣に各支局は相互に連繫があり同一の一中心から統制せられつゝ、同一の目的に向つて活動して居るのである。

世界大戰直前に於て獨逸は、莫大なる亞米利加綿花を買收して、此を積出す準備がちやんと整つて居つた。そこで愈々大戰が勃發すると、驚く勿れ此の山の如き綿花の所有權は唯一夜の中に、ハムブルグの猶太人の名前からロンドンの猶太人の名義に變つたのである新聞に此の事が掲載せられて居る間に綿花は、英國で亞米利加の相場より遙に安く賣られ之が爲め亞米利加の相場も下落するに至つた。斯くて價格が十分に下がり切ると、這般の消息に通じて居る人達は、市場綿花の買ひ占めを爲し、玆に綿花は再び暴騰するに至つた此の一見說明に苦しむ樣な騰貴と下落とを木綿市場で行つた所の人達は一方又獨逸を世界的の死屍となすべく魔手を獨逸に伸ばしたのである。即ち此の綿花を支配する某一團は之を紡績する爲め獨逸に送り、獨逸の勞力の代償として製品の一部を御情に與へたのみで、

他は悉く隱匿してしまつた。斯くて彼等は「綿花拂底」といふ虛言を流布して全世界を欺き、莫大な巨利を博したのである。此の人道に背き極度に非道義的なる手段を其の源にまで溯つて穿鑿する時、其の關係者の正體は悉く共通の一性格を持つて居ることが判明する之に依つて見ても大洋の彼方から「猶太人に對し亞米利加自身が覺醒する迄待て」と警告して來るのに何の不思議があらう。

最早今日勞資の狀態は確に經濟上の原因から說明することが出來ないし、又無論「資本家の橫暴」といふことからも說明の出來ないものである。今日程資本家側が勞働者側の要求を適へる樣に骨折つて居る時代は過去には決してなかつた、又勞働者側としても新に資本家側に承認させることがもう殆んどない程最大限の所まで行つて居るのである。然し勞資兩者は此の勞資爭議により如何なる利益を得たか、從來勞働者側は、資本家は自分達の上を覆つて居る暗雲であると、考へて居つたものだが此の暗雲は今日では最早除けられてしまつて居る。然るに見よ勞働側の上には先の暗雲よりももう一つ高き雲が尙ほあるではないか、此の雲は資本家側も亦勞働者側も、昔の勞資爭議の時には一度も見たことのな

いもので、而も此の雲は今日に至るも消失せずに依然として存在して居るのである。

亞米利加で「資本」と稱せられて居るものは、通常生産の目的に使用される金のことである。然るに吾人は誤つて、工場主、事業管理人、器材及び勞力の供給者を、「資本家」と總稱して居るが、之は大きな間違である、此の人達は眞の意味に於ての資本家では決してない。此の人達も亦自已の計畫を具體化し、經濟を實行して行くのにはどうしても眞の資本家のもとに行かねばならないのである。即ち眞の資本家とは、此の人達の上にある或る力で此の人達が嘗て勞働者を取扱つたよりも、もつと苛酷で無慈悲な取扱ひを、此の人達に向つてするのである、勞資が相爭つて居るのは實に現代の悲劇中の一つである、勞資双方がそれに對して反抗して居る狀態、勞資共に其下で惱んで居る狀態、此の狀態を改良することは今日尙ほ勞資双方の力で爲し得ない所であつて、此れを解決する爲めには、國際的財閥から成る眞の資本家團の世界支配力を奪ふ方法を發見せねば駄目である。何んとなれば實に此の資本團こそ右の様な狀態を造り且つ利益を悉く占有してしまうからである。

今此の世界には「金即ち幸福なり」との謬見者のみを抱いて居る「超資本主義」がある

又何の國の政府とも聯盟せず、何の國の政府にも從屬せず、而も各國の政府を壓迫する「上級政府」が存在して居る。何時の時代に於ても又何處に行つても決して好愛せられたことがないといふ一民族即ち人類の一部が存在して居る。併し此の民族は最も强大なる民族すら嘗て要求したことのない程の勢力、羅馬が其の權力最も强盛だつた時代にすら要求し得なかつた權力を持つて居るのである。今や世界の人々は「先づ超資本主義的國際的支配といふ問題の始末を付けてしまへば、其時こそ勞働問題、勞銀問題、土地問題等は自ら解決される」とい確信を次第に持つ樣になつた。

「獲物は勝者のものなり」といふ古き言葉がある。久しき間侮蔑せられて居つた少數の猶太民族が、今や勝利者となつて居るのであるから、或る意味に於て猶太人は、非猶太人が到底抵抗し得ない程の超人間であらねばならぬ。若し然らずんば爾餘の民族が猶太人をして不當にして不安なる權勢を得しめたのであるから凡くらに過ぎない譯である。即ち猶太人が超人間でないとするならば「非猶太人」は今日の如き結果を將來した當の責任者であるから、自分自身を非難せなければならない。宜しく非猶太人たる者は此の新しき著眼

を以て事情を能く觀察し、尙ほ他の諸國の經驗を光明の下に照らして研究せねばならない。

二　猶太人に對する獨逸の反動

古き昔に於ては病氣になると之れを隱匿し、羞耻と秘密の幕で病氣を掩はねばならないと信ぜられて居つた。併し今や人々は公然と病氣の治療をして敢て耻づかしいとか、隱くすとかいふ樣なことは少しもない樣に進步した。人體の病氣に就てはさうであるが、政治上の疾患に對する醫術といふものは、まだまだ其處までは進んで居ない　抑々獨逸國民の疾患の主原因は猶太人の影響に歸すべきものである。此のことに就ては銳敏な頭惱の持主は、旣に數十年前から洞察して居つた所であるが、今ではどんなに頭の悪い人達でも明かに承知する樣に成つた。獨逸の政治的全生命は、實に猶太人といふ悪疾から根本的に轉覆された。此の事實は最早之れ以上長く押し隱くすことの出來ないことである。各階級の獨逸民は今大戰終熄後の瓦解及び革命は、之れ皆猶太人の奸計、猶太人の計畫による仕事で

あると今日では信ずるやうになつた。以上のことは獨逸に於て確信を以て主張せられ、又此の主張を證明する爲めに幾多の事實が提供され、尙歷史は必ずや將來十分な證據を示すこと〻確信されて居る。

獨逸國の猶太人は、唯獨逸國民の客分と見做されて居るに過ぎない、然るに猶太人は自ら獨逸國の主人たらんと努力したのである。凡そ世の中に純日耳曼人種と純セム人種程大きな反對性を持つて居るものはない、從つて兩人種間に毫末の一致點もなければ、又少しの融和の可能性も存在じて居ない。獨逸人は猶太人を客と見做して居るのに、猶太人の方は獨逸人の有する總べての權利と全然同一の權利を承認せられて居ないことを憤慨し、主人たる獨逸國民に對して非常な反感を抱いて居つた。他の諸國では猶太人は容易に其の國人と融合し、又猶太人の權力伸長に一向支障なかつたが、獨逸では全く之れと趣を異にした。斯ういふ譯で猶太人は頗る獨逸國民を憎んだ。此の結果猶太人が最大の勢力を振つて居る國々も亦大戰間、獨逸に對して最も甚しい憎惡を表示し、猶太人が言論界を殆ど獨占的に掌握して居る所からして、彼等は其の新聞に依つて獨逸國民に對する所謂世界の「輿

論」なるものを作つたのである。

世界大戰に於ける唯一の勝利者それは實は猶太人であつたのである。併し斯う主張した丈けでは不十分である、此の主張が正しいといふことを證明するの必要がある。吾人は今事實を穿鑿して見やう。獨逸が舊政府から新政府へ移つた其の時既に如何であつたらう？即ち獨逸國政府に代つたものは、六人制内閣で、此の内閣の代表人物は實に猶太人のハーゼ(Haase)とランヅベルヒ(Landsberg)であつた。ハーゼは外務を統轄し、之れが補佐役となつたものは、猶太人のカウッキー(Kautsky)である。カウツキーはチエック人で一九一八年には未だ獨逸國民たるの權利を持つて居なかつた者である。其の他コーン(Kohn)もヘルツフェルド(Herzfeld)も共に猶太人だ、猶太人シツフェル(Schiffer)は藏相であつて、猶太人ベルンスタイン(Bernstein)に依つて補佐された　内相になつたのは猶太人プロイス(Preuss)だ其の女房役はフロインド(Freind)といふ猶太人の博士だ、コペンハーゲンのフランクフルト、ツァイツング„Frankfurter Zeiting"紙の通信員たる猶太人フリッツ、マックス、コーエン(Frity Mex Cohen)は遞信事務の長官となつた。

獨逸國中央政府の狀態既に右の如くである、况んやプロイセン王國に於てをやだ。プロイセン內閣を統率したのは猶太人ヒルシュ(Hirsch)及びローゼンフェルド(Rosenfeld)でローゼンフェルドは司法省をヒルシュは內務省を主宰した。猶太人シモン(Simon)は大藏大臣となり、プロイセンの大藏省は完全に猶太人が占領する所となつた。敎育機關の總長は露西亞の猶太人フトラン(Futran)で次長は猶太人アルント(Arndt)である。殖民局長になつたのは猶太人マイエル、ゲルハルド(Meyer Geruhard)である、猶太人カステンベルヒ、Kastenberg)は美術課の長官となり、陸軍給養局は猶太人ヴルム(Wurm)の掌中に移つた。經濟省には猶太人ドクトル、ヒルシユ(Dr Hirsch)及び樞密顧問官ドクトル、スタツトハーゲン(Dr. Stadthagen)が居つた。勞兵委員會を統率したのは猶太人コーエン(Cohen)である。猶太人ステルン(Stren)、ヘルツ(Herz)、リヨーヴェンベルヒ(Lövenberg)、フレンケル(Frankel)、ラエロウイッツ(Ysraelowitz)、イスラウベンハイム(Laubenhim)、ゼーリヒゾン(Selrgsohn)、カッツェンスタイン(Katzenstein)、ラウッフェンベルヒ(Lauffenberg)、ハイマン(Heimann)、シュレシンゲル(Schlesinger)、メルツ(Merz)及びヴェイル(Weyl)は

右委員會内にて諸種の職を持つて居つた。

猶太人エルンスト（Ernst）は伯林の警視總監になつた、フランクフルト、アム、マイン（Frankfurt. a. M.）の警視廳では、猶太人ジンツハイメル（Sinzheimer）が、エッセン（Essen）では猶太人レヴィイ（Levy）が總監であつた。猶太人アイスネル（Eisner）はババリアの大統領となり、其の大藏大臣は猶太人ヤッフェ（Yaffe）で、ババリアの商業、交通、工業は半猶太人ブレタノ（Brentano）の隷下にあつた。猶太人タールハイメル（Thalheimer）及びハイマン（Heimann）はヴュルツテムベルヒ（Wiirttemb7y）國所管省内に、猶太人フルダ（Fu'da）はヘッセン（Hessen）國に活躍して居つた。

平和會議の獨逸正式代表は二人共に猶太人であつて、副代表は猶太人の利益を圖ろに有名なる人物であつた、此の外代表派遣使節の一行中には猶太人の専門家や顧問等が蝟集して居つた、即ちマジクス、ワールブルグ（Max Warbnrg）ドクトル、フォン、ストラウス、（Dr. V. Strauss）メルトン、（Merton）オスカル（Oakar）、オツペンハイメル（Oppenheimer）ドクトル、ヤッフエ、ドイチュ（Dr. Yaffe Deutsch）、ブレンタン（Brentano）、ベルンスタイ

ン、(Bernsteein)ラーテナウ(Rathenau)、ワッサーマン(Wassermann)、メンデルスゾーン(Mendls-ohn)、バルトールド(Bartholdy)等の類である、

此の外平和會議に他の諸國の猶太人も參列して居つたことに就ては、公平なる立場にある非猶太人通信員の記事を讀んだ人々は、何人も確實に知り得た所である。非猶太人通信員の目には、斯の如く多くの猶太人が平和會議に參列して居るといふ事實が奇異に感ぜられたらしい、そこで之れを掲載したのだらう。併し猶太人の記者は、斯樣なことは默つて居る方が賢こいやり方だと考へたせいか、一言も此のことには言及しなかつた。

獨逸に於ける猶太人の活動は、大戰間特に熾烈となり、遂に表面に現はるゝに至つた。そして其の活動は隼の如く敏速にして而も綿密確實、人をして萬事は既に以前より計畫準備せられて居たのではないかと疑はせた程である。獨逸の猶太人は大戰間決して獨逸に忠實なる愛國者ではなかつた、此のことは獨逸に敵意を有する諸國民の目から見れば、何等非難に値ひすることでもなく、寧ろ當然のことゝ見ゆるだらう、併し是れを深く考へて見れば、猶太人は決して自已の住んで居る國に對して、忠節の念を有するものでないといふ

ことを、明かに證明するものと見なければならない。尙獨逸の思慮ある人々は、是れを仔細に觀察し、次の理由よりして、猶太人が愛國者たることは不可能なことゝ考へて居る。

即ち各方面で主張されて居るのは、曩に列擧した猶太人等は、革命がなかつたならば、あの樣に重要なる職を占むることは確かに出來なかつたらうし、又猶太人が革命を起しさへしなければ、革命等は決して起らなかつたらう、といふのである。獨逸の諸狀態は確かに滿足なものではなかつた。併し此の不滿足な狀態は、何にも猶太人の手をかりなくとも獨逸國民自身の手で始末し得るものであり、又獨逸國民は確かに始末した筈である。けれども旣に獨逸國民は、猶太人の勢力によつて公德は破壞され志氣は阻喪して居つて、復之れを改善することは不可能な狀態になつて居つたのである。

獨逸の國家的秩序を破壞した原因と見るべき猶太人の最も主要なる影響は、槪ね之を次の三つに區分することが出來る。（一）社會民主々義といふ假面を被つて居つたボリシェウィズム。（二）猶太人が言論機關を掌握して居り且つ新聞界に絕對的勢力を持つて居つたこと。（三）猶太人が食糧品供給及び工業界を管理して居つたこと。尙此の外「物價釣

用をなしたものである。

獨逸に於ては猶太人が跋扈して居る、從つて右の三影響に就きて論ぜられた所の獨逸人の意見は、猶太人の勢力下で作られたものだと言ふので、ひよつとすると一般から疑問を以て迎へられるかも知れない、それであるから此處には、ロンドンのグローブ(Globe)の記者ジョージ・ピツター・ウィルソン(George Pitter Wilson)の言を引用することゝする

此の人は一九一九年四月、既に次の樣な記事を書いて居る、即ち「ボルシェヴィズムとは全世界の基督教諸國民から、殘らず財力を奪ひ取り、そして猶太人全部が團結して世界の覇權を共の掌中に收め、勝手氣儘に之を統治しようといふ主義のことである」と。又獨逸の猶太人は既に大戰第二年に次の樣なことを宣言して居つた、「獨逸國の敗北は無產階級の向上の爲めに是非共必要である」と、又ストリョーベル(Ströbel)は「私は公然と告白するが、獨逸が十分なる戰勝を得れば決して社會民主黨の爲めにはならない」と述べて居る。茲に加之到る所で「獨逸が勝てば無產階級の擡頭は不可能である」と宣傳されて居つた。

擧げた例は單に少數の實例に過ぎない。斯の如き例はまだ幾何でもある。以上の諸例の引用は、何にも大戰問題を玆に展開しようとするのではない、所謂獨逸の猶太人が、如何に彼等の住んで居る獨逸國に對して忠誠を忘却して居つたかといふことゝ、如何に彼等が爾餘の國の猶太人と聯合して獨逸國の滅亡の爲めに活動したか、といふことを示したいからである。それならば何故に彼等か獨逸の滅亡を策したかと言ふに、獨逸國を軍國主義から解放せんが爲めにしたのでは決してない、此のことならば凡そ思慮ある獨逸人は皆希望した所であるが、併し彼等の目的とする所は、獨逸國の秩序を破壞し混亂せしめんが爲めであつたのである。蓋し彼等は混亂に乘じて支配權を奪取し得るからである。

最初獨逸の新聞界の猶太記者は、斯の如き企圖を秘して表面には現はさなかつたが、後には大膽にも公然と此の論旨を明瞭にするに至つた。ベルリネル、ターゲブラット „Berliner Tageblatt“ 及びミユンヘネル、ノイエステン、ナハリヒテン „Münchner Neiiesten Nochrichten“ の兩紙は、大戰間政府の官報であつたが、兩紙共猶太人の所有で全然猶太人の支配する所であつた、又フランクフルテル、ツァイツング紙 „Frankfurter Zeitung“ 初

戰時需用品の獨占

志氣の不振

め小新聞の大多數も亦猶太人と氣脈を通じ猶太人に從屬して居つた。今日獨逸人は此の狀態を許して、此等の諸新聞は寧ろ協商側の猶太新聞が發行せられて居ると見るべきが至當であつて、其目的とする所は同一であると言つて居る。今や猶太系新聞は即ち公共の新聞となつて居つて、日々世界の思想を製造しつゝ、全世界に於て互に結合協同して居る事實に就いては、眞面目に考究するの要がある。是れ彼等の記事が如何なる秘密の目的を以て、日々準備せらるゝものであるかといふことを人類全般に示す必要があるからである。

大戰勃發するや、食糧及び補給品は迅速に猶太人の手に移り、不正行爲は盛に行はれた爲めに、戰場の勇士達の祖國に對する信頼心は薄らぎ始めた。勿論獨逸國民は他の總ての愛國的國民同樣・戰爭なるものは、即ち之れ犧牲と苦痛を意味するものである、といふことをよく知つて居つたし、又此の何人も等しく受けなければならない運命に堪ゆるの覺悟をして居つたのである。然るに獨逸國民は猶太人といふ一階級が、彼等の凡てのものを奪ひ一人巨利を占めて居ることを知るに至つた。彼等は凡て國民の必需品を思惑買を爲し又は中間に介在して、利益を占め得る所には必ず活動して居つた、即ち諸銀行、戰時用品に關

係ある諸會社、釀金事業、補給機關等到る處猶太人が活動して居つて、豐富なる物資を隱匿し、次いで價格暴騰するや再び品物を吐き出した。戰時必需品に關係する諸會社は全然猶太人の勢力範圍であつて、苟くも金さへあれば何んなものでも切符なしに買ふことが出來た。勿論政府としては國民全般の爲めを思ひ、食糧品を均等に分配することに極力努力したが矢張り其効がなかつた。猶太人は不正手段によりて盛に品物を手に入れ、之れを三倍にも高く賣ると言ふ有樣である、從つて金は川の如く猶太人の金庫は流れ込んだ。政府の食糧品見積類等は、猶太人の投機者が買ひ集め秘密に隱匿貯藏する爲め、全然信用の出來ない有樣であつた。此が爲め國民の志氣は沮喪し、不平は起り訴訟が始まつたので政府は遂に暴利を取締り處罰するの手段に出たが、如何せん被告も裁判官も悉く猶太人であつたからして、暴利取締も有耶無耶となり、一向其の効がなかつたのである。但し獨逸商人が捕へられた場合は、喧々囂々と大袈裟に騷ぎ立てられ、嚴罰に處せられるのが常であつた。若し讀者試みに獨逸國を普ねく遍歷して、國民の言ふ所を聞き國民の氣分を研究して見たならば、必ずや猶太人の勢力亂用は、恰も熱鐵の如く獨逸人の腦裏に强く燒きつけら

れて居ることを知るであらう。

政府の頭上に策動せる猶太人

右の如く猶太人が一方には多數の國民の脚下に作用して居つたが、又一方には更に高級猶太人は政府の頭上に策動して居つたのである。即ちベートマン(Bethmann)政府の顧問の顏觸れは、次の樣な猶太人達であつた。即ち大海運業者猶太人バリン(Ballin)、汎猶太新聞の同人である所のベルリーネル、ターゲブラット(Berliner Tageblitt)のテオドル、ウォルフ(Theodor Wolf)、獨逸銀行頭取にして猶太人大銀行家スパイエル(Speyer)と姻戚關係にあつた フォン、ゲヴィンネル、V. Gevinner それから猶太人の工業及び財政上の諸企業團體の統率者であるテーラナウ(Rathenau)等であつて、是等猶太巨頭が政府要路を擁して政府勢力を振つて居つたことは、恰度他の猶太人が國民に對して居つたと同樣であつた。

富裕銀行と貧乏猶太人

富裕なる獨逸猶太人は其の擁する財的勢力によつて、自己の欲する儘に經濟生活の各方面に亘り、社會的の地位を獲得することが出來た、是れ經濟生活の各方面には、獨逸の支配階級が直接關係して居つたからである。然らば貧困なる猶太人は、如何にして自己の欲

右傾猶太人と左傾猶太人

求を貫徹したらうか、抑々全猶太人には之を一貫する一つの衝動ともいふべきものがある此の衝動は實に彼等猶太人の血液中に存在するものであつて、即ちそれは支配權を掌握せんとする希望である。此の希望は貧富の別なく悉くの猶太人を鼓舞激勵する所の共通要素であるのだ。猶太人の富裕階級が獨逸上流を侵蝕したのは其金力に依つたのであるが、貧困なる猶太人の民衆侵蝕は、金力によることが出來ないから、唯彼等が擾亂に乘じて掴み取つたものを用ふる外途がない、而も彼等が獨逸國民の大部を征服したことに就ては探究するの必要がある。

抑々猶太人は決して無政府主義者(アナルキスト)ではない、又決して破壞主義者でもない。併しながら猶太人は世界的過激派(ボルシエヴイキイ)であつて、獨逸に於ては卓越せる革命家である。猶太人の無政府主義(アナルキズム)は決して純眞のものではなく、彼等に取ては或る一定の目的を貫徹する爲めの一手段に過ぎない。又富裕猶太人は、決してアナルキストたることはない、何んとなれば彼等は金力といふ頗る巧妙な手段によつて目的を達成し得るからである。けれども貧乏な猶太人に至つては、何等の資材をも持つて居ないのであるから無政府主義を方便として使用するの

だ。茲に於て吾人は左右兩極端の猶太人同志の間に抗爭が起りはすまいか、と思ふが決してさうではない。富裕猶太人と貧困猶太人は、長く相共同提携して進み、互に同民族であるといふ感情の絆は、決して兩者の間を引きさくことはない。何故かなれば、若し無政府主義(アナルキズム)が成功すれば貧困猶太人は、富裕猶太人と相並んで地位を得べく、又若し無政府主義が失敗すれば、貧困猶太人は現狀を維持するだけであるが、其の代り富裕猶太人には尠くも活動し得る新舞臺が展開さるゝ見込みがあるからである。

獨逸の貧困猶太人達は、獨逸人といふ柵でとりまかれ、その柵内に閉ぢ込められて居つたから、柵外に出る爲めには、此れを破壞するより外に致し方がなかつた。露西亞に於ても同樣である。社會秩序が嚴存する限り、猶太人は或る位置内に閉ぢ込められて居つて、自由の境涯にはなれなかつた。是れは從來の經驗上斯うして置くのが一番其國の爲めに無難で、猶太人から禍害を受けることが一番輕くて濟んだからであつた。其れは恰度人體內に外界から一異物が侵入して來た時、人體の作用は自然に此の異物を包圍してしまうと同じ樣な關係に、猶太人と諸國民とはなつて居つたのである。然るに近世に至つて猶太人は

此の國民の柵を破壞し、國民といふ一つの大きな建物を瓦解させ、斯くて發生した暗黑と混亂に乘じで從來燃望し來つた地位を獲得するの手段方法を案出するに至つたのである。露國が崩壞した時、其時先づ現はれた人物は何人であらうか、猶太人ケーレンスキイである。けれど猶太人ケーレンスキイの諸計畫は過激政府ではなかつた。從つて彼は失脚し次いでトロツキイが權を握つた、彼も矢張り猶太人である。トロツキイは亞米利加の社會組織が頗る堅固で、到底破壞し得ないものであると認めたから、先づ最も薄弱なる露國を突破して之を自家藥籠中のものと爲し、是れより漸次全世界を席捲しやうといふ意志を有して居たのである。露國の各委員は殆んど皆猶太人である。露國の革命當時の狀態を叙述した人々は、露國は混亂狀態にあつたと述べて居るのが通常である、或はさうかも知れない併し露國の猶太人政府に對する評としては決して當つて居ない、露國猶太人は、其の猶太政府を根據として少しも紊れず、正々堂々の陣容を整へて進み、其の狀は宛然豫定の方針に基き人爲的に造つた擾亂に乘じて、著々轉覆作業を進捗せしめたと見るべきものである獨逸に於ても全然露國と其の軌を一にした。貧困猶太人達は自己の野心を滿たさんが爲

め、獨逸人の鐵柵を壞滅しやうと努力したのである。一度破口が造らるゝや、彼等は破竹の勢を以て之に突入し、斯くて國民を支配する主要なる位置は悉く彼等の占有する所となつたのである。

此のことは猶太人が、何故に破壞運動に其の力を注ぐのであるか、といふことを說明するものである。合衆國に於て靑年猶太人等が一つの思想宣傳に努力して居ることは周知の事實なるが、此の思想の具體化は即ち合衆國の滅亡を意味するものなのである。彼等の攻擊の目標は勿論「資本主義」なる語で表はされて居るが、併し此の資本主義は猶太人以外のものを意味し、其の眞の目的とする所は、現今の「非猶太人」による世界支配の轉覆にあるのである。抑々實際の資本主義者、即ち資本を擁して居る資本家といふのは猶太人である、故に猶太人が資本主義の殲滅を欲するとは、どうしても首肯し得ぬ所であつて、實に彼等は資本の獨裁的支配を爲さんことを欲し、旣に遠き昔より其の希望に向ひ著々として功を奏しつゝあるのである。

獨逸並に露國に於て知り得るが如く、吾人は富裕猶太人と貧困猶太人との間には、方法

に自ら差異あることを認めねばならない、即ち一は政府に向ひ他の一は國民の氣分に向つて居るものである、併しながら兩者共其の手段は同一の目的に向つて集中されて居るのである。猶太人の下層階級が使用する手段は、唯壓迫を排除しやうといふ目的に向つて努力して居るのみでない、更に支配權をも奪取せんと企てゝ居るものである、即ち彼等下層階級の方法の本體は、權勢を得んとの意志達成にあるのである。即ち獨逸人が深く此の點を洞察するときは「革命は權勢を得んとする猶太人の意志の表現なり」と斷ずるを得やう。社會主義者、民主々義者、自由主義者の如き各派の人々も、實は此の猶太人の意志表現の道具たるに過ぎないのだ、所謂「プロタリアの獨裁」は事實上猶太人の獨裁でなくして何んであらう。

第二線に退却

扨而獨逸人はスラブ民族のやうな茫然たる民族ではない、眼前に猶太勢力の横暴を見るや、玆に俄然として覺醒し、熾烈なる敵愾心を以て猶太人の畫策に對し、疾風迅雷的に反抗運動を開始するに至つた。其の結果猶太人間には「第二線に退却」といふ標語が發せらるゝに至り、國民と直接觸接する職務に居つた猶太人は悉く袂を連ねて其の職を辭するに

至つた。併しながら此に依て猶太人が、權勢を得んとの意志を拋棄したものと見るべきではない、獨逸の將來は如何になり行くかといふことは到底逆睹すべからざるものがある。併しながら獨逸人が其將來に對し善處しつゝあることは疑ひなき所である。既に露國は猶太人の豫定の如く既に全く轉覆せられて、其の震動は全地球を震駭しつゝあるのである。

今生粹の獨逸人及び露國人の猶太問題に關する意見を總括して、之を約言すれば次の如くである。

猶太人は世界中で最も緊密なる組織を有する一勢力であつて、彼等は一國家を形成し、其の猶太勢力の嚴肅なる組織は、到底英國の所謂世界的國家等の及ぶ所ではない。彼等國民は其の居住地の何處なるを問はず、又貧富の如何を問はず悉く猶太國に對し不變の忠實を以て服從して居ると。

此の世界各國に跨る猶太國家を獨逸では「汎猶太國」と稱して居る。そして汎猶太國の國是遂行の手段は「資本主義」と「新聞主義（ジャーナリズム）」即ち金と宣傳である。

世界各國の中「汎猶太國」のみが世界政府を有する唯一の國家であつて、他の總ての諸

國は單に自國民に對して支配權を行使し得、且つ行使せんと欲するもの許りである。

汎猶太國の主なる事業は「ジャーナリズム」である、近世猶太人の技術的、科學的及び文學的事業の悉くは、徹頭徹尾ジャーナリズムの性質を持つて居るものである。是れは猶太人が他人種の思想を受け容るゝ驚くべき天才に起因して居るのであるが、資本及びジャーナリズムは相結合して新聞となりて現はれ、今や新聞は彼等が支配權獲得の方法手段となつて居るのである。

それで此の汎猶太國の管理行政は、實に驚く程組織立つたもので、巴里は嘗て其第一の國都であつたが、今では第三番目の位置に下がつてしまつた。大戰前には倫敦が汎猶太國の第一の首府で、紐育は第二の都であつた、併し大勢が米國に向つて居るから將來は紐育が倫敦に代つて第一の首府となるだらう。

汎猶太國は國民はあるが固有の國土がない、從つて陸海軍の常備軍を維持する譯には行かないから、他の國家をして汎猶太國の爲めに陸海軍を維持せしめて居る。即ち汎猶太國の海軍とは英海軍のことである。事苟くも海上の通商上に關しては、英國海軍は猶太の世

界支配權を他の侵略に對して保護し、其の代りに汎猶太國は英國に對して、其の政策及び領土上の支配權が阻止せられない樣に保證して居る。彼のパーレスタインを汎猶太國が英國の統治下に委ねたのも自然のことである。又汎猶太國の陸軍が存在して居つた所（如何なる國の軍服を纏つて居たにしろ汎猶太國の陸軍と見做す可きものがある）に於ては、此の陸軍は通常英國海軍と提携して活動して居つたのである。

汎猶太國は世界各地の行政權を、喜んで其の國々の政府に委ねて居るが、其の要求する所は單に之れ等諸政府の上に及ぼす管理調節權だけである。猶太人は非猶太人の世界が、各國民に永久に分割されてゐても、そんなことは毫も意に介して居ない寧ろ喜んで居る。又猶太人自身は他の國民の中に吸收され、之れと同化してしまう樣なことは決してない、猶太人は其れ自身一國民である、過去に於ても常にそうであつたが、將來に於ても亦常にさうであらう。

汎猶太國が、他の國民と爭ふのは、他國民が一國の工業的及び財政的利益を自己の勢力下に置かんとして、之れを猶太人の手から奪はんとする時のみであつて、此の時こそは猶

太人は敢然起つて其の國と爭ふのである。汎猶太國は戰爭を惹き起すことも出來れば、又、平和を作ることも出來る。又頗る頑强な場合には Anarehie 無政府主義（アナルキイ）を勃發させることも出來れば、秩序を恢復することも出來るのである。實に猶太人は人類の神經と髓とを意の儘に操縱して、汎猶太國の國策遂行を促進せしむる如くするものである。

汎猶太國は世界の通信の本源を制して居る、從て汎猶太國は世界輿論を自己が次に行はんとする計畫に有利なる如く準備し得るのである。汎猶太の此の通信の作爲法と人心を誘導して自己の一定目的に對して都合のよきものにする方法は、吾人の大いに注意研究すべき點である。併し若し有力な猶太人の行爲をば探り、其の手を摘發暴露するものあれば、直に「迫害」の叫び大となり、世界の全新聞は一齊に之れを攻擊するのが常である、而も其の迫害の眞原因（例へば猶太人の非猶太人に對する財的壓迫）は決して世界公衆に徹底することはない。

汎猶太國は其の副政府を倫敦及び紐育に置いて居る。彼は既に獨逸に復讐した、今や他の諸國民の征服の爲めに步を進めつゝある。英國は既に其の魔手に苦しむこと久しい。露國は最早 問題ではない、合衆國は全人種に對して善良なる寛容性を有して居る國である

が、併し今や汎猶太國にとつて有望な戰場となつて居る。活動の舞臺は轉々と移り變つて居るが、猶太人は數百年を通じ依然たる猶太人である。

三、合衆國に於ける猶太人の歴史

今亞米利加合衆國に於ける猶太人の歴史を述ぶるに當つて先づ其の概念を得る爲め、ウァーナー・ゾムバルト（Werner Sombart）の「猶太人と經濟生活」を摘錄して其の主張を見やうと思ふ。ゾムバルトは該書の三十八頁——四十三頁に斯う述べて居る。

「最初一見した所北亞米利加の經濟組織は、猶太人とは無關係で、全然獨立して發達した樣に見える………併しながら予は、合衆國は津々浦々に至る迄猶太的精神が充ち滿ちて居ることを斷乎として主張するものである。（恐らく他の國よりも甚しからん）是れは一人予が主張する許りではない、各方面の人士就中此のことに關し正當な判斷を下し得る立場にある人々の等しく認むる所である………

苟くも斯の樣な事實がある以上、合衆國の今日あるのは、之れ猶太人の御蔭であると主張するが誤つて居るであらうか？　若し誤つて居ないとすれば益々猶太人の勢力が、現在の合衆國を造つたと斷定し得るのである。又今日亞米利加の狀態それが眞に亞米利加式のものだらうか、若し無遠慮にいふならば、吾人が亞米利加魂と稱して居る所のものは、實は淨化されたる猶太人精神に外ならぬのである」と

抑々亞米利加に於ける猶太人の歷史は、クリストフア●コロムブスから始まる。一四九二年八月二日三十餘萬の猶太人が西班牙から放逐された、此の事件以來西班牙の强國たるの地位は、徐々に降下し始めた。翌八月三日コロンブスは數名の猶太人を伴つて西方に向つて出帆した。併し此等の猶太人をば逃走者と見るべきではない、何んとなれば此の大膽なる航海者コロンブスの計畫は、追放の行はれるより遙か以前既に有力な猶太人の興味を刺激し、大に同情を集めて居つたからである。記錄に依つて見るとコロンブス自身も「予は大に猶太人に同情し相慰めた」と語つて居るが、彼の母は猶太系であつた。コロンブスが亞米利加發見の次第を詳述した所の最初の手紙、それも實に或る猶太人宛に出されたもので

ある。尙事實に於て、赫々たる成功を收め、未知の世界の半を世人に紹介し、人類の幸福に至大の貢獻を爲した此の紀念すべき航海は、猶太人の力によりて可能とたつたものである。世間ではコロンブスの航海に要した經費は、イサベラ女王が自分の寶玉を賣つて整へたと、一の美譚として傳へて居るが、少しく硏究して見るとさうではないのである。抑々當時西班牙の宮庭には、三人のマラノス(Marranos)即ち非常な權勢を有する「秘密の猶太人」があつた。其の一人はルイ・デ・サンタゲル(Luis de Santagel)といひ、彼はバレンシア(Valencia)の豪商で又王室の地租管理者であつた。又他の一人は彼の親戚たるガブリエル・サンチェズ(Gabriel Sanchez)といふ者で、此の者は王朝の大藏大臣であつた。今一人はやはり此の二人の友人で、侍從職なるジュアン・カブレロ(Juan Cabrers)といふものであつた。此の三人は絕えずイサベラ女王に王室財產の窮乏を說明し、若しコロンブスが印度の謎の寶庫を發見しさへすれば、巨萬の富を贏ち得ることが出來ると、盛んに女王に炊きつけたのである。其の結果女王は之を信ずるに至り遂に意を決して、自己の寶玉を航海費用調達の抵當として交付することにした、併しながらサンタゲル(Santagel)は彼自身も

費用の一部を支出せんことを切望し、女王の許しを得て自ら一萬七千デカツト(Dukaten)即ち約二萬弗(Dollar)を支出したのである、今日の金額に見積ると約十六萬弗に相當する恐らく此の貸付金はコロンブスの探險費を償ひ得て餘りあつたらうと思はれる。

コロンブスと五人の猶太人の航海

コロンブスと一緒に航海した中に、少くとも五人の猶太人があつた。即ちルイス・デ・トレース(Luisde Torres)は通譯として、マルコは(Marco)外科醫として、ベルナル(Bernal)は內科醫として、此の外にアロンゾ・デ・ラカーリエ(Alonzo de le Calle)及びガブリエル・サンチエズ(Gabriel Sanchez)が一緒に航海して居る。航海者コロンブスの用ゐた天文機械及び地圖は之れ亦猶太人の發明したものであつた。

煙草使用の發見者

亞米利加に上陸した一番乘りはルイス・デ・トレス(Luis de Torres)で、彼は又煙草の使用を第一に發見した人である、トレスは後に玖玻に土著したが、實に彼は現今煙草業を猶太人が支配するに至つた元組といふべきである。

コロンブスの後援者たるルイス・デ・サンタグル(Luis de Santagel)及びガブリエル・サンチエズ(Gabriel Sanchez)の兩名は、勿論此の功勞者として、夫々幾多の特典を得た、然るに

コロンブス自身は、新大陸發見の報酬として船醫ベルナル(Bernal)の奸策の犠牲となり、不當なる虐待を受け牢獄に幽閉の苦みを受けたのみである。

猶太人は最初から亞米利加を有望な土地として見込んで居つた、それで彼等は盛んに南米殊にブラジルに向つて移住し始めたが、ブラジル人と和蘭人との間に爭を生じ、干戈を交ふるに至つたからして、ブラジルの猶太人等は、ブラジルより去るを賢明なりと考へ、當時の和蘭領殖民地に移住した、此が今日紐育のある所である。其の時和蘭の總督はピーター●スツィヴエザント(Peter Stuyvesant であつた、彼は自國の國民間に猶太人の居住するを欲しなかつたからして猶太人に立退きを要求したが、其所が猶太人である、決して歡迎されないことは萬々承知してゐながらも、百方手段を盡くして到頭和蘭殖民地に入國するの許可を得てしまつた。即ちスツィヴェザント總督は猶太人立退命令を撤回したのである之れと同時に和蘭商業會社の重役連は、猶太人入國許可の理由として、猶太人が會社に資本を提供したことを公示して居る、是れが彼等入國運動の爲めにとつた手段なのである。けれども總督は、猶太人に公職に就くこと及び小賣業に從事することを禁止した、此の結果

猶太人は海外貿易に向つて發展するに至り、彼等が歐洲と連絡ある爲め忽ち海外貿易を獨占するに至つた。

以上述べた所は猶太人の發明的才能は實に幾多の試練を經て益々發揮されて居る、といふ一例を擧げたに過ぎない。常に彼等は一方面に於て禁止せらるゝときは、他の方面に向つて發展し、赫々たる成功を收めて居る。彼等は新調の衣服の商賣することを禁ぜらるゝと、直に古着の商賣を始めた、是れ實に古着商に於ける組織的取引の起源である。又猶太人は商品を商ふことを禁ぜらるゝや、直に屑物買開始した、實に彼等は世界に於ける屑物利用事業の開祖なのだ、又猶太人は難破船救助事業の發案者で、文明の破棄物の中に能く富を求めた。更に又猶太人は古き繿縷利用法、古き羽毛の清淨法、沒食子及び兎皮の使用法を人類に傳授したものである。元來彼等は毛皮商賣に特に興味を持つて居り、現在に於ても毛皮商賣は猶太人の掌握する所である、今日普通の毛皮でありながら種々の誘惑的名稱の下に、高價なる毛皮として取引されて居るものが隨分あるが、之れ皆猶太人の考案に成るものである。今や「再び新らしきものにする」といふ思想は、猶太人に依つて商賣上普

通に行はるゝまでに至つて居る。地上の廢物を有價物に變じ貧困から富裕となつた初期の猶太人の如く、今日に於ても屑屋商賣を爲して居る猶太人は歐米に屢々見受ける所である。

曩に述べた和蘭總督ピーター・スツィヴェザントは、全く意識せずに猶太人を驅つて紐育を亞米利加主要の貿易港たらしめたものである。亞米利加獨立戰爭の際、大部の猶太人は紐育からヒヤデルヒヤ（Philadelphia）に難を避けたが、戰雲收まるや否や直に紐育に歸還した、實に猶太人の本能は、紐育市を猶太人商業上の樂園と感じたのである。事實紐育は猶太の樂園となつた、同市は今や亞米利加全輸出入の大貨物に對する課税の門戸であつて、亞米利加で爲された仕事が、擧げて其の資本家たる猶太人に朝貢する場所となつたのである。紐育の地所は猶太人の所有となつて居る。又家屋所有者名薄は殆ど全部猶太人の名前で塡づめられ、非猶太人の姓名は實に寥々たるものである。斯くの如き比類なき繁榮と間斷なき富力と權力の發展を見て、猶太人の著述家達が感激の餘り「合衆國は豫言者達が豫言した讃美されたる國である、而して紐育は新エルサレムである」と叫んで居るのも決して怪しむに足らない所であつて、中には更に言を進めて、ロッキーの連山頂をシオン山

べる時は、彼等が斯く讃美するのも蓋し當然といはねばならぬ。

紐育が今日のやうに隆昌となつた所以は、幹線諸鐵道が總て紐育を終點として輻湊し、貨物は皆此處から海外に出されるからである。然るに新運河計畫によると五大湖畔の各大都市は何れも事實上大洋の貿易港となるから若し新運河計畫が實現する曉には、紐育は一朝にして凋落の悲を見ることゝなる譯である。從つて新運河計畫は激烈な反對に遇ひ今猶ほ解決されずに居る。此の計畫は極めて明瞭な經濟的改良であるに拘らず、斯の如く反對が激烈であるのは如何なる譯かといふに、其の動機は斯うである、紐育に於ける富の大部分は、紐育が今日の紐育として存在するが爲めの富であるから、若し萬一紐育が單なる海岸の一都市となつて、最早大收税吏たる猶太人が蟠居する都市でなくなつたならば、莫大な猶太人の富は大に減少する譯である。抑々猶太人の紐育に於ける富は、大戰前に於ては一つの謎であつたが、今日に於ては統計の示す所に依つて以上のことは明瞭である。

合衆國に於ける猶太人口は五十年間に五萬から三百三十萬餘に增加して居る。然るに英

國內の猶太人全部の數は僅に三十萬で、パーレスタインは十萬に過ぎない。大英國內の猶太人の數が比較的多くないといふことは、猶太人自身に取つて非常に幸福な狀態といふべきである。何んとなれば英國の猶太人は、目下有らゆる重要な大事業にたづさはり悉く大勢力を振つて居るから、若し貧乏な猶太人が多數移住しても、勢ひ彼等貧乏人は頗る厭な目を見ねばならないとも限らない。事情に精通して居る某英國人は斯ふ言つて居る、即ち英國では反猶太主義（アンチセミチズム）が何時でも起り得る可能性がある、併し此の排猶太運動は政治上及び國際的經濟界に勢力を揮つて居る金持の猶太人に向つては起り得ない、勿論アンチセミチズムの一般的眞因は、國際的に活動する猶太人に對するものであるが、而も彼等は表面に顯はれずに隱れて居るから、反猶太主義の犧牲となるものは何時も無資の貧しき猶太人である、從つて貧困猶太人が多數英國に居ないといふことは、猶太人自身にとつて確かに幸福な狀態と謂はねばならない。と反猶太主義（アンチセミチズム）に關しては次の章で論述しやう。

曩に述べた英米兩國の猶太人口は何を示して居るかといふと、國際猶太人（インタアナシヨナルジウ）の大富豪が振つて居る偉大なる勢力は、人口の多い尠いに關係してるものではない、數に於ては比較的

僅少であつても共に全世界に亘る無比の勢力を持つて居ることを表はして居る。目下世界に於ける猶太人口は僅々千四百萬人餘に過ぎない、それは恰度朝鮮人と略ぼ同數である。斯ふ比較して見ると、猶太人の勢力が如何に偉大であるかといふことが自ら判然と想像されるのである。

猶立戰爭に於けるハイム・ソロモン

ジョージ・ワシントの時代には亞米利加に約四千人の猶太人が居つたが、其の大部は皆工面の良い貿易者であつた。北亞米利加殖民地が英國に對して獨立戰爭を開始したとき猶太人の大部分は亞米利加に加擔した。ハイム・サロモン(Haym Salomon)の如きは戰時財政破綻の危機に際して、自己の全財産を投げ出して公債に應じ殖民地に應援した。併しながら猶太人は決して同化せず又其の特性を拋棄しなかつた、即ち彼等は決して事務的職業にも農業にも從事せず又製造工業の勞働にも從はなかつた、唯々終始一貫既製商品の商賣に全力を傾注したのである。

物價の上下と猶太支配力

猶太人が生産に從事する樣になつたのは極く最近のことで、目下彼等が生産に關聯して居る大部分は皆彼等の商業的活動の一支脈に外ならない。併し彼等は商品の販賣から許り

でなく此の製造業の方でも勿論利益を取るのであるから、消費者にとつては決して安價にはならない、反つて支出增加となるのである。猶太人の商法の特徵は經濟なるものは商賣の爲めであつて、公衆の爲めではない、といふことである。或る商品が實に馬鹿げた高値を表はしたり、又何等の理由なく突然物價が大暴落を來したりすることがあるが、其の原因を調査して見ると、大抵は廣大なる支配力を持つて居る猶太人の所爲である、即ち猶太人は唯自己に都合良い樣に勝手に物價を上下するのである。

猶太人の考へでは營業とは即ち金である、彼等が金儲けに取り掛つて居る間は理想もへちまもない、唯儲ければよいのである。故に金儲の邪魔になるような理想家の囈語等には耳を籍さないのである。猶太人以外の人々は自發的に勞働者の待遇改善等に努力するが、猶太人は斯樣な自發的改革の爲めに一厘たりとも取らるゝやうなことは決してしない。

右は猶太人の心の冷酷なことを意味するものではなく、彼等の商業上の見解の冷酷を意味するものである、商業は夫れ自身商品と金錢の問題であつて人の問題ではない、といふのが猶太人の見解なのだ。若し玆に人があつて非常に窮迫して苦んで居るとすると、此の

人に對しては猶太人とても氣の毒であるといふ同情を持つ、併し此の時困窮に陷つた人の家屋が一緒に問題となつたとする、勿論人間と家屋とは全然分離した二箇の實在である、其の時猶太人は自已の商業上の見地に依つて、此の家を人間化して考へることは如何しても出來ない、從つて彼等は此の人に對しては、他の人々から見て殘酷と思はるゝ樣な取扱ひをするのである。之に對して人が殘酷だと非難しても、猶太人は平然として「いや私は商賣をして居るのだ」と答ふるに過ぎない。

紐育に居つた人々は知つて居る通り、紐育には所謂「汗の工場」なるものがある、此の工場は餘りに職工を酷使するので此の稱があるのだ。之を見た外國人は誰しも此の工場内に働く憐むべき猶太人職工達に同情を寄せ、又自由の亞米利加に斯の如きものあるかと驚くのであるが、安んぞ知らん、汗の工場の制度の發案者も監督者も同じく猶太人であるとは。然しながら事實に於て汗を絞る貧乏猶太人も、之を酷使する猶太人も、共に非人道的だとか、冷酷だとかいふことを少しも感じない、即ち彼等獨特の營業心理に基いて唯「商賣である」と觀念して居る丈である。それで此の酷使されて居る猶太人達は何等の希望な

く唯錄々として生活して居るだけかといふに決してさうではない、何時かは自分も多數の職工を使役する。工場主たらんとの希望を抱いて勞働して居るのである。彼等無限の生の愛著及び彼等の決して減退することなき野心、即ち大に立身出世して後には監督者にならう工場主とならうといふ不斷の向上心が、彼等をして酷使に些の不滿を抱かしむることもなく、又不法に對して何等の反抗心を起さしむることもなく一意働かしむるのである。彼等は斯かる酷使も不法も結局貧なるが故に味はねばならぬ當然の苦痛と思つて居る。猶太人は働くことを決して不幸とは考へない、又彼等は此の從屈的地位を永久に自己に定められたる運命とは思つていない。故に猶太人は、目下の況遇よりする苦痛を悲み徒らに精力を費すよりは、寧ろ自ら自己を改善し向上して之を脫出せんと努力して居るのである。

以上の樣な譯で米國では有力な猶太人は慈善事業に寄附するが、社會上の諸改革等には一向協力しないといはれて居る、即ち猶太人は社會人道の爲め工業方法を改善して自己の利益を減少する樣なことはしないのである。是れは猶太人が不人情であるからと見てはいけない、曩に述べた通り、彼等が先天的に持つて居る「營業」といふ觀念から來るものと

見るのが至當である。

亞米利加の猶太人は同化しないといふが此れは彼等に對する亞米利加人の非難ではなく實際である。彼等に其の意志さへあれば、亞米利加人と同化することが出來るであらうが彼等には其の意志がない。故に若し猶太人の非常なる成功と莫大な富力を離して、若し亞米利加に猶太人に對する何等かの偏見が存在して居るとすれば、それは猶太人が獨り他と分離せることに起因するものである。猶太人は人物といふ點に於て、宗教といふ點に於て將又人種といふ點に於て毫末非難すべきものでないと、亞米利加人は考へて居るのであるがやはり猶太人は同化しない。是れは猶太人が其の排他的孤獨性によつて、我は從屬するものにあらず、といふ觀念を拵へ上げて居るからであつて、此のことは猶太人の優れた見識であると共に猶太民族其のものから考へれば寧ろ當然のことであらう。それならば何にも猶太人は其の孤獨狀態に就て、「非猶太人」全體に不平をいふ譯がないのであるが、實際彼等は非猶太人が猶太人を排斥して孤獨ならしめたと常に不平を言つて居るは笑かしなことである。或る青年猶太人は「亞米利加猶太人と猶太系亞米利加人との間には非常な差異が

ある。猶太系亞米利加人は永久に亞米利加の寄生虫たるの運命を持つものだ」と言つて居る。蓋し是れは猶太人が同化猶太人を貶したもので、猶太人本來の心持を能く表はして居るものである。

此は日本のことであるが、亞米利加で排日移民法案の通過したとき、所謂日本の名士の中には、日本人が亞米利加に同化しないから排斥されるといつて、大に憤慨した向もあつたやうだが、此等の日本人は猶太人の熱烈な民族愛と比較して實に背壞の差がある。而も排日法案の發頭人はボーラー及びジョンソンの猶太人なるに至つて愈々皮肉である。

ゲットー猶太人街の成立

歐州に於て猶太人街を稱してゲットー（Ghetto）といつて居るが米國に於ても所謂ゲットーなるものがある、然し米國のゲットーは決して亞米利加人が造つたものではない、猶太人自身の輸入に由るものであつて、彼等自ら他と全く分離して一つの團體的組織を爲して居る。此のことに就て「猶太百科字典」には「亞米利加に於ける猶太人の社會組織は、大體に於て他の諸國に於けるものと似て居るが、其の成立に於て稍々趣を異にして居る、猶太人は米國人の中にあつて別に何等の强制をも受けないのに拘らず、彼等は彼等同志相

集まり互に隣接して生活することを欲した。斯の特性は今日に於ても依然として存在して居る」と述べて居る。

合衆國の猶太人が獨占的勢力を振つて居る各事業の種類を一表にして見ると、國內に於ける重要なる事業の大部分を網羅することになるが、此の各種事業中には、眞に生活に必要なる事業と、文明の習慣が生活に必要らしくしたものとの二つがある。劇界は誰でも知つて居る通り、勿論猶太人の獨占する所であつて、劇の製作、書籍の出版、劇場の經營、俳優團より入場券の賣捌に至る迄演劇事業に關するものは一切猶太人の掌中にある。從つて今日殆ど總べての脚本の內容には宣傳の目的が藏せられ、時としては公然と商業上の廣告に資して居る脚本も上演せらるゝといふ有樣である。今猶太人の支配する主なる事業を列擧すれば次の如くである。

一、活動寫眞工業

二、製糖事業

三、煙草工業

四、遠洋漁業（肉罐詰業）の五割以上
五、製靴工業の六割以上
六、男女の出來合衣服業
七、樂器製作販賣の大部
八、寶石商
九、穀類取引
十、綿花取引
十一、コロラド（Colorado）製煉工業
十二、運送業
十三、新聞通信と其の分配
十四、酒精飲料商
十五、金貸公債債券業
以上は唯國家的又は國際的に重要な事業を擧げたに過ぎないが、此等は皆合衆國の猶太

人が單獨若くは海外の猶太人と相連繫して支配する所である。

若し人々が、海外に於て亞米利加の商業の特權を握る亞米利加實業家の內幕を覗いたならば、驚嘆しないものは無いであらうと思ふ、何んとなれば此の亞米利加の實業家、實は大部分猶太人だからである。外國の港には「亞米利加輸入會社」とか、「亞米利加商事會社」とか、或は之れに似よりの如何にも亞米利加人のものらしい名前を付けて居る會社が澤山ある、夫れで海外に出た米國人が、同國人に會おうとして此等の會社の事務室を訪ねたとき其所には亞米利加人ならぬ猶太人が居るのに驚くのである。而かも之等の猶太人の多くは、亞米利加には極く僅の間しか滯在したことのない者なるに至つて、眞の米國人の啞然たるのも無理がない。是れは猶太人が亞米利加人といふ名前の價値あるを知つて斯樣なことをするのであつて、右の事實は世界の一部に於て亞米利加人の商業方法として考へられて居るものゝ消息を如實に物語る一例である。此のことに就て亞米利加人は大に憤慨して居る、三十も四十もの各人種が、自分は亞米利加人だと稱して商賣を爲しそして亞米利加人として如何にも適當な行動をして居るのなら、眞の亞米利加人の商業方式は斯樣なものだと外

非猶太人は支配的勢力を獲得するを得ず

國に認められても止むを得ないが、併し實際は之れと大に趣きを異にして居るのであつて短時日亞米利加に居つた猶太人が、亞米利加人の名を僭稱して商賣をして居る、共の猶太商法を目して、外國新聞は亞米利加流と稱して居るのであるから、甚だ迷惑千萬である、と言つて居る。獨逸人も亦米國人と同じ樣に「外國の人は獨逸語を話す猶太人の旅商人を吾人獨逸人と思ふので困まる」といつて慨嘆して居るのである。

合衆國内の猶太人の榮耀榮華の有樣は既に周知のことであつて、今玆に例を擧げて見た所が敢て珍しくはない。然し支配的勢力と、企業心及び勤勉に對する正當なる報酬としての富とは、全く別のものであつて、之を混同してはならない。猶太人目下の富力には何人でも到達するにとが出來る、即ち富を得んがために猶太人と同樣な代價を支拂ひすればよい。併し支配的勢力に於てはさうは行かない、縱令非猶太人の境遇が、全然猶太人と同一な時に於ても、非猶太人は現今猶太人が掌握して居る樣な支配的勢力を獲得するにとは到底不可能なことである。一般に非猶太人には相互に扶助提携するの能力、即ち目的を自覺して團結するの能力と、猶太人の如き人種的粘著性即ち高潮したる民族主義による統一の

能力とが缺如して居る、而して此の能力は猶太人の特性であるのである。非猶太人は自己の隣人が同人種であらうがあるまいが何等の關係もないが、併し猶太人には自己の隣人が猶太人であるといふことは何物にも代へ難い價値を有するのである。猶太人の富みの一例として、紐育の「エマヌエル猶太寺院」(Emanuel—Synagoge)のことを書いて見よう。「エマヌエル猶太寺院」は一八四六年には維持費として、僅に一五二〇弗を擧げ得たに過ぎない、然るに南北戰爭後の一八六八年には、二百三十一の座席貸付料として七〇八・七五五弗を徵集し得るに至つた。又猶太人か衣服業を獨占したのも矢張り此の南北戰爭の御蔭の一つとして數ふべきものであるが、此の衣服專賣も亦猶太人の富に國家的及び國際的支配を如へたる一例として擧げ得ることである。

失敗せる事業

凡そ猶太人が合衆國で企畫した事業は、悉く成功したと言ふも過言ではない。但し農業だけは例外である。猶太人が此の農業に成功しなかつたことに就て、彼等の書籍には、次の樣に辯明して居る。「普通の農業は餘りに單純過ぎて、猶太人の智能を十分に働かす餘地がない、從つて猶太人は農業に成功して見ようなどといふ興味を少しも持たない、然し

搾乳とか牧畜とかは、耕作よりは幾分頭腦の働きを要するから斯の方面では成功して居る」と。嘗て米國各地に於て屢々猶太人の農村を設くることが試みられたが、悉く失敗の歷史となつた。一部の論者は斯かる失敗の原因を、猶太人が合理的農耕を知らないことに歸し或は猶太人が手先勞働を厭ふが爲めなりとし、又他の論者は農業には投機的分子がないからだと言つて居る。兎も角も猶太人は根本的に、生產的な農耕よりも非生產的な事業に於て多く活動し成功して居るのである。此の方面の硏究家は「猶太人は元來土地の人ではなく常に貿易者である」といふて居る。そして此の主張の證明として、猶太人がパーレスタインを自巳の祖國として選擇したことゝが擧げられて居る。蓋し細長きパーレスタイン地方は東西兩大陸の中央に位置し、而も相互之を連絡する橋であつて、往時文明諸國の對外貿易は、此の橋を通じて行はれたのである。

四、猶太問題の意義と事實

今日迄我が日本には、親猶太主義も反猶太主義も勿論猶太問題もなかつた。然るに世界大戰は急に猶太勢力を倍加し、是れ迄内面的に行はれた其の國際的活動は自ら暴露せられ隱然包藏された其の潜勢力は公然の勢として出現するに至つた。即ち革命に因る露、獨、墺三大帝國の崩壞に伴ふ猶太人の活動、英米に於ける猶太資本主義の發展、猶太故國パーレスタインの復興運動等實に驚嘆すべきものがある。隨つて猶太勢力が我が帝國に多大の波動を與へつゝあるを觀た我が日本の識者達は、猶太民族に就て或は宗教及び歷史方面から或は其の現況に就て等夫々各方面から之を研究して國民に紹介する所あつたが、世人多くは之を對岸の火災視し甚しきに至つては其の信疑を確めやうともせず、自ら何等研究穿鑿することなく、而も之を帝國主義者の揑造と誣ひ、中には西洋の反猶太主義を似ねて居るとさへ罵倒する所謂大家なるものもあつた。然るに近來に至り漸く猶太民族の偉大なる

世界的勢力を一般に認識して、我が帝國の存立上恰も吾人が支那を研究し、米國を觀察すると同様、愛好憎惡の感情を超越して眞面目に猶太問題に注意を拂ふに至つたのは、我が國の爲めにも亦猶太人の爲めにも慶賀すべきことであると思ふ。

歐米の猶太問題と日本の猶太問題との差異

玆で一言御斷りして置くが、同じく猶太問題と稱しても、歐米に於ける猶太問題と我が國の猶太問題とは、自ら其の意義に於て異なるものがある。即ち歐米方面のものは、猶太民族の寄生々活、言はゞ非猶太人と猶太人との雜居から來る問題が多分に含まれて居るが我が國でいふ所謂猶太問題とは、歐米烈强を通じて各種各樣の形で現はれ來る左右兩端の國際的猶太勢力の浸潤と影響とが其の主なるものである。例へば我が隣接國たる露國が猶太主權下にあり、米國が半猶太國である以上、猶太民族の研究が必要なことは當然なことである。而して歐米に於ける猶太問題を研究することは、言ふ迄もなく吾人に必要なる問題の研究即ち猶太民族と其の勢力の研究であると共に歐米其のものゝ眞相を捉へる上に於ても亦緊要缺くべからざるものである。

ヘルツルと猶太問題の存在

扨而猶太愛國者テオドル・ヘルツルは猶太問題に就て、其の著「猶太國」に次の樣に述

べて居る。

「猶太問題は今日猶は存在して居る、此のことを否定しやうとするのは愚なことである苟も猶太人が人目につく程の數住んで居る所には常に猶太問題が伴つて居る、猶太問題のない所へは猶太人が問題を持つて來る。勿論吾人猶太人は排斥のない所へ移住するが吾人が現はれると排斥が起つて來る。此の不幸な猶太人は目下反猶太主義(アンチセミチズム)を英國に持ち込んで居る。既に猶太人は之を亞米利加に持ち込んでしまつた」

とヘルツルが述べた樣に、歐米に於ては到る處猶太問題がある。そして猶太人も非猶太人も共に此の問題に對して頗る敏感であつて、爲めに猶太問題を說くことは頗る困難とせられて居る。唯「猶太人」といふ言葉を公然と口にし或は筆にするだけで既に適當でない適切でない所の希伯來人又はセム人といふ名稱を用ふるさへ逡巡して居る樣な有樣であるやうな一種曖昧な感情が今も猶ほ歐米人の間に存在し、甚しきは猶太人といふ代りに餘りそれで歐米人が猶太問題を取扱ふ樣子を見ると、頗る懼れて居つて恰度禁制を犯して物事をして居る樣な風である。

抑々此の「猶太」なる言葉は決して侮辱的な性質形容詞ではない、古く且つ名譽ある言葉であつて、人類歴史の現在、過去、末來を通じて意義あるものである。元來歐米人は一般に猶太問題を公然と論議することを極端に躊躇する風があつて、沈默といふ幕の中に猶太問題を包み、朦朧たる想像の境地に之を保留して置かうとして居る。思ふに歐米人をして斯の如き態度を採らせるやうになつた實際的の原因は、猶太問題を論議する結果生じて來る幾多の困難を感じて自ら恐怖して居るからであらう、假令公然と猶太問題が話頭に上ることがあてつも、それは當り障りのない政治的駄辯か或は愉快げな雜談であつて、而も其の內容は哲學、醫術、文學、音樂、財界等の偉大なる猶太人の話か又は猶太民族の能力精力節儉性等の讃美に過きない。從つて猶太問題に關する最も困難なる點は何等解決することなく殘つて居る、又實際こんな表面的なことによつて眞相に變化を及ぼすものでもない。依然非猶太人は非猶太人たり猶太人は猶太人たりで、結極猶太人は世界の謎として存在するのである。

此の問題に對する歐米人の遠慮勝なことは、彼等が沈默を守らうとする點に於て尤も明

各國に於ける猶太問題

喙に現はれて居る。換言すれば「全體何故に此の問題に就て論議せねばならぬのか」といふのが、歐米人の態度であり感情である。此の態度それ自身が既に「成る可く之を避けやうとする問題の存在」を證據立てゝ居るのである。

革命前の露國には言ふ迄もなく猶太問題があつた、而も最も猛惡な形式で存在して居つた。猶太人口の露國の人口に對する百分率は、合衆國に於ける率より僅に百分の一だけ大なるに過ぎない。そして露國に居る猶太人の大部は、亞米利加の猶太人に比して其の素質に於て敢て劣らないが氣性が峻烈である。亞米利加に於て猶太人は何等の制限を受けてないが、露國では米國に見ることの出來ない束縛を受けて居つた。それだのに露國の猶太人は彼等の天分を遺憾なく發揮し、完全に露人魂を閉息させて居る。ルーマニア、露西亞、墺太利、獨逸其の他荷も猶太問題が重大問題として表面に現はれ出て居る國を見ると其の問題の主なる原因は、猶太人が支配的勢力を完成する天才なるが爲めである。

猶太人の能力と權勢獲得

合衆國に於て猶太問題が八釜しくなつたのは、一億一千萬の住民を擁する米國に於て、猶太人は僅に百分の三に過ぎないに拘らず、此の少數者が僅々五十年間に權勢を振ひ得る

猶太問題を生ずる根本原因

地位を占むるに至つたといふ事實が原因である。若し他の民族であつたならば假令十倍も多い數を以てしても今日猶太人の占めて居るやうな支配的地位に達することは不可能である。況んや此の猶太人の樣に百分の三位であつたならば到底問題にならない。然るに事實猶太人は凡そ高き地位には必ず其の代表者が居る。例へばヴェルサイユに於ける四國委員の秘密會議の席にも、最高審判廷にも、白亞館内の諸會議席上にも、廣大なる世界の財界にも、苟も權勢獲得が達成せられ且つ行使せらるゝ所、其所には必ず猶太人が居るのである、即ち猶太人は眞に文字通りの到る所で最高の地位を占め權勢を行使して居る。彼等は理解力、事業力、本能的に鋭敏なる判斷力の持主であつて、之れ等の諸能力が殆ど自動的に猶太人を最高の地位に舉げるのである。猶太人が今日他の何れの人種よりも一層顯著なるものとなつたのは蓋し當然の結果であると言はねばならぬ。

然らば如何にして猶太人は最高の位置を占むるか、又如何にして其の目的を達するであらうか、又彼等が其地位にあることが世界に何を意味するのであらうか？是れが即ち猶太問題を生ずるに至つた根本的原因であつて、此等の點は引いて他の諸點の原因となるも

「インターナショナル猶太人」の意義

のである。而して此の猶太問題も批判する人の偏見的尺度の如何に因つて、親猶太的ともなり、又反對に排猶太的にもなる、又猶太問題が人情味ある方向に進展するや否やは、一に猶太問題に關する智識の程度と洞察力の鋭鈍によることである。

抑々今世界に「インターナショナルの猶太人」といふ言葉が使はれて居るが、此の言葉には元來二樣の意味が含まれて居る。其の一つは猶太人は何所に行つても依然として猶太人であると言ふ意味と、今一つは國際的支配權を行使する猶太人といふ意味である。而して今日全世界を刺激して居るのは此の後者の種類に屬するものである。

扨而此の後者の意味に於ける所謂、インターナショナルの猶太人型（タイプ）、即ち世界支配權を獲得せんと努力する者、否既に之を把握して居り之れを行使して居る猶太人は、尋常の猶太人に取つては誠に不幸なる因緣を有するものといはねばならぬ。而して此所に最も目立つて珍奇なことは、此のタイプといふものが、獨り猶太民族のみに限られて居つて、他の何れの民族にも見ることが出來ないといふことである。即ち財的國際的世界支配者の中に幾何かの猶太人が存在するといふのではなくつて、世界支配者は專ら猶太人に限られて居

問題は富力にあらずして支配なり

ることである。斯様な特異な現象あるがために却つて、尋常の猶太人達は苦境に立つのである。即ち斯様な世界支配者階級に屬して居らず、又將來に於ても屬する見込みなく、單に猶太人種と言ふ以外に何等他と異なる所のない猶太人の逆境といふものは、實に此の世界支配階級の存在に因る所尠くはない。又若し世界支配なるものが猶太人も非猶太人も混同して行はれて居るものならば、縱令幾何かの猶太人が大財閥の中に伍して居たとて、決して問題を惹起する樣なことはないであらうと思ふ。從つて此の問題は、人種や系統に關係なく、唯世界支配權を行使する少數の人々だけに關する問題といふことに制限せらるゝのである。併しながら事實に於ては、世界支配權なるものが猶太人の渇仰努力の目標であり、且つ現に此の目的を達成して居るのであり而も此の目的達成の手段たるや、所謂他の世界攻略者の使用した樣な尋常の手段と赴を異にした獨特の猶太式のものであるから、此の問題は何うしても直接に右に述べた樣な特殊の猶太人に關するものとならねばならぬ。

此の問題で一寸面倒なのは世界支配者階級の一團を「猶太人」といふ名前の下に包括してしまうときは、之を純然と一般の猶太人から區別することが困難となることであるが、

併し賢明なる讀者は自ら十分區別し得るであらう。又猶太の富に就て論ずるならば非猶太人にも大富豪があるではないかといふことになるが、それは問題ではない、問題は富ではなく、世界支配であつて、富と支配とは全く別種のものである。勿論世界を支配する猶太人は富を所有して居る、併し彼等は其の上に富より更に力强き或る者持つて居る、それが歐米人をして問題たらしむる所であつて、即ち彼等が他の何れの民族にも到底認めることの出來ない熱烈な自巳民族への忠實及び自巳民族の連帶觀念上に立脚して居り、尙且つ彼等が猶太民族特有の商略的精神と支配的天才とを、極めて多分に極めて判然と所有して居るから世界を操縦し得るのである。從つて今試みに今日此のインターナシヨナル猶太人の世界支配權を、最高の商業的才能ある非猶太人の一團に讓渡したとしたならば、其の結果はどうであらうか、世界支配の全機關は忽ちにして崩壞沒落するであらう。即ち非猶太人は如何に商才優秀なものであつても、到底今日のインターナシヨナル猶太人程の世界支配權を持續することは不可能である。蓋し非猶太人は、其の人間的であると神聖であるとを問はず、又先天的なると後天的なるとを問はず、兎に角猶太人の持つて居る所の性格を缺

いて居るからである。

然るに歐米に於て特に猶太人なる名稱の下に彼等が論議さるゝとき、一部の新しき猶太人の中には、猶太人は唯宗教上に於て他の人種と異なるだけで、他は同一である、と之を否定するものがある。例へば新聞等に猶太人が犯罪したことを掲載する時彼等は、猶太人とは決して人種の名稱ではなく、單に宗教上の名稱に過ぎない、恰度エピスコパリアン、カトリツク、プレスビテリアン等といふのと同樣である、他種族の被告のときには何宗のものとも書かないのに、何故猶太人のみ書くのであるか、と抗議する。之に對して米國人は、猶太人は唯宗教上に於てのみ他のものと異なるだけであるとしたならば、猶太教の道德的內容が他のものと異なることになるが何うか、と喝破し尙論を進めて、合衆國に生活して居る猶太人中、其の奉信する宗教を申告して居るものは僅に百萬に過ぎない、他の二百萬は猶太人たることは申告して居るが、其の屬する宗教に就ては何等申告して居らない事實がある。故に若し彼等の論法を以てすれば、乙は甲より猶太人たるの程度が僅少であるといふ妙なことになつて來る。縱令愛蘭土人が其の屬する教會を棄てたとて、愛蘭土人

たることに變りはないと同樣、猶太人が猶太敎會を捨てたからとて猶太人たるに變りはないではないか。と反駁して居る。議論は兎に角として、要するに猶太人は猶太人の性格を有し、他の民族は他の民族の性格を有してゐるといふことである。

斯樣な譯で近來新しき猶太人の中には、自已に不利益な場合に於て、猶太人といふことに就て種々否定を試みるものもあるが、併しながら將來に於ても世人は依然として猶太人を一の人種と見做すことに變りはないと思ふ。又尠くとも猶太人自身は斯く感じて居るに相違ない。事實此のことは現代のソウェート露國に於て之を見ることが出來る、以前帝政時代の露國に於て、猶太人に對して「君は露西亞人か」と問ふた場合、此に對して、「然り私は露西亞人である」と答へるのが通常であつて、特に親密になるか或は特別の場合の外「否私は猶太人である」とは答へなかつた。然るに現在猶太人が露國の實權を掌握してからは前と同樣の問に對して傲然として、「否私は露西亞人ではない猶太人である」と答ふるに至つた。今のソウェート露國で「私は共產黨である」といふことゝ「私は猶太人である」といふことが誇りであつて、又巾が利くのである。即ち以上は猶太人自身猶太人は一つの人

種であるとの自覺を裏書してるものでなくして何んであらう　話が大分横に走つたが序で、あるから同樣なことを今一つ紹介して置く或る人が亞米利加に於て、或る紳士に對して「君は米國猶太人か」と問ふた所「否、私は國際猶太人である」と答たので、大に驚いたとのことであるが、蓋し此の猶太人自身は左樣に思つて居るのである。

抑々猶太民族は極めて靭强な人種であつて、從來其の絕滅に就いて色々試みられたこともあつたが、悉く無駄であつた許りでなく、益々繁榮して居る。それは猶太民族が自然法則を遵守した結果であつて、自然法則を破つた他の多くの民族は、人種を低下し多くの雜種を造るに至つたが、猶太民族のみは其の生活力なり、勢力なりが毫も退化して居らない彼等は過去より現在に亘り、二大道德的價値即ち唯一神敎と一夫一婦主義とに因つて、連綿として傳承し來り、そして吾人の全精神的所有物の源泉たる古代其儘の姿で、今日の吾人の前に立つて居るのである。

然り曩に述べた如く猶太人自身は將來永遠に、一人種であり、一國民であり、一民族であるといふ感じを繼續し、そうして縱令如何なることが猶太人內部に侵入しようとも、又

英人がシエクスピアの言葉を有するが如し

他の思想及び他の信仰生活と關係し或は又他民族の習慣に從ふ樣なことがあつても、決して彼等の考へは毫末も變化することはないであらう。猶太人は永久に猶太人である。猶太人が完全にして侵すことの出來ない傳統の中に忠實である間は、永久に猶太人として存在するであらう。斯くして彼等は、猶太人であるといふことが即ち優越なる人種に屬するものであることを意味す、と感ずるの權利を永久に持つことであらう。

扨而此の世界を支配して居る猶太人が其の位置を保持して居るのは、他にも原因はあるであらうが、主として猶太國民性中に繼承して居る資質の恩惠に因るものである。而も猶太人たるものは何人も皆此の素質を持つて居る。勿論何の猶太人も此の資質を完全に持つて居るといふ譯ではないが、兎に角此の資質を有することは、英人の言葉を借りて言へば恰度各英國人が、縱令シェクスピアの程度にあらずとするも、兎に角シェクスピアの言葉を有するが如くである。されば猶太人の根本性格及び猶太人の根本心理を究めずして、インターナショナル猶太人を理解しやうとするならば、それは不可能なことゝいはねばならない。

猶太人の偉大なる成功といふものは厚顏無恥に基づいて居るものであるといふことは、屢々吾人の耳にする普通一般の非難であるが、實際他民族から見て彼等の商賣方法が幾多の沒義道なことのあることは敢て疑を容れない所である。然しながら彼等の成功は獨り此の沒義道や厚顏無恥のみに因るものではない、他の原因があらねばならぬ。元來猶太人は商人としては、他の民族に比較して天性遙に敏捷である。勿論猶太人同樣商賣にかけては隨分拔目のないものも他にないではないが、併しながら槪して猶太人とは一寸大刀打が出來ないといふのが世の定評である。緩漫遲鈍な人々から見れば、餘りに機敏過ぎる人を嫉視するのは人情で、假令其の機敏といふことに毫末惡意を藏して居ないにしろ、疑の眼を以て之を見るのが常である、隨つて此の機敏性が世人をして一層彼等に對する疑を大ならしめて居る。

數世紀に亘る古書の統計が示して居る通り、猶太人は極めて商業に熱心な民族であつたそして彼等は他から見て狡猾であると思ふ程機敏であつた。從つて彼等は商賣上のことから人に好かれなくなつてしまつた、そして其原因を見ると商賣上の理由を楯にして猶太人

英國に於ける猶太商人排斥の原因

デパートメントストアと薄利多賣の創始者

を憎むのは、憎む方が悪いのであると言へない點が尠からずあつた。今其實例として往年英國に於て、猶太商人が排斥せられた當時のことを研究して見やう。

昔時の英國の商人は、非常に上品な習慣を澤山持つて居つた。例へば尊敬を受けて居る樣な商人は、自ら進んで商賣を始めては宜くない、商賣がある迄待つて居るのをよいとした樣な習慣を持つて居つた。又店の窓を光線や色彩で裝飾したり、公衆の目の前に品物を誘惑的に陳列することは、同業者の客を奪ふ卑劣な不純な手段であると思はれて居つた。就中一種以上の品種を商ふことは、全然商業道德に背反し商業的習慣を蹂躪するものとして排斥され、茶を賣る店では茶匙すら賣つて居なかつた。商業廣告などに至つては最も鐵面皮なものとして排斥され、若し之を爲すものあれば、輿論は商人を商業界から追出すといふ有樣であつた。近代の人が茶を賣る所では茶匙も其他種々の物も一所に賣るといふことを、若し當時の英人が聞いたとしたならば、非常に驚嘆するであらうと思ふ。それで當時の商人の態度は一寸見ると商品を手離すことを厭ふかの樣に見受けられる位であつた。

猶太商人が斯の如き英國商人の習慣内に割り込んだ時、其所に何事が出來したか、既に

讀者は想像し得たであらう。當時習慣なるものは、恰も神が規定した所の道德法ともいふべき威力を持つて居つた。從つて猶太人が猶太人式に振舞つた結果は、どうしても瀆神者と見做されねばならなかつた。此が爲めに猶太人の歡迎せられなかつたのは蓋し當然である。併し鞏固な傳統を破壞することを屁とも思はぬ猶太人のことである、歡迎されない位で遠慮して居るものではない。歡迎されなければされない程一層商業に沒頭した。即ち猶太人は或る品物を賣り得なかつた時は直に客に押し付ける他の品物を手に入れて居つた斯くて猶太人の商店は宛然たる勸工場となつた、之が現今のデパートメントストアの濫觴である。而して英國の古き習慣たる一店一品主義は玆に破壞されてしまつたのである。そして猶太人は愈々に商業に熱注して斷廻り、顧客を求めて之れを說得し益々販路を擴張した。即ち猶太人は迅速なる販路と小利益所謂薄利多賣の創始者となつた。又彼等は濟し崩し即ち賦拂制度を考案した。猶太人の最も嫌忌したことは品物が寢ることであつて、彼等は滿腔の努力を品物を捌くことに注いだ。廣告の元祖も猶太人である。店の樣子を公衆に廣告するといふことは、公衆をして商店主が金融逼塞に陷つたのではないか破產に面して

居るのではないか、と疑問を起させた時代に於て、而も英國商人が所謂良賈は深く藏して見せずと自重した當時に於て敢て廣告を實行したのである。

又斯の如き猶太人の努力が、不正な事と相結び合つて活躍したことも事實であつて、隨分不正な商賣をやつたのである。猶太人の活躍を見て少しく落著いた英國商人は、猶太人は我々と競爭する積りではあるまいと考へて居つたが、事實猶太人は凡てを已が掌中に收めんが爲め英人と競爭して居つたのであつて、今や全く之を實現するに至つた。

猶太人は英國で發輝したと同樣な能力を其後も常に發輝して居る。彼等の金融界を解剖して金を自己に吸集する能力は、殆んど本能的のものである。猶太人が某一國に居を定めると、直に彼等は其の同族の爲めに活躍し得る新根據を其處に造るのが常である。是れ猶太の遺傳的性質が自然に發露したものと見るべきであらうか、それとも民族としての一致及び誠忠といふことを自覺して計畫して居るものと見るべきであらうか。兎に角猶太人の商業團體は悉く相互連絡を取つて居つた。猶太人の商業團體が富力に於て、特權に於て又勢力に於て隆昌となればなる程、又其の團體が活動して居る國の政府と關係し其の國の生

活關係と益々密接なる關係を結ぶに隨ひ、自然に猶太中央商業團體に勢力が移つて行つた。そして此の中央團體は時代に從つて或は西班牙に、或は和蘭に、或は英國にと移り行きつゝ益々勢力を增進し、各商業團の結合は愈々緊密を加へた。蓋し猶太人間には民族的結合のセメント及び同胞主義の强帶が存在したから斯くも緊密に相互連繫したのであつて、非猶太人間には到底夢想も出來ない所であつた。そして非猶太人は世界支配の戰場に於て猶太人の競爭者ではなく、其の善良なる代理人であつた。

此等個々の商商業團體から中央團體へ勢力が注入され、中央團體には頭目たる大銀行家や諸事業の本元たる操縱者が控へて居る、そして必要な場合には何時でも中央團體から再び頗る重要な情報と高價な補助が地方の團體へ向けらるゝのである。斯の如き組織であつたからして、猶太人に對して反感を持つて居た國民が猶太人の爲めに苦しめられ、又反對に猶太人の希望を容れた國民は猶太人から大に惠まれたといふことは、蓋し何人も理解し得る所であらうと思ふ。

斯の如き組織は既往より存續し來つて今日も依然として存在し、而も一層其の範圍を擴

大して居る。併しながら今日此の組織は、從來嘗て見なかつた窮境に立つて居るのである。抑々五十年前に於ては、世界の金融ブローカーとして猶太人の支配下にあつたインターナショナルの銀行組織といふものは、隆昌の極に達し實に其の黄金時代を現出して居つた。そして猶太人達は到る所政府と財界とを支配して居つたが、玆に一つの新しき事實が起つて來た、即ちそれは工業である。工業は日一日と其の範圍を擴張し、遂に賢明なる豫言者も嘗て夢想だもしてゐなかつた範圍に發展するに至つた。工業が其の實力と勢力とを增加するに伴ひ、金錢を吸集する一大偉力となり、世界の富を工業界内に吸收し、而も工業界は啻に金錢を引き寄せる許りではなく、更に又之を其の發展の爲めに活用せしめた。從つて生產は公債に代り、公債の利息よりも生產の利益といふことになつて、之が一時世の主なる方式となつて來た。此の時に當つて世界大戰が勃發したのだ。玆に於てか既往に於ける世界金融ブローカーたる猶太人等は、此の大戰に關係し非常な巨利を博したのである。此のことは既に世界公知の事實であつて敢て諜々するまでもない。而して今や此の兩勢力即ち工業と財商とが相互に鎬を削つて戰つて居るのであつて、實に其の勝敗は猶太問題を

裁決する一要素として見られて居る。

五、反猶太主義(アンチセミティチズム)は合衆國に實現するや否や

米國及び其の他何處の國に於ても、猶太問題を論じ之を公表するものは、反猶太主義者として非難され、猶太人虐待者として蔑視せらるゝことを十分覺悟せねばならない。そして國民の援助も望む譯には行かないし又新聞の後援も到底期待することは出來ない。從つて歐米一般に該問題に觸るゝを避け、事件の成行に委せて姑息の態度を持する傾向がある今日斯樣な問題が存在して居ることを、眞摯なる態度で事實を説明する丈けの大膽な新聞なり雜誌なりが果してあるだらうか、恐らく一つもあるまい。否反對に新聞といふ新聞は猶太人のことゝさへ言へば、大に之を賞讃誇稱するといふのが一般の有樣である（之れが實例は到る處に求むることが出來る）然らば猶太新聞はどうかといふに、猶太新聞は毫も憚る所なく傍若無人を極めて居る、殊に米國には斯樣な猶太新聞が頗る多い。

若し猶太問題に就て公然と宣言し得るものがあるとすれば、それは著述家、出版家或は趣味的研究家たるを問はず、單に猶太人憎惡者であると目せらるゝ丈であつて、此れは固定的思想であると見て差支なく、猶太人は傳統的に非猶太人即ち反猶太人と信じて居るそして彼等ば非猶太人論客の著述は、悉く偏見と憎惡とに基いて居るものであつて、斯の如き著述は虚僞、侮辱、誹謗に充ち、ポグロム（猶太虐殺）を行はしめんが爲めの煽動であるから信ずべきものでないと、非猶太人一般の頭に先入主的に注入する爲め、不斷の努力を以て宣傳に努めて居る。斯樣な宣傳は猶太人の何づれの論文にも見る所である。

米國の猶太人等は、猶太問題の存在を承認して居るが、然し反猶太主義でない所の非猶太人の一部を、自巳の圏内に抱擁するの必要を感じたらしく大に之に努力したのである。

今猶太人を觀察して見ると其の間に判然區別し得る四つの種類が存在して居る。其の第一は猶太人の信念及び生活を不變に維持することを熱情的に願望して居る人々で、縱令人氣を害さうが、成功を犧牲にしやうが一切無頓者で、兎に角猶太人の誓約及び生命を溌溂たらしめんことを望む人々である。第二には猶太宗教を維持する爲め必要な犧牲は之れな

辭せないが、併し猶太人生活の傳統的習慣には大して重きを置いていないといふ人々、第三には概して確乎たる信念を持つて居らない御都合主義の人々で、斯の如き人物は常に成功者側に多く見受けらるゝ所である。第四には猶太人と自餘の人種間に存する反對性を解決する唯一の方法は、猶太人が完全に他人種に同化融合するにありといふことを信じ、且つ唱道して居る人達であるが、此の第四の部類に屬する人々の數は極めて尠なく、そして猶太人間に於て最も排斥せられ蔑視せられて居るものである。

猶太問題に關する非猶太人の方も二種に分けることが出來る。其の一は別に之れといふ理由はないが、兎に角猶太人は好かないといふもの、今一つは同情すべき事件たると否たるとに拘らず、自身を公平に暴露するもので、尠なく共猶太問題は研究すべき問題で、有耶無耶に葬るべき問題ではないと認めて居る人々である。此の兩者共自已の意見を明かに發表する時は、直に「彼奴はアンチセミテョズムだ」と定まつて非難される人々である。

目下アンチセミティズムなる語は甚だ輕卒に取り扱はれて居る、此の言葉は專ら感情にのみ走つて居る所の排猶太的偏見の感情を表はすときに用ひ、猥りに使用すべきではない

若し此の言葉を猶太人の特性及び世界支配を論明する總ての人々に使用するときは、之れと反對の意味に解せらるゝ樣なことを生ずる。

一　斯の如きは反猶太主義(アンチセミティズム)にあらず

（一）　斯の如きものはアンチセミティズムでない、と定義することは事態の說明上當然必要なことであると思ふ、以下之を述べやう。

アンチセミティズムといふのは、猶太問題が存在して居ることを認識するといふことではない、若し猶太問題の存在を認識することが、即ちアンチセミティズムであるとすれば亞米利加國民の大多數は確にアンチセミテスィトであると、斷定し得ることになる何故なれば今や猶太問題は、實際生活の各方面に於て國民との交涉を激甚ならしめ、亞米利加國民の大多數は、該問題の存在を認識し始めたからである。此等の人々が皆アンチセミティストであるといふことは到底有り得ない。從つて問題を認識することをアンチセミティズムと考へるのは間違ひである。問題は現存して居る。世人は實際此の問題に對して盲目なの

かも知れない。或は臆病から沈默し、又は不正直にも之に對し否定さへして居るのかも知れない。併しやはり問題は存在して居る、何時かは何人も之を認識せねばならなくなるだらう。そして猶太人に說伏されて居る人達のあの「默れ默れ」の聲も、此の問題を歴止することが出來なくなるであらう。けれども猶太問題を認識するといふことは、猶太人に對する敵意及び憎惡の戰を開始することを意味するものではない，單に或る一定の流が、我が文明會社に瀰漫し、遂には此の流が廣大となり强力となり、之によつて始めて人の決意を喚起して何にを爲すべきかを考へさせるに至るといふことを意味する丈である。斯くて此の問題に關する解決策を講ずると共に又處置をも要求することゝなる。即ち過去の缺點を繰り返へさない許りでなく、將來起り得る社會の脅威を始めから排除する樣な處置を要求するように成るのである。

(二) 猶太人問題を公開論議することも亦決してアンチセミティズムではない、公開は大に有効な方法である。亞米利加で從來行はれた猶太人問題の公開論述或は個々の現象の著述等は何れも甚しく人心を迷はしむるもの許りであつた。亞米利加程猶太新聞で斯樣な

問題が論ぜられた國は他にはないが、併し其れ等の論説たるや、皆虚構捏造でなければ御座成のもの許りで、事實を正直に論じ、又は將來に遠く著眼して述べたものは一つもないのである。猶太新聞内に終始定期的に表はれて居る二つの論調は「非猶太人の思想の低級」及び「基督教的偏見」の此の二つである。猶太人の利益を目的として執筆して居る猶太人記者は、頗る内容豐富なる材料を提供して、民族意識といふものは即ち他民族を蔑視するに至る所以であることを說き、以て猶太人の爲めに所謂人種平等を叫んで居る。斯かる點に於ては亞米利加は常に賞讃を博して居る所であるが、併し之れは亞米利加國民の亞米利加としてゞはない、猶太人の蔓延する亞米利加として賞められて居るのである。

從來日刊新聞で眞面目に猶太問題が論ぜられたことは未だない、是れは決して驚くべきことでもなければ、又非難すべきことでもない。日刊新聞は唯々其の場其の時限りの日常問題を論じて居るばかりである。若し日刊新聞が猶太人のことを述ぶるとすれば、其の時は幾多の金言名句を澤山準備してかゝるのであつて、通常は歷史上有名になつた猶太人の名をずらりと陳列して、猶太人の偉大を說き、次に其の地に定住する猶太人を讃美して筆

を措き、之れが往々二面に誇がつて記載されることも決して珍らしくないのである。之を、要するに米國に於ける猶太問題の論說發表は、猶太紙を通じては非猶太人の悪評を、非猶太紙を通じては猶太人の虛構の批評を載せて居るといふことになるのであつて、何れにしろ眞實を去ることが遠いのである。

隨つて事實に立脚して此の問題を公衆の前で論議するといふ公平無私なる試みは、決してアンチセミティズムと見做すべきではないのである。

（三）世界を支配せんとする計畫が此の世の中に活動して居る、其の方法たるや領土の攻略でもない、戰爭行爲でもない政府の權力でもない、學術的の意味に於ける經濟的手段でもない、否商業と取引所の機械的作用によつて世界を支配せんとするものである』と斯の如き疑惑が今日歐米の大都市に存在して居り又主要な人士が斯く主張して居る。此の事實を發表し又之が眞相を證明したからといつて、此をアンチセミティズムであると言ふことは出來ないのである。インターナショナルの猶太人自身が最も容易に之れを否定し得る筈であるが、彼等は之を否定し樣とはしない。又全人類の文化文明を悉く吸集包擁するこ

とを理想として居る猶太人達も亦是れを否定し樣とはしないのである。恐らく他日一人の豫言者が出て、次の樣な事を告げるであらう。

『古代イスラエル人に神が賦與した約束は、ロスチャイルド式の方法を以てしては果されぬであらう、そして又全民族はイスラエル人に依りて幸福となるべきものなりとの聖約も、全民族を經濟的にイスラエル人の奴隷と爲す樣な方法に依つては果されぬであらう』

と、若し斯かる時代が來たならば、其の時は多分猶太人の生活力は河と流れ出で、爲めに猶太問題を惹き起しつゝある現今の源泉は悉く涸渇するに至るであらう。兎に角も右の如きことは決してアンチセミティズムではない。否此れに依つて猶太人の上層階級の計畫が鮮明にされ、猶太人全體は更に幸福となるのであるから、斯の如きことを述べるのは決してアンチセミティズム所ではないのである。

二　反猶太主義(アンチセミティズム)の程度

反猶太主義(アンチセミティズム)が、各種の時代に於て人類の大部のものを不安に陷らせ、冷靜なる理性を失

無暗に猶太人を毛嫌するもの

はしめ純眞なる性格を傷つけたといふことは疑のない所である。斯の如くアンチセミティズムが相當に人心を動搖させて居つたに拘らず、不思議なことにはアンチセミティズムの主張者が、其の目的を達成し得たといふことは遂になく、又アンチセミティズムの當の目標たる猶太人が、大に警戒し又は覺醒したといふことも遂になかつたのである。

アンチセミティズムの程度は可成り澤山ある、今次に之を述べて見やう。

（一）猶太人とは何者であらう、又猶太人とは如何なる者であらう、といふことは一向無頓著で、唯々猶太人とさへ言へば、無暗に好かないといふアンチセミティズムがある。斯ういふアンチセミティズムは、各階級の人々に屢々見受けらるゝ所であるが、殊に猶太人と親しく接觸したことのない人々に多いのである。斯の如きアンチセミティズムは「猶太人」といふ言葉に對して感情的に嫌やだと感ずる少年時代に於て既に萠して居ることが往々ある、そして罵詈の言葉として用ひられた猶太人といふ言葉或は一般に不良なる奸策に對する一の形容詞として用ひられた猶太人といふ言葉によつて、斯樣なアンチセミティズムは一層其の程度を進めるのであつて、時としては實際惡いことをたくらんで居る非猶

太人に對しても罵詈の言葉として「猶太人」と罵る場合もある。斯の如くして猶太人なる言葉に對する嫌惡の情感は、日頃目に見る猶太人個人の上にのみに限られずして、自分が實際知らない人に對しても、要するに猶太人でさへあればアンチセミティズムを感ずるといふ風で、遂に猶太人全體に亘る反感となつて居るのである。

感情は意思とは無關係である。從つて事を正當に考へる爲め好かないといふ感情も、之れを理智の下に考究して見る必要がある。即ち自分が好かないといふ人は、實際に善くない人であらうか、それとも自分同樣に良い人であらうか、或は更に自分よりも善良な人だらうか、と時々考へて見る必要があると思ふ。單に吾々が好かないといふ感情は、吸ひつきたい程好きだといふ感情と、突き退けたい程嫌やだといふ感情との中間を表はして居るものに過ぎないのだ。斯樣な兩極端の感情は、吾々自身と他人との間には始終存在するものである。從て好かないといふ感情は斯の如く中間のものである故に好かないからといつて、それが他人を侮蔑して居る證據にはならない。所が實地に猶太人の嫌なことを經驗して居り、又猶太人と社會上接觸することを好まないと本能的に思つて居る感情とが一致す

る場合、即ち經驗と本能的嫌忌とが合致する場合には、猶太人に對する此の嫌忌を勿論偏見といふことは出來ない。然しながら世の中には、猶太人中に尊敬する人物は概して居ないと主張する人々がある、是等の人々は經驗と本能的反感の一致したものとは言へない。斯の如き極端な排斥的態度の中には、單なる自然の感情以外何等かの分子が含まれて居るのである。以上の樣な譯で、縱令猶太人を嫌ふも反猶太主義者といふを得ないのである。彼の教養ある猶太人達が、自分が猶太人であるに拘らず一般猶太人と交際するのを好んでゐないといふ事は屢々見受けらるゝ所であるが、此の現象は一般猶太人の性質、習慣及び彼等の行爲の卑しき樣を明かに物語つて居るものであつて、此れに就ては猶太人自身も屢々完膚なき迄に批評をして居る程である。併し斯の如き猶太人の特性に關しては、後に章を改めて說くことにしやう。

(二) 第二段のアンチセミティズムといふのは、右のアンチセミティズムよりも尠しく程度の進んだもので、猶太人に對して敵意と憎惡とを持つて居るのである。即ち曩に述べた方は「好かない嫌だ」といふ程度のアンチセミティズムで、今述べる方は憎惡である。

好かないといふ感情と憎惡とを同一視してはいけない、單に好かないといふ感情は憎惡でもなければ又敵意でもないのである。物に譬ふれば茶に砂糖を入れて飮むのを好かない人もあらう、それだからといつて此れ等の人々が砂糖其の物を嫌忌して居るとは言へないと同樣である。然し好かないといふ感情が深刻なる先入主となつて牢乎として拔くべからざる程、頭の中に浸み込んでしまつた結果、それといふのも猶太民族との交際に於て不快な經驗を味はつた結果ではあるが、兎に角尠くとも初步のアンチセミティストであると言はねばならない樣な人がある（實際の例を擧ぐれば約百萬の亞米利加人は去年の冬猶太商人及び猶太人旅館主人と交際した結果猶太人憎惡者となつてしまつた）此の憎惡とか敵意とかいふ感情は、其の人にとつて一つの不幸である、それは此の感情に妨げられて、猶太問題を明瞭に理解することが出來ないからである。故に吾人は熱情によつて理智といふコムパスの針を狂はしめる樣なことがあつてはならない、憎惡といふ舵を手にして居れば航海は危險である。併し敵意の分量は何れの民族よりも、猶太人の方が多分に持つて居るのである、之れは各時代を通じて大きな謎であり不可解のことである。昔の歷史又は近代の歷史に於て・吾人の目に映ずる猶太人の性格なるものは、此の敵意に負

迫害暴行となれるもの

ふ所尠くない。猶太人とアリアン民族との接觸する所、猶太人は敵意を喚起し、若くはアリアン民族も亦之に挑戰して居る。されば古來より猶太研究家は、常に斯かる猶太人の運命の研究に沒頭したものである。或る者は之れを說明して『エホバの神は猶太人を人類に對する豫言者たらしめようと思つて居つた、然る猶太人は此の神意に叛いた爲めに、エホバの神は自分の撰んだ此の民族に對する罰として斯樣な運命を與へた』と言つて居る。若し右の樣な譯で、此の神の怒が猶太人の遺傳性の一部を說明するものとすれば、基督の聖書に『神の怒りは必ず來るべし、されど神の怒りを招きたる者が罰せらるゝなり』といふ言葉の說明に有力なものとなるのである。

(三)　世界の或る部分に於て又色々の時代に於て、此の憎惡といふ感情が遂には殺人暴行を敢てしたことがある。勿論此の暴行は人類の驚愕と憤慨とを惹起した人道上の遺憾である。是れ實にアンチセミティズムが極端に現はれたものであつて、此が爲め猶太問題を公開論議しようとしても、直に此の暴行と類似のことを計畫して居るのであると非難さるることゝなつた。斯樣な暴行の勃發は元より許すべきではない、併し此の暴行勃發に就て

の說明は十分にすることが出來る。猶太人は通常此れを宗敎的憎惡の表現であると說明し非猶太人は『猶太人が其の國の國民に課した經濟的奴隷の桎梏に對する國民の反抗だ』と說明して居る。是れに就て玆に不思議な現象がある、それは露國のことであるが、露國の或る地方では、アンチセミティズムの暴擧が最も頻繁に行はれた、そして其の地方が露國中最も殷賑を極めた地方なのである、其の殷賑は猶太人の企業心の結果であることは爭はれない所であつて、猶太人は常に、自分達が此の地方から退散することに依つて、此等の地方を經濟的に商業的に不振の狀態に蹴落すことが出來る、と揚言して居つたのである。此の事實を否定しようとするのは尤も愚かなことであつて、事實は色々の人に依つて實證せられて居る、即ち猶太人に對する露西亞人の態度に頗る憤慨して、自ら事實を調査する爲め其の地方に往つた人は澤山あるが、此等の人々が再び歸來して發表する所に依れば暴行に贊成し難きも止むを得ぬことであると是認的說明をして居る始末である。又最も公平なる觀察者さへ、斯の如く猶太人の排斥せらるゝのは之れ自ら招けるものであると斷定して居る程である。排斥せられて居る露國猶太人の爲めに熱心に盡力せる爲め世界に有名と

なつた或る通信員すら、アンチセミティズムの暴行の原因を研究しようとするときには、常に猶太人の方から攻撃せらるゝといふ有様である。彼は猶太人に對して『予自身が露人側の不法であることを承認して居らなければ、縦令猶太人の寃罪を雪がうとしても、世人は予の言ふことを信用するものではない、從つて玆に調査の必要がある、而して後猶太人達の受けて居る迫害の不法なことを世界に闡明しよう』と說明しても、矢張り猶太人側から常に調査を妨害され攻擊を受けたといふことである。今日迄各國に於ける猶太人は、自己の缺點自已の非難せらるゝ行爲を自ら認めたことは殆んどない、縦令非難を受けても彼等は辯解をことゝするのが常である。若し今後彼等猶太人自身が、他國民の反感を惹起する樣な諸性質を排除しようとするならば、先づ此の非難を意とせず直に辯疎するといふ性質を消滅せねばならない。尙ほ世人は猶太人に對する敵意を、經濟上の理由に歸するであらう然し之れは、猶太人が他國民の愛好を贏ち得る爲めには、猶太人の精神內にある猶太人の特質及び猶太人の成功に對する特種の天才を抛棄せねばならないかどうかといふことに到達する問題であるが、此の問題に就ては後に說明することゝする。

基督教の偏見を云々するは當らず

（四）宗教上の偏見といふことは、猶太人が常に口にする所ではあるが、此の宗教的偏見は合衆國には確に存在してゐない。然るに猶太人の著述家は、露人に對すると同樣に、亞米利加人に對しても宗教的偏見を持つて居ると非難して居る。非猶太人の讀者諸君よ、諸君は嘗て猶太人の宗教の爲めに彼等に對して憎惡を感じたことが從來あつたか、是れに就て自問自答して見れば、讀者は自ら斯樣な非難が當を得てゐないといふことを理解し得るであらう。最近或る猶太集會の席上で、猶太人辯士は次の樣な演說をした『若し街上で誰でもよい通りすがりの人を呼び止めて、猶太人とは何か、と問ふて見よ、殆んど全部の者は、猶太人とは基督を殺せるものなりと答ふるであらう』と此の演說は猶太紙上にも揭載せられた。又合衆國に於て最も著名にして衆望ある猶太教牧師も或る說教の時『基督教の日曜學校では、子供達に對して猶太人の先祖が基督を殺したのであると敎へて居る』と述べて居る。斯の如き猶太人の言分に對して基督敎徒は一樣に『斯の如き言葉は初めて猶太人の口より聞きし所であつて、未だ嘗て使用したことがない』といふであらう。實際猶太人の此の主張は馬鹿氣切つたもので、試に合衆國及び加奈陀の基督敎の日曜學校の兒童二

偏見は猶太側にあり

千萬に聞いて見れば、直に證明し得らるゝ所である許りでなく、基督教會には却つて猶太宗教に負ふ所ありといふ感謝が存在して居るのである。全世界の基督教會日曜學校は本年の六ヶ月間、國際的課程を講義しで居る、即ちルス紀(Ruth)、サムュエリス書(Samuelis)の前書及び後書と列王紀略(König)を專ら講授して居る、尙ほ又每年舊約全書から講授して居るのである。

玆に於て乎猶太人宗教家は『猶太人側に於てこそ基督教に對する宗教上の偏見及び公然の敵意が多分に存在して居る、そして基督教會の方には何處にも偏見や敵意は存在してゐない』といふことを考慮して見るべきである。此の點に就ては亞米利加の教會新聞と猶太教の新聞とを比較考察すれば直に納得が行くことである。基督教の記者にして猶太宗教を攻擊することを賢明にして正しいなどと考へて居る者は一人もゐない筈である、然るに猶太教新聞は常に基督教攻擊及び宗教的偏見を連載して居る。殊に基督教に改宗した猶太人に對する筆誅毒舌は實に猛烈を極め、一種の宗教上の殺人復讐とも謂ふべき程のものである。此に反し若し基督教徒が猶太教に改宗せる場合には、其の動機に對し大いに尊敬をす

るが、猶太人が基督敎徒となるや決して其儘默認する樣なことはないのである。斯の如き行爲は、實に猶太敎の信仰の偏狹と放縱との兩極端を能く現はして居るものと言ふべきである。之を要するに猶太人は信仰の爲めに憤慨するのではなくして、他の原因より憤慨するのであると言ふことが出來る。然るに猶太人は千遍一律に斯の如き感情は曩に述べた三つの原因殊に宗敎的原因に由ると主張するのである。併し苟も見識を有する猶太人ならば此の理由が虛僞なることを知つて居る筈である、而して尙ほ彼等は、基督敎會に於ては昔の豫言を承認し之れを硏究して居ること、及びイスラエル民族の將來に對して大に興味を持つて居ることをも承知する必要がある。吾人は世界に於けるイスエラル民族の將來の地位に關し、神が猶太人に豫言したことを決して忘れては居ない、吾人は猶太人等が此の豫言を實現するであらうと信じて居るものである。豫言者達が、猶太人に告げた樣な猶太人の將來といふものは、地球といふ惑星の將來と密接なる關係を持つものである、そして基督敎會は——尠く共猶太人が最も呪咀する新敎を奉ずる基督敎會——此の撰ばれたる民族の復活を信じて居る。若し大多數の猶太人が、基督敎會が十分の理解と同情とを以て彼の

昔の豫言を研究して居ること、世人が豫言の實現を信じて居ること及び猶太人に依つて人類が更に大きな幸福を得らるべしと信じて居ることを知る時には、猶太人達は確に基督教會を現今と異がつた眼で見る樣になるであらう。そして尠くとも猶太人は、基督教會が猶太人を改宗させる爲めの道具として活動して居るものでないといふことを知るであらう――此の點に就ては猶太の有力者が大に誤解して居る所で、而も昔より幾分尙ほ惡化して居る――否斯かる改宗といふものは教會以外の他の道具と他の狀態の下に於て實現すべきものである、即ち猶太人自身が「救世主」となることによつて實現するものであることを知るであらう。

宗教と關聯したものではあるが、右に述べた形式と異なるアンチセミティズムが他に多くある、例へば無神論者の運動の如きも其の一つであるが、此の主張の人が多くないのと意見が餘り極端過ぎるから本問題に對しては無意義な意見である。

三　反猶太主義(アンチセミティズム)は米國に生ぜんとす

反猶太主義は米國に現はれん

扨而米國に於てアンチセミティズムは以上の中如何なる形をとつて現はれて來るのであらうか、兎に角猶太人の大衆を排斥する樣な形式を取らないことだけは確實であつて、寧ろ群集行動は却つて猶太人自身の側に存在して居る、即ち非猶太人の各個人に對し、若くは公衆の注意を猶太問題に向け樣とする有らゆる行爲に對しては、猶太人は一致團結して衆の力を以て之に向つて來るのである。

（一）アンチセミティズムは亞米利加にも軈ては來ることであら。此の精神運動及び思想は地球を漸次西進する、此の西進の法則に從つて亞米利加にも必ず來るであらうと思ふ　彼のパーレンスタインは猶太人が最も久しく居住した所で、現在も其の數は中々多數である。此のパーレンスタインの北方に於てはアンチセミティズムが明瞭に存在し而も中々きわどい所迄突き進んで居る。其の西方獨逸に於てはアンチセミティズムは同樣に明確なる形をとるが、併し其の力及び强度は未だ革命を齎らすには不十分であつた。更に西方に

進んで英國に於てはアンチセミティズムは認め得る程になつて居るが、元來英國居住の猶太人の數が比較的少數であること及び彼等が支配階級と緊密なる關係にある等の結果、英國のアンチセミティズムは寧ろ感情上のアンチセミティズム位の程度で未だ運動としては存して居ない。合衆國にあつてはアンチセミティズムは未だ判然と輪廓を明かにしてはゐない、併し某程度の不安を惹起して居り且つ一問題となつて居る。

亞米利加に於ける猶太問題は、益々切實になりつゝあるから、凡そ具眼の士は猶太人の短見者流の反對等に拘泥することなく、諸外國の如き禍を未然に防止することを心掛けねばならない。そして此の問題を根本より正當に見解し、永久の解決に必要なる根本的の材料を諸外國に供給することは是れ亞米利加の公然義務である。然らば之が爲めに如何にすべきか、唯々次の如くするより外に策はないのである、即ち從來諸民族が苦しみの本源に觸るゝことなく惱んだ狀態を悉く解剖分解し、極めて公明正大に論究するより外に此の目的を達する方法がないのである。

米國に猶太問題の生ずる原因

（二）何故に猶太問題が亞米利加に於て重要な問題となつて居るかといふ第二の理由は

猶太人が計畫的に大擧亞米利加に流れ込んで來るからである。此れは單に人間が這入つて來る許りと考へてはならない、思想も共に這入つて來ると考へる必要がある。抑々猶太人は其の內心に於て、非猶太人に就て如何なる觀念を持つて居るか、從來猶太人の著者中一人も是れを大觀して完全に說述したものはいない。

併し猶太人は恐らく將來も斯樣な說明は爲さないであらう、何故ならば若し猶太人にして極めて嚴正に何の遠慮もなく、事實に立脚して之を論述するならば、其のものは必ずや猶太民族から烈しく排斥せらるゝからである。

扨而此等の入國者は非猶太人を祖先傳來の仇敵と見做して居るものである——彼等にして見れば斯う思ふ丈けの相當な理由があるであらう。——そして此の觀念に基いて猶太人自身の行動を律すべきものと信じて居るのである。而して此の入國者は如何にも孤立無援の樣に見えるが、事實は決してさうでない。例へば波蘭に於て猶太人は、大戰間非常に虐待せられ、其の所有品は何一つ殘らぬ迄沒收せられてしまつたといふ。然るに波蘭にある亞米利加領事館には日々數百名の猶太人が、亞米利加渡航の手續きをしに來たのであつた。

即ち彼等は斯程虐待せられ、何一つ殘らぬ迄に奪はれたのであるから、一寸考へれば非常に苦惱と貧窮のどん底に陷て居る樣にも見える。然るに豈計らんや彼等は斯かる長途の旅行を企て且つ移住を爲し得るのである。斯樣に多數のものが旅行するといふことは、他の國民の到底爲し得ざる所で、唯猶太人のみが行ひ得る所である。吾人は彼等が喜捨や施しや其の他之れに類似の慈悲事業を賴つて居るものでないことをも知つて居る、猶太人の生活といふ船は、他の諸民族の船が難船する樣な嵐の場合にも依然として浮んで居るのである。猶太人は能く之れを承知して居る、そして之れを喜んで居る。併し彼等が渡米の時に於ても矢張り彼等が以前の住地に於て、其の地の人々に對して抱いて居つたと同樣彼等獨特の感情を抱きつゝ移住するのである。彼等は名簿には露國とか波蘭人とか其の他の某國人となつて居る、併し彼等は立派な猶太人である。

以上斯の如く述べたからと言つて是れは決して人種的偏見ではないのである。

(三) 嘗て歐洲で漫延した思想も、亞米利加に到れば必ず變化したものである。自由の思想、政治の思想、戰爭の思想等皆然りである。さればアンチセミティズムに於ても亦同樣

米國に於て變化するであらう。猶太問題の中心は亞米利加たるべく、又吾人が愼重に行動し且つ敢て此の問題に畏縮する樣なことがないならば、此の問題は亞米利加に於て解決さるゝであらう。或る猶太人記者が先頃次の樣な意見を發表した『猶太人と言へば現今主として亞米利加の猶太人のことである……過去の猶太人の中心は悉く大戰間に破壞せられ、今では猶太人の中心は亞米利加に移つて居る』と。此の點から觀察すると猶太問題は米人が欲しようが欲しまいが、純然たる亞米利加の問題となつて居るのである。然らば此の問題は如何なる經路を取るであらうか？　要は米人の行動如何に依るのである。第一の現象は恐らく猶太人の經濟的成功に對する不快の表現であらう、就中經濟的成功を贏ち得る要素たる所の猶太人の團結といふことに對する不快の表現であらう。米國々民は彼のモルモン敎のことを或る程度知つて居る、モルモン敎がモルモン敎を奉ぜざる米人の間にあつて如何なる狀態となつたか、遂にはモルモン敎は退散したのだ。即ちイスラエル人も亦同樣に埃及に歸り、其の人民を征服するべきであらう。

（四）　アンチセミティズムの表はるゝ第二の形は、疑もなく偏見と煽動に於て現出する

のである。亞米利加の國民が斯かる態度に出るのも固より無理からぬ點もある、併し國民といふ多數の者が、悉く常に眞に理性の儘に動くとは言へない。猶太人も非猶太人が偏見を以て居ると認めて居る。又非猶太人も同樣に猶太人が偏見を持つと認めて居る。御互に斯う偏見を持つて居ると言ふのであるから、從て兩者にとりては誠に遺憾の極みだが、此の偏見は頗る激烈な形を取つて現はれることがないとも言へない。何んとなれば偏見を持つ者も、持たるゝ者も、共に精神に蟠まりがあり、濶然たる氣分を持たないからである。

（五） 此の點に就て吾人は、亞米利加人の誇りとする正義といふ觀念に俟つことが出來ると信ずるものである。此の正義と言ふ觀念から見れば、恐らく斯樣な問題は亞米利加人の精神を以てすれば譯なく解決がつくことであらうと思ふ。元來亞米利加人の怨恨を招いた樣な諸現象も、此の特性たる正義的觀念の御蔭で常に緩和せられて居つた。感情の儘に動くといふ樣なことは、亞米利加に於ては決して長くは續かないことであつて、直ぐに理性及び德義上の判斷といふ反動がやつて來るからである。亞米利加魂なるものは、各人に對して敵意を起した儘、何時迄も敵意を棄てないといふ樣なことは嘗てなかつた、されば此

の問題に對しても、亞米利加人は探りの針を更に深く突込むであらう、即ち理性を以て十分に此の問題を研究するであらう。斯の如き態度は、既に英國に於ても亦亞米利加に於ても事實看取し得る所であつて、亞米利加人の特性は人が正道を進みさへすれば何時迄も其の人を非難することなく、さらりと忘れて了ふといふ點にある。

先づ亞米利加人は探り針を以て禍根を探索する、そして其の後には斯くして得たる事實を考査し、其の結果迷宮を開く鍵は發見せらるゝのだ。恰度地中の暗がりから根を引き出して太陽に當て枯死せしむる樣に、總べての紛糾の禍根を明かにし之を死滅せしむるのである。其の次には猶太人自身をして事件の整理に配慮する樣に仕向けるのである。固より猶太人は彼等の特性を棄てる必要はない、又彼等の事業力を萎縮せしむるにもあたらない、彼等の光輝を鈍らすこともいらない――併し彼等は斯樣な力を悉く今迄にも增して更に清純なる運河に向つて注ぐ樣に、自らを指導しなければいけない。斯くしてこそ彼等は優越支配權を要求しても差支へなく、又要求し得る資格あるものとなるのである。

吾人は猶太人を根絕せしめ樣とは思はない、併し彼等が從來人類社會を苦しめた樣なこ

とを將來も爲すことは斷じて許さぬ所である。

猶太人は組織によつて利益を獨占して居る、併し此の組織は其の內容其のものを改善せねばならぬものだ。從つて世界に於ける彼等特有の地位を正當に確保せんが爲めには、彼等自らを變更し且つ高尙なる目的に向つて進む樣にしなければならないと思ふ。

六　言論雜誌界に猶太問題の出現

我が廣汎なる計畫は、旣に吾人の憧憬する地點に近づきつゝあるが、之に向つて非猶太人の各政府を敢て動かして行く爲めには、所謂大國の出版物の援助により、密に吾人の製造した輿論を以てせねばならぬ。極めて少數の例外を除いては、旣に凡ての出版物は吾人の掌中にある。（シオンの議定書第七條）

嘗て數年前のこと、亞米利加の某大學教授が、露國に視察に赴いたことがある。此の人は

嘗に學界の權威者たるのみならず明敏な評論家である。彼が露國に赴いた目的は、露國政府の爲政者が如何に猶太人を取扱つて居るかといふことを視察するにあつた。彼は露國にあること三年にして一度歸米し、一年の後再び赴いて殆んど一年間露國に滯在した。此の前後二回に亘る露國視察を了へて彼の歸國するや、彼は亞米利加國民に向ひ露國の猶太問題に關し詳細に報告するの必要ありと考へ、頗る周到綿密なる一文を草し、之を合衆國に於ける第一の某出版業者に送附した。此の出版家は親しく此の著者を招致し、殆んど二日間に亘つて種々懇談し、大に實情を聽取して感動する所あつたが、遺憾ながら此の論文は出版することは不可能であると謝絶した。依て此の著者は更に有力なる他の雜誌の發行者に對し掲載方を交渉したが、結局は右同樣體よく謝絶された。思ふに斯く出版掲載を謝絶せられたのは、教授が文筆の才がなかつた爲めではなくして、其の眞因は出版業者が掲載を欲しなかつたに因るものである。斯くて此の教授の論文は遂に紐育に於ては印刷發行を見ずして終つた。

教授の論文は右の如き結果に終つたが、猶太問題は遂に紐育の某雜誌に進入するに至つた。猶太人等は極力問題を紛碎し、以て斯かる問題は、現實に存在するものでないといふ

メトロポリタン誌の猶太問題發表

ウィリアム、ハードの論文

主張を、公衆に信ぜしめやうと大に駁論する所あつたことは勿論である。

玆に珍なる現象は大雜誌が――此等大雜誌の經營上の後援者を公表すれば一層興味深きものあらん――猶太問題に關する次の一論文のみを掲載したことである。此の代表的論文の目的たるや、猶太問題なるものが存在しないことを證明せんとするにあつたが、公衆は却つて該論文の型から色々看破し得たのである。

ウィリアム、ハード(William Hard)氏はメトロポリタン(Metropolitan)と言ふ雜誌の六月號に、猶太問題に就て一論文を發表した。玆に於て猶太人に捧げられたる讃辭を鵜の目鷹の目にて蒐集せる電信班、通信班がメトロポリタンの發行者を自己の同志として、一般民衆を慰安すべくハードの論文を利用し共鳴したことは、蓋し察するに難からざる所である。

此のハードの論文を熟讀すれば、此の論文から幾多の反對の事實を察知し得る。即ちハードが此の論文により一般公衆に知らしめんとしたこと以上に、多くの事實を民衆は察知し得るのである。

先づ第一に此の論文に依つて猶太問題が儼として存在することを知り得る。ハード曰く

「倫敦及び巴里の社交會に於ては、猶太問題が話題となりつゝあり」と、斯く社交界のことを叙述したのは、筆者が此の問題の重要ならざることを示す爲めであつたか、それともハード氏の觸接した範圍を示すに止まるものであるかは不明である。次でハードは述べて曰く、華盛頓の某官界に於て、猶太問題に關する一文書が可成り廣く廻覽せられたりと。又更に彼は紐育ワールド紙に發表したる彼の猶太問題に關する電報通信のことを述べて居る。ハードの此の論説は些か過早に發表せられたる爲め、ロンドンタイムスの上記電報通信に關する評論をも加へて發表することが出來なかつた樣である。併しながら兎に角眞正の事實を研究する讀者は、此のハードの論説に依つて、猶太問題が實際に存在することを看破し得るのである。就中猶太問題なるものは下層社會に存在するものではなくして、寧ろ猶太人の勢力、猶太人の支配權の事實が、最も豐富に存在する社會に於て存在するものなることを看破し得たのである。然り猶太問題は斯くて闡明せられた――ハードは詳細に之を確證して居る。彼ハードは、此の邊にて論旨を打切り、猶太問題が上流階級の人々及び國民的に又國際的に有力なる人々の間に於て、頗る眞面目に研究せられて居ることに就

ては述べて居らぬが、此の理由は彼が此の事實を知らざるに依るのであるか、或は斯かることを叙述するも自已の論説に無益なりと思惟せるか、兩者中其の一であらう。

之を要するにハードは、猶太問題が存在すること及び猶太問題が研究せられあること、就中猶太問題を判斷して之を説述するに尤も容易なる地位にある人々から研究せられて居ることを、事實として確定したものである。

此のハードの論説を讀める讀者は、誰れしも猶太問題が陰謀的性格を帶びて居るものであるといふ印象を受くるのである。著者は曰く「予は徒黨的誓約を信ずる者にあらず」と世人は斯かる告白を尤も容易に受入るゝであらう、何んとなれば非猶太人的思考法にとりて、徒黨的誓約即ち陰謀程輕蔑せるものはないからである。蓋し陰謀なるものは非猶太人の精神から見れば全然不可能事なるが爲めである。抑々ハード氏は非猶太人系の人物である、されば彼は如何に高尙なる誓約と雖も、可成り多數の非猶太人を假令一時たりとも結合せしむることの困難なることを知つて居るものである。元來非猶太人は陰謀を爲すの性格を持つて居らない、故に非猶太人が徒黨的誓約を爲すことありと假定しても、斯かる誓

約は一朝にして恰も砂製の繩の如く崩壞するのである。非猶太人は其の血液の中にも又其の趣味上に於ても、猶太人の如き團結性を持たない。即ち非猶太人は旣に天性上徒黨的陰謀觀念を毫も有し得ないものである。從つて非猶太人は敢て適切なる實證を擧げなければ陰謀などゝいふことを信ずるものではないのである。

されぱハードが陰謀を信ずるの困難なことは容易に諒解し得る所である。然しながらハードは自己の論說を記述せんが爲め、猶太問題を論ずる每に陰謀の觀念は常に其の大部分を占むることを、殆んど步々に承認するの止むなき立場に陷つて居る。是れ實にハードの論說を一貫する中心觀念であつて「猶太人の大陰謀」なる表題に於て、旣にハードの觀念が明かに表はれて居るのである。

著者たるハードは就中詳細に露國內の現象を論じて居る。そして往々にして猶太問題がソヴェート問題と同樣に論述せられあるやの觀さへある所がある。――斯かる混淆の妥當ならざることに就ては、ハードも亦之を熟知する所である、縱令兩問題相互が、明かに相關聯するものであつても、此の類似性を人爲的に並列して猶太問題の爲め大に利用せんと

するが如きは、實に奸策と謂ふべきである。然しながらハードが演繹した結論は別として其の例證したる諸事實は、頗る興味多きものである。

吾人は先づ第一に露國の事情を觀察して見やう。彼の言に依れば、ソヴェート露國の內閣內に猶太人は唯一名ある許りであると、併しながら此の一人の猶太人はトロッキーなのである。勿論政府內には尙ほ他にも猶太人が多數居る、ハードの言ふのは單に內閣のことのみを指して居るのである。彼は實際の露國の支配者たる委員連のことにも言及してはゐない、又トロッキー、レニンの支配權及び本來の勢力たる赤軍に就ても言及しては居らないのである。露國と同樣洪牙利に於ても亦統帥の地位には單に一名の猶太人が存在するに過ぎない、けれども此の一名とは餘人ならぬベラ、クーン（Bela Kun）である。玆に於てか猶太人たるは、トロッキー及びベラ、クーンの兩猶太人のみなるに拘らず、何故に全歐羅巴が、ボリシェヴィズムは大部分猶太的色彩を有すと確信し居るのであらうか、といふ問題に逢著するのであるが、然し是を以て非猶太人が愚なる妄想を抱いて居るとすることは、ハードが猶太人の陰謀團結を不可能となす以上に更に不可能であり、又猶太人の狡猾怜悧なるを

信ずるよりは、非猶太人の馬鹿なことを信ずる方が容易であるといふ理もないのである。

乃ちハードが述べて居るのは單に一部分の事に過ぎない、即ちトロッキーが露國の第一人者なること及びトロッキーがボリシェヴィズムの權力頂點をレニンと唯二人にて分かつてること、而して此のトロッキーが猶太人なることを述べて居るに過ぎない、此の事實は從來何人も否定しない所であつて、ブランスタイン(Braunstin)｛トロッキーが合衆國内のセント・ルイスに住ひ居たる當時の名前なり｝自身すら認めて居る所である。

ハードは更に述べて「併しながらメニシェヴィキ(Menscheviki)も亦猶太人により指導せられあり」と、此のことは實に驚愕に價する事實である。ボルシェヴィキーの先頭にはトロッキーあり、メニシェヴィキーの先頭にはリーベル、マルトウ(Lreber Martow)及びダン(Dan)あり――此等の人々は全部猶太人である。(ハードの言)

而して又右の兩極端の黨派と共に又一の中央黨が存在して居る。即ちカーデッテン(Kadetten)であるハードの言に依れば此のカーデッテンは露國に於ける最强の國民的黨派たりしものであつて、方今巴里に其の本營を有し、其の黨首はヴィナーヴェル(Vinaver)――

即ち猶太人であると。

右の事柄はハードが確定したる事實である、即ちハードが擧げて居る猶太人等は、露國に於ける政治界の三大政黨を率ゐて居つたのである――ハードは大呼して曰く、讀者よ猶太人等が斯く分裂しあることに注目せよ、互に相反目鬪爭せる人々の間に如何にして徒黨陰謀が存在し得よう、斯の如き實狀を考察する時には、猶太人が露國の政治生活の各期に影響を及ぼすことを寧ろ奇異に感ずるであらう、此の現狀は猶太人達が到る所支配權を掌握するに努むるものであるといふ意見を幾分否定するものではないか、と。

然しながらハードの論文の事實に準據して研究するときは、以上の外尙ほ幾多の敎訓を此の論文から發見することが出來る。ハードは合衆國に論鋒を轉じて幾多の頗る興味ある事實を確認して居る、ハード曰く、合衆國にはオットー、カーン（Otte Kahn）ありと、然りオットー、カーンは時に合衆國にあり、又時に重要なるインターナショナルの用務を帶びて巴里にもあり、又時として彼は倫敦にありて、英國の資本と米國の資本との連絡に任ずることもあるのである――此の連絡のことたるや、廣範圍に亘つて歐州の政情を相手と

すべき企圖である。世人はカーンを目して保守派といつて居る、然り或る點に於ては確に保守派である。然しながら或る人物を目して保守派なりと謂ひ、又然らずと謂ふのも、要するに世人が觀察する視角の大小に依りて異るのみ。合衆國内の最も保守的色彩濃厚なる人々は、實際に於ては急進的色彩最も濃厚なる人々であるのだ。彼等の動機及び彼等の用ふる方法は、諸事の根底に觸れんとするものであつて、彼等本來の行動は過激的である。最近の共和會議に於て牛耳を取つた人々は、一部の特種經濟的利益に依つて束縛されて居る人々からは、保守派と稱されて居るが、其の實彼等は過激派中の過激派であつて、既に赤色の舞臺を通り越して、今や白色となつたものである。若し夫れカーンの背後に如何なる人物があるかを知り、又ハードが何を爲し何を企畫しつゝあるやを、地圖に依つて示したならば、恐らく同氏を目して保守派といふものはないであらう、輿論は兎に角として、吾人はハードの論述により、カーンが合衆國にあることを知るのである。

更に又ハードは「他面にはローザー・バスター、ストークス(Rosa Pastor Stokes)あり」とハードは之と同時にモーリス、ヒルクイト(Morris Hillquit)を擧げて居る、彼の分類

に依るときは、此等兩人物は急進派の人である。ハードは此の猶太人の姓名と相殺する爲め、之に對立してユージーン、ヴィー、デブス（Eugen V. Debs）とヒル、ヘイウッド（Hill Haywood）なる二名の非猶太人の名を擧げて居る。そして彼は此の二人の非猶太人の方が、先に擧げた猶太人よりも過激派として遙に有力なるものとして居る、然しながらハードも久しく政情の研究に沒頭した人であるが、苟も最近の政情を仔細に檢討したものは何人も、此のハードの考へ方には同意するものはないであらう。デブスもヘイウッドも、其の全生活に於てストークス及びヒルクイトの樣に有力な政黨を作らなかつた、そしてデブスとヘイウッドは寧ろ前二者の勢力下にあるものである。

若し世人にして合衆國に於ける社會主義運動を仔細に觀察したならば、具眼の士は恰もハードの論文に於けるが如く、必ずや猶太人の名を見るであらう。ハードが所謂保守黨及び急進黨の黨首として猶太人の名を列擧して居ることは、誠に吾人の深く考ねばならぬ所である。ハードの確定に基き讀者は、合衆國に於ける二大政黨の統率者が、猶太人であることを認定し得るのである。

尙ほハードは「亞米利加の勞働組合をして反急進派たらしむる爲め、最も努力し最も統率の實力を有したものは猶太人であつて、彼の名はサミュエル、ゴムバース（Samuel Gompers）なり」と言つて居る、讀者は此の事實よりして、亞米利加の勞働團は一猶太人により率ゐられて居ることを知るであらう。

けれども次に諸君はハードの論文に依つて「最强の反ゴムパース職工團即ち聯合被服職工組合（頗る强力にして頗る大なる組合である）は一猶太人シドニー、ヒルマン（Sdney Hillmann）に依つて率ゐられて居る」ことを知るのである。

即ち此の米國に於ける有樣は、曩に述べた露國に於けるものと全く趣を同じくして居るものであつて、政治的運動の兩方面及び此の運動內部に於ける發動力は、共に猶太人の統率下にあるのである。此の事實はハードの本來の意志に反して、ハードが之を共の論文の性質上より認めざるを得ない所である。

而して中央黨即ちハードの名附くる所に依れば「自由中央黨」は、中間に位置する總ての人々を網羅するものであるが、此の黨內にもジアスティス、ブランディス（Justice BraDeis）

ジアツジ、マツク (Judge Mack) 及びフェリックス、フランクフルテル (Felix Franikfurtes) の名前が擧げられて居る。此等の人々の世界戰爭終了後に於ける活動は頗る興味あるものである。

ハードは又左の說を述べて居る「尙ほ二人の猶太人の名前を擧ぐるの必要がある、それはギュンツブルグ男であつて、勿論猶太人である、彼はバクマテツフ (Bakhmeteff) 大使の露國大使館に於ける忠實なる館員で、今一人は露國通信事務長官として新聞にも屢々其の名前の揭載せらるゝエー、ジエー、サツク (A, J; Sack) である」と

以上は如何に見るも決して完全なる猶太人名簿と言ふことは出來ないが、併しながら兎に角頗る興味あるものである。ハードが輕蔑的に殆んど無價値であると述べやうと欲した文書に却つて重要な價値がある。吾人が玆にハードの所說を逐一仔細に檢討したる所以は、啻にハードが述べた事實を觀察するに止まらず、尙ほ他の驚くべき事實を發見したが爲めである。

此の文書が猶太問題を揑造したものではない、若し猶太問題なるものが、實際に存在し

なかつたならば、何故ハードが此の問題を論說するの必要があらう、又メトロポリタン紙が之を掲載する必要があらう。

ハード氏の功績は、世人が豫期しなかつた所に猶太問題が現存し、且つ之を闡明するの要あるを確證したにある。「猶太人の大陰謀」といふ論文を書せた所の人は、必ずや之に對する必要を感じたが爲めであらう。

七　アーサー・ブリスベーン氏の猶太人援助

「汝等は何を饒舌しつゝあるか、吾等が全世界の新聞を其の掌中に收めさる間は、汝等の總ての努力は徒勞に過ぎない。我等は民衆を眩惑し且つ欺瞞せんが爲め、全世界の新聞を支配し吾人の勢力下に置かねばならぬ。」（猶太人モンテフィオレ男）

吾人は更に今一度近世の猶太問題に關する吾人の硏究を中絕し、他の方面に表はれたる

同問題を觀察しやうと思ふ。それは一九二〇年六月二十日ハースト系新聞サンデー紙のTo-dye の論說に、二欄餘に亘つて述べられたアーサー・ブリスベーンの執筆せる評論である。アーサー・ブリスベーンを米國第一流の最も有力なる新聞記者なりと稱するのは、或は過言かも知れないが、兎に角彼は有識記者中の一人に數へらるゝ人物である、從つてブリスベーン位の記者が、猶太問題に就て、大膽に論述を公開するといふことは、米國に於て此の問題が一般に重大視せらるゝといふことになる譯である。

ブリスベーンは猶太問題を研究したことのない人である、彼個人として會談する時には恐らく彼は、此の問題に就て毫も知る所がないと告白するであらう。併しながら彼は中々やり手の記者であるからして、狀況上猶太問題を說述するといふことが、新聞經營上必要であるといふ場合には、彼は勿論一見識ある立論を爲すことが出來るのである。抑々如何なる民族にも善良な所はあるもので、其の民族中に或は卓越せる人物を輩出したものもあり、又過去の歷史に於て頗る興味ある活動をして居るものもある。――此れ丈けでも人類社會に現出したる某國民に就ての一論說を作る爲には其の材料十分である。一體世人が問題

の本來の內容に迄立ち入つて硏究しないもので、一民族に關する論說は、通常一二三回の新聞論說で取扱はれ、爾後決して該問題には觸れない、凡そ新聞記者たる人々は此の呼吸を能く心得て居るものである。

ブリスベーンの一般記者としての性質も、凡そ右の樣なものであるが、併しながら彼は長年紐育に生活して居り、頗る重大な性質の財的關係を米國の同業者等と持つて居るものである、されば彼は勿論多少共大トラストの內情に通じ、且つ大銀行團の內幕をも見たものであり、尙ほ絕えず猶太人たる同志及び相談相手から取り圍かれて居つたものであるから彼は必ずや此等のことに就て獨特の意見を持つて居るに違ひない。けれども新聞記者といふ職業は、自己の國の人種に關する意見を論述することは、一寸控えなければならないことで、夫れは恰も見世物師が、自分の見世物の最負客に關する意見を發表することが、其の職分でないのと同樣である、又實際作家としては、其の作物の性質に關して、自己の意見を發表する必要もないのである。新聞の持つて居る權利は、頗る制限されたものであつて、單に社會に對して刺激を喚起すればそれでよい。從つて新聞の有する可能性も亦頗る局

限されて居つて、新聞が論述するを可とすることを感じた場合に於てのみ論説となりて表はるゝに過ぎないのである。

從つてブリスベーンが、猶太問題に就て執筆するの必要ありと知つた時は、即ち彼が何を書くべきかを豫想し得た時である。合衆內又は其の他の國に於て、猶太人支配の範圍及び原因に就て、其の根本を暴露せんと試みられたる際、彼は之を眞に猶太人排斥と感じたのであらうか、或は彼は有爲なる新聞記者としての敏感を以て、今こそ紐育及び全米國の有力なる人々の注意と尊敬とを贏ち得るに恰好の機會が到來したと感じたのであらうか、それ共又(是は可能の範圍內にあるのであるが)彼に日曜論說に一文を草すべき機會が來る迄又は經營主側が彼の希望を認定する迄は、暫時待たうと欲したのであらうか? 斯くブリスベーンの動機を疑ふのは彼を非難せんが爲めではない、如何に微妙なる綠に論說が引懸かつて居るかといふことを暗示するに外ならないのである。夫れは扨て措いてブリスベーンも亦猶太人に對する好意の辯護者として、一般の非猶太人著者と同樣、世人が存在を否定する猶太問題の一部を構成する幾多の事實を陳述するの已むなきに至つて居る。

ブリスベーン曰く「大都市に於て世人が遭遇する成功者の名前は、皆猶太人の名前である」と、ブリスベーンの町紐育に於ける猶太人の成功者の率は特に大なるものがある。

又曰く、「地球上の人口の百分の一にも足らざる猶太人が、其の偉力、企業心、熱心及び賢明に依つて、世界の商業利得の百分の五十を所有して居る」と

此の事實を見て、ブリスベーンは如何に感じて居るであらうか？、彼は又猶太人が如何にして斯かる結果を獲たであらうか、といふことを熟考して見たであらうか、又是等の成功なるものが、人道上大に非難すべき性質のものでないと彼は揚言し得るであらうか？又猶太人の事業の此の決定的成功の利用法を以て、彼は間然する所なき方法として滿足し得るや否や、又斯かる猶太人の事業上の成功は、彼が列擧した如き賞讃に價する諸資質の賜であつて、決して非難すべき性質によるものでないと、彼は何時でも證明し得るの準備があるであらうか？ 猶太人が經營せるハリマン(Harrimann)鐵道の競爭に彼は同意して居るであらうか？ 又彼は猶太人の懐中より出でたる金が、眞實有用なる鐵道敷設に用ひられたことを聞いたことがあるであらうか。

若しブリスベーンにして、公平なる人士に托して實際の材料を蒐集せしむるの意志があるならば、彼及び讀者諸君の蒙を啓くべき幾多の文獻を提供することが出來る、先づ其の文獻の一つは「平和會議に於ける猶太人」と題する冊子である。此の書を讀む時、ブリスベーンの徒は、必ずや何人が平和會議に於て最も卓越した人々であつたかを知るであらう、又何人が平和會議に於て最も頻繁に出入し、何人が最も重要なる委員會に出席したかを知ることが出來やう、又如何なる種族のものが、重要人物の秘書として最も多く働いて居つたかを窺知するを得るであらう、又人々が重要人物に面接せんが爲めの諸經路には、如何なる種族が多數の歩哨を配置し、そして各種の接觸は此の歩哨を通じて保たれなかつたか、又平和會議を以て舞踊及び贅澤なる宴席となすべく極力努力したものは何人種であつたか、平和會議の牛耳をとる委員達を、頻繁に私的晩餐に招請したのは又何人であつたか等を詳細に知ることが出來るであらう。

ブリスベーンの卓越せる通信能力は既に周知のことである、されば彼が配下の記者を斯かる任務に配置し、集まりたる諸報告を印刷に附する時は、玆に彼の名聲を馳せ得る一の

アラスカは米國領にあらず

歴史が記述せらるゝことゝなるであらう。

更に斯の如き方法に依る時は、先づ「如何なる問題が平和會議に於て勝を得たか」といふ樣な文が出來る譯である。即ちブリスベーンの配下のものも、何故斯くも多數の猶太人が巴里に赴いたか、又猶太人等が如何にして其のプログラムを貫徹したかといふことを究むるに努力するに違ひない。就中猶太人のプログラムの微細なる一點と雖も、拒否せられ又は變更されたことがあるかといふ樣なことを探究するに努むるに違ひないのである。斯くする時は、「會議に提出せられたる百般のプログラム中（人々が白熱的希望を懸けて居つた主議題をも含む）圓滑に議了を見たる唯一の議題は、實に猶太人のプログラムであつた」といふ事實を彼ブリスベーンは探知して驚倒するであらう。

尙ほブリスベーンの調査すべき局面は無數にある。而して其の何れの方面に於ても、彼の米國及び之と猶太問題との密接なる關係に就て、著しく智識を得るであらう。例へば彼はアラスカが何人に屬して居るかを知つて居るであらうか？　思ふに彼は他の人々同樣（詳細を知つて居る少數者を除く）アラスカ地方は合衆國のものであるといふ考を持つて居るに違ひない、併

いそれは間違である、アラスカは間もなく合衆國が屬するに到る其の國民の所有する所なのである。

ブリスベーンは國家の新聞業といふ有利な立場にあつて、彼は米國の經濟生活に於て、勞働といふ觀念に依つても、將又資本といふ觀念に依つても了解することの出來ない或る分子が活動して居るといふことを知つて居るであらうか。又彼は生產といふ意味に於ける勞働といふ力でもなく又同樣に資本といふ力でもない或る力が、或は勞働者を煽動し或は資本家を刺激して、勞資の離隔分裂を出來るたけ增大せんと計畫して居ることを些少なりとも知つて居るであらうか。而して又彼は經濟狀態の硏究に當つて、其處に瀰漫する所の如何にしても說明することの出來ない秘密に際會し、其の背後に潛む何物かの片鱗を認め得たに違ひない。此の何物かを發見することこそ、方に新聞業者として相應はしい企であると言はねばならぬ。

又ブリスベーンは、嘗て合衆國の砂糖配給を一手に占めて居る人々の名前を公表したことがあるであらうか、又彼は此等の人を識つて居るであらうか。

更に彼は米國に於ける綿花業を仔細に觀察したることがあるであらうか。銀行の壓迫によつて、綿花製産地の所有權が變更し、綿花製産が故意に困難にされ、遂に反物及び衣服の價格の變動を來たすの事實を知るや否や。斯の如き研究に際して、彼は思惑買占を爲す人々の名前に注意したことがあるであらうか、思惑買が如何なる方法で行はれ、又何人がそれを爲すかを知らんと努めたことありや否や。彼に若し眞に其の意志があり、そして配下の有爲なる專門家を督勵して此の問題に從つたならば、彼は以上のことを凡て知り、之を國民に示すことを得るのである。

抑々憎惡及び偏見は、猶太問題を科學的に研究することによつて除去され、且つ妨止し得るものであつて、吾々は能く識らないものに對して、偏見を持ち又能く理解しないものに對して憎惡するものである。猶太問題の研究は、啻に非猶太人に對して認識及び見識を新に與ふる許りでなく、猶太人に對しても同樣に認識と見識とを新に與ふるものである。殊に猶太人は非猶太人に比して一層此等の觀念を必要とする。猶太人が或る事柄を見、理解し、そして共鳴するといふ風になれば、問題の大部分は相互の理解の下に解決消滅する

のである。非猶太人を、猶太人に關する事實に對して覺醒せしむるといふが如きは、單に一部の目的たるに過ぎない。猶太人をも亦此の問題の事實といふことに對して、受感性あらしむることが重要缺くべからざることである。そして非猶太人をして、單なる辯護者の位置より進んで、更に公平無私事實に精通せる裁判官たらしむる必要がある。そして此の調査研究を進むるに從つて、非猶太人及び猶太人が、互に誤解して居ることを發見する樣になる。斯くしてこそ、猶太問題に於て更に多くの知識を必要とする場合には、此の知識及び識得を言論に發表するの途は容易となり、何等の妨害をも見ない樣になるのである。

ブリスベーンは「單に記述せられたるに過ぎざる」書を讀み、そして少數の猶太人の名を列擧して居るが、之を以て彼は猶太國民に對する理解を增進したものと言へようか。凡そ新聞と謂ふものゝ性質から觀る時には、猶太人の勢力を探究することなしに、單に世界の視聽を其の當座々々に誤魔化さんとしても、それは無理なことである。そして新聞が露國人、リトワニア人、獨逸人、英國人のことを報道して居るのは、單に事實の輪廓だけを報知して居るものであつて、決して事實の眞髓に觸れて居るものではない。斯樣に名

前を誤魔化して居ることが、抑々全問題に於ける最も面倒な一要素となるのである。されば世界人類をして明瞭に首肯理解せしめんが爲めには、實際の姓名を擧げ事實を事實として直言し、實際の性質を述ぶべきである。ブリスペーンは大に此の問題を研究し、以て彼が目下從事して居る所の他の問題に對する指針と爲すべきである。

兎に角ブリスペーンは既に猶太人に關する論述を爲したからして、爾後恐らく他人の書きたる同問題に就ては、直に眼に映ずるであらう。そして彼自身の讀む材料の中に於て、曩に彼の注意した以上に多くの猶太人に關する注意事項のあることを發見するであらう何づれ遲かれ早かれ眞摯なる研究家及び正直なる著述家は、世界に於ける猶太人の勢力を解する鍵を發見するに至るであらう。

ディアボーン・インデペンデント（Dearborn Independent）社は、唯他の出版物が部分的に爲したるものを、組織的に且つ詳密に亘つて公表したに過ぎないのである。

合衆國の新聞界、言論界には、猶太人恐怖といふ氣分が漲つて居る――斯かる恐怖は今や歴然として表面に現はれて居る、世人は宜しく其の根底を研むべきである。若し吾人の見る

所にして誤りがないならば、ブリスベーン亦此の恐怖を感じたものである。縦令彼は恐怖を意識して居ないにしろ、確に恐怖に囚はれて居るものである。此の恐怖とは一民族に不正を加へるといふ性質の恐怖ではない、一民族に絶對的賞讚以上の或るものを公表するといふ恐怖である。彼にして沈思默考する時は、「今や亞米利加の新聞界は、辯別力ある批判の爲めに、斯かる賞讚を制限すべき任務の前に直面して居る」と必ずや確信するであらう

八、猶太世界征服綱領の存在如何

反猶太的氣分に對する猶太人の反駁といふ反駁書の中には、何れにも三つの原因が擧げられて居る、即ち宗派的の偏見、經濟的の嫉妬及び社會的の反感の三つであつて、而も此の原因なるものは三つより多く擧げられて居ることはない。併し非猶太人は何人も猶太人に對する斯様な宗派的偏見が非猶太人側に存在して居るとは思つて居ない。猶太人は果して此のことを知つて居るであらうか。兎に角猶太人が擧げて居る宗派的偏見なるものは、

寧ろ猶太人自身の方に存在して居るものであつて、非猶太人間には毫も存在して居ないのである。次に經濟的の嫉妬といふことであるが、之れは或は實際に存在して居るかも知れない、尠くとも猶太人が各方面に於て成功して居る結果非猶太人の鋭い注目の焦點となつて居るから、之の狀態を稱して經濟的の嫉妬と言へば言へぬこともなからう。それで猶太人中一部の者は說をなして非猶太人の注意を他に轉向せしめんと努めて居る者もある、此等の人々は「財界に於ては猶太人は決して重きをなして居ない」と斯う說いて居る、併し此の說は猶太民族の爲めを思ひ大に忠義ぶつたものであつて、決して事實を物語つて居るものではない。事實世界の財界は猶太人の權力下に立つて居るのであつて財界は猶太人の意の儘に又計畫通りに動いて居るのである、即ち猶太人支配權が決裁した財界のことは、吾人の守らねばならぬ法律とも見做し得る程の有樣である。けれども一民族が財界に重きをなして居るからといつて、直ちに非猶太人が偏見といふ柵の前に此の民族を持ち出すのだといふ譯には行かない、それだけでは理由が未だ々々不十分である。若し猶太民族にして吾人非猶太人よりも賢明有能で忍耐力に富み且つ勤勉であり、そして又我々非猶太人が彼等よ

り低級愚鈍で、到底彼等の有する様な能力を持つて居ないとしたならば、それこそ復讐的に此の民族を恨むといふことは以ての外の心得違ひと謂はねばならない。兎に角經濟的の嫉妬の幾何かは反猶太的氣分に胚胎して居ると言へば言へぬこともないが、併しそれでは現存する猶太問題の説明としては十分でない、況んや猶太人が財界の覇を握るに至つた隱れたる原因が、此の全問題の重要なる一部分を占めて居るに於て殊に然りである。又單に社會的の反感といふことに就て論じて見るならば、世界には嫌な猶太人の數よりも寧ろ嫌な非猶太人の方が多い、此れは非猶太人の數の方が何と言つても猶太人より遙に多いからである。

今日如何なる猶太人反駁家も、猶太問題の政治的原因を述べて居るものは一人も居ない若しあつても愈々之に觸れやうとするときには必ず本問題を制限し局限するのが常である抑々世界各國に於て猶太人の忠節なるものは甚だしく疑問視せられて居る、英國に於て然り佛國に於て然り獨逸、波蘭、露國、羅馬尼亞に於て然り、驚くべきことには合衆國に於ても亦然りである。彼等猶太人が其の居住する國に對して負ふべき責務を果して居るといふことを示さんが爲めに、幾多の書籍は出版せられ、各種の報道は公表宣傳せられ又幾多の

巧妙なる統計も作られて居る。併しながら斯かる熱心且つ隱密なる試みあるに拘らず、事實に於て此を僞りなりとする反對の見解は更に强く且つ依然として存在して居る。無論猶太人中には「自由の軍隊」に服して其の本分を盡した者も相當にある、無論是れは正當なる愛國心及び獻身的至誠より出たことであらう、併しながら如何せん彼等の中には其の本分を盡さない者が數多あつて、此等の猶太人が將校下士卒及び一般人士に與へた惡印象は到底抹殺することの出來ない程大なるものであつた。

猶太人は世界を對照とす

然れども右は猶太の忠不忠の問題であつて、猶太人問題中の政治的要素としてのものではない、猶太人が一國家を形成して居る國民の樣に、愛國的精神を持たないと責めるのは些か酷である。抑々猶太人の歷史は、各國民間を放浪の歷史である、現に一寸現代の猶太人を觀察した丈けでも、猶太人程遍ねく世國各國民間に介在して居る民族は他にはない世界遍歷者たる彼等は他の何れの國民よりも明瞭に世界なる觀念の所有者である。蓋し世界到る處實に彼等の徑路であつたからである。從つて彼等の考は常に世界といふものを對照として居る、一國家を形成し國民的區分を有する他の諸國民には到底斯かる考へ方はな

し得ない所である。されば猶太人が各々其の本國民同様に國民精神及び國粹感を持つてゐないといつて責むるのは、寧ろ無理といはねばならない。實に彼等は數千年以來の世界民（國民に對して言ふ）であつて、如何なる國旗の下に於ても其の國の居住民として其の要求せらるゝ處に從ふけれども、奈何せん彼等の對國旗觀は、一國旗のみを有する國民が有すると別種な或る見方をして居るのである。

抑々猶太問題の政治的要素は猶太人が他の諸國民內にあつて、別に一國民を形成して居るといふ事實內に存在するのであるが、若干の猶太人論客は此のことを否定して居る、殊に亞米利加に於て然りである、併し面白いことには猶太人自身の天才は斯かる辯護者の筋違ひの議論を常に誤りなり僞りなりと一蹴し去つて居る有樣である。然らば何故に斯樣な國民性といふ事實が斯くも頑固に猶太論客に否定せらるゝのかといふに、それは明かでない、けれども若し猶太人にして彼等の世界的傳道なる使命は、到底金力といふ手段では達成し得ないものであるといふことを覺りさへすれば、其の時こそは猶太人の世界民といふことと及び猶太人の避け難き國民的集結性が、却つて人間の統一を圖る上に於て强固にして有

効なる一因子となるであらうと思ふ、併し遺憾ながら猶太人の現時の傾向は、大に之れと趣を異にし寧ろ人類の統一を大に阻害して居るのである。猶太人が各國民內に於ける一國民であるといふ事實に對して世界が異議を唱へて居るのではなく、斯かる狀態が永續することに依る弊害に對して世界は面白く思つて居ないのである。由來猶太人を包容同化して一國民となさんと試みた國民も多々あつた、猶太人自身も亦自ら進んで斯樣な目的の下に努力したことも度々あつた、併しながら猶太人といふ者は一種特別の國民性を永久に持つて居なければならない運命を持つて居るものらしい、猶太人と雖も亦爾餘の人類と雖も此の事實を承認せざるを得ないのである。猶太人は此の事實を以て多幸なる豫言の通りと考へて居るのであらう、然らば此の豫言を現實化する手段方法を求むべきである。

ヘルツルの信念

猶太人中の偉大なる一人なるテオドル・ヘルツルは、猶太人の特性を哲學的に說明したる近代の最も達識且つ公知の代表的人物とも言ふべき人である。彼は猶太國民が現に存在して居ることを常に信じ、嘗て之れに些の疑念をも挿さんだことがなかつた。否彼は單に信じて居たと言ふよりも寧ろ猶太國民の存在を、有らゆる機會を捉へて世に發表したので

ある。彼曰く『吾人は一個の人種――一個の國民なり』と。又彼は明かに意識して彼が唱ふる猶太問題なるものは政治的性質を帶ぶる問題なることを認めて居つた。彼は「猶太人の國家」と言ふ書物を著はし、其の序論に於て次の樣に述べて居る。

『私は私がアンティセミチズムといふ極めて複雜なる運動の理解者なることを信じて居る私はアンチセミティズムを猶太人の立場より觀察するものであるとは言へ、毫末の恐怖も憎惡をも交へて觀察して居るのではない。抑々此のアンチティミティズムの中には低級なる運動、凡庸なる商業的嫉妬、傳統的偏見、宗教上の偏狹性、表面的の正當防衛といふ樣なこに於て、如何なる分子が含有されて居るか、といふることを私は能く察知して居るものであると自ら信ずるものである。猶太問題なるものは時には社會問題の形となりて表はれ、又時には宗教問題の形をとつて現はれる。併し私は猶太問題は社會問題でもなければ又決て宗教問題でもないと堅く信ずるものである。猶太問題は國民的問題であつて、國民的問題は世界の政治問題となるときに於てのみ解決せられ得べきものである。而して世界の政治問題は方に地球上の文明諸國民が協力して討究調停せねばならぬもの

猶太人の猶太人以外に對する作用

である』と。

尙ほヘルツルは『猶太人は一國民を形成して居る』と聲明して居る。已ならず彼は英帝國に於ける一九〇二年八月の外人移住委員會席上に於てエヴァンスゴルドン少佐の質問に答へて次の樣に反問をさへして居る。

『私は茲に國民といふ概念に對する私の定義を下して見よう、さうすれば貴下は「猶太の」といふ形容詞を附加するかも知れない、私の考では、一國民とは明かに認知し得る凝集力を有する人々より成る歷史的の集團を指すものであつて、此の集團は共通の敵によりて集團となつたものである。故に予は猶太人を一つの國民と見做して居る。貴下が若し之に「猶太の」といふ語を附加するならば其の時こそは貴下が私の「猶太の國民」なる語の定義を體得したと言ひ得るのである』と

又ヘルツル博士は、猶太人の猶太人以外の人類に對する作用といふ敍述の中に次の樣に述べて居る。

我々が下落する時、我々は革命的無產者となり、革命黨の下士官となるのである。吾

ジューイッシュクロニクル紙の所論

シオニズムとボリシェヴィズム

人が向上する時、其の時には金といふ恐るべき力も亦大に向上する』と。

右の樣な意見は、猶太人の思考中に最も長く存在した意見であつた、此の點に於て此の說は一寸眞理の樣にも思はるゝのである。而して此の說を代表するものに現時ロード・カステース・パーチ (Lord Custace Perch) あり、此の說を公表するものに加奈陀のジューイッシュ・クロニクル (Jeuisch Chronicle) 紙がある、同紙の所論は此の說に同意を表して居る樣である。今此の所說を注意して一讀するのは決して徒爾でないと信ずる、曰く。

『リベラリズムとナショナリズムとは鼓を打つてゲットー(猶太人街)の門を開き、猶太人達に國民としての平等權を賦與した、猶太人は出で來つて西半球に入り、其の力と其の輝きとを見、之れを利用し且つ享樂した。そして其の手を西洋文明の神經中樞に當て、此れを導き之れを支配し又之を開發した――而して後其の提議を拒絕した……加ふるに――而して此のことは注目に値することである――ナショナリズムとリベラリズムの歐洲科學的統治と民主的同權の歐洲は、往時の壓迫排斥の時代よりも遙に彼猶太人に對しては寬宥であつた、……然し西洋各國民の統一が日と共に鞏固となるに從つて、最早無制

限絕對の寛宥を期待することは不可能となるに至つた……猶太人が此の完全に組織的であり、そして領域劃然たる國家制度の諸國内にあつて彼等が安んずべき隱れ道は、唯二つあるのみとなつた。即ち猶太人が國民的國家組織の支柱を倒すか、或は彼自らの領土を有する國家を創造するかの二途のみとなつたのである。畢竟猶太人のボリシェヴィズムといひ又シオニズムともいふも、此れが說明は實に此の二點の間に存在するのである。蓋し東方猶太人達が不安定に此の兩途間を動搖して居るのも此が爲めである』と。

又曰く。

東歐羅巴に於てはボリシェヴィズムとシオニズムとは相俟つて發達する樣な有樣であつたが恰度夫れと同樣に猶太勢力は、第十九世紀を通じて共和思想と社會主義思想とを融合し、其後十年を出でずして青年土耳古黨の革命が、行はるゝに至つたのである。即ち此の原因たるや、猶太人が急進世界觀といふ積極的方面に努力して居るからでもなく、又猶太人が非猶太人のナショナリズム又はデモクラシーの參與者たらんといふ希望を持つて居るからでもない、凡そ現存の非猶太人の支配組織は、悉く彼猶太人に取つて厭ふべきも

社會主義者及び過激主義者たる理由

のであるからであつて、理由は實に此の點に存するのである』と

如上の說は誠に眞理を喝破して居るものであつて、大膽なる猶太人思想家は常に右の說の眞なるを承認して居る。猶太人は非猶太人が作つた事々物々に對して悉く反對するものである。猶太人をして彼等の欲する所を爲さしめたならば、彼等は帝國に對しては共和主義者となり、共和國に於ては社會主義者となり、社會主義に對しては過激主義者となるものである。

斯樣な猶太人の破壞的行爲に對する原因とは抑々何であらうか？

第一の原因は猶太人がデモクラシー思想を毫末も有して居ないといふことである。抑々デモクラシーは猶太人以外の人類にとつて結構なことであるが、猶太人は其の性質が獨裁的である、彼等は何處に居つても必ず何等かの專制政治の形式を採るものである。されば猶太人の煽動家がデモクラシーを標榜宣傳しても、其の眞意は決してデモクラシーではなく、單に猶太人が一般水平線より下方に壓迫せられて居る所に於て、水平線迄向上せんが爲め便宜使用する口實に過ぎないのである。

そして猶太人が此の水平線に到達すると、直に特別な優先權を獲得しやうと努める、而も其の有樣は恰度、特權を獲ることが彼等にとつて當然のことでゞもあるかの樣であつて、之れに對する驚くべき適例は平和會議が即ちそれである、實に世界平和會議に於て猶太人のみが特別且つ非常なる特權を有したものであつた。けれども他日斯の如き猶太人の特權は更に增大することであらうと思ふ。

現今猶太人の思想を代表する爲めではなくして、非猶太人の思想を左右すべき唯一の目的の爲めに派遣されて居る少數の代表宣傳家以外には、何人と雖も到る處社會的及び經濟的に破壞作用を營む分子が、猶太人の關係者によつて指導せられて居り、且つ資金を貢がれて居ることを敢て否定する者はあるまい。斯樣な事實は可成り長い間、世人の耳目に觸れずに濟んで居つたものである。其の理由は猶太人が極力否定したことゝ、今一つは世人に對して實情を明かにすべき新聞情報機關の搜索が不十分であつた爲めである。けれども今や事實は明白である。ヘルツル曰く「若し吾々が下落する時、吾人は革命的プロレタリアとなり、革命黨の下士官となる者である」と、蓋し至言であつて、此れは今より二十數

年前即ち一八九六年に英語で始めて公表せられた言葉である。

扨而現今に於て斯の運動は、二つの方向に向って働いて居る、即ち其の一つは全世界中にある非猶太人の國家を悉く破壞せんとするもの、第二にはパーレスタインに猶太國を建設せんとするもの此の二つの方向である。後者の計畫は全世界に取つて最善の希望であるが併し凡ての猶太人の最善の希望ではない、尠くとも大多數の猶太人の希望ではないのである。シオニストの連中は無論聲を大にして之を叫んでは居るが、要するに之は代表的ならざる少數者であつて、彼等は寧ろ野心漫々たる植民運動の連中であると見なすべきものである。然しながらシオニズム運動に對して大に留意觀察しなければならぬことは、此の運動は單に一の植民運動といふだけでなくして、此の運動の裏面に於て秘密の諸計畫を實現しやうとするものであることである。換言すれば公衆の注意をシオニズムの表面に集めて背後を見ないやうに屛風を立てゝ居るものである。世界の政治的權力及び金權の支配者である所のインターナショナルの猶太人は、之に依つて時と所とを論ぜず平戰の區別なく何時でも會合し得るものである。彼等はパーレスタインを猶太人の爲めに開かんが爲めに手

段方法を考究するのだと宣言し、斯の宣言によつて世人の疑惑を免れつゝ、密に何等か他の仕事を計畫して居るのである。大戰中彼等は斯の如くして非猶太人國民の敵味方より何等妨碍を受くることなく集合一致したのであつた。既に一九〇三年に行はれたシオニスト第六回會議に於て最近の世界大戰は豫言せられ、其の推移と結果が告げられ、尙ほ猶太人が平和會議に於て取るべき態度さへ大體に於て決定せられて居つたのであつた。

此のことは何を意味するか、勿論猶太人のナシヨナリズムといふものは存在して居る、併しながら猶太人が現在要求して居る計畫といふものが、單にパーレスタインに猶太國を建設するといふ丈けに止まつて居ないことを明かに意味して居るものであるのだ。猶太人は現今に於ては決してパーレスタインに移住しやうなどゝいふことは考て居ない、又シオニスト運動の爲めにも、そんなことは望んで居ない。夫れ故若しも彼等が非猶太人國民からの離脫といふことが行はれたとしても、それは決して右の樣な譯合から行はれたのではなく、必ずや全く他の原因に困るものと見ねばならない。

ドナルド、エ、カメロン(Donald a Cameron)といふ人は、最近アレキサンドリアの英國

總領事の職にあつた人で、此の人はシオニズムに對する非常な同情者で、猶太新聞にも屢々所論を發表したことのある人である。此の人の言に『猶太人の（パーレスタインへの）移住民は三パーセントの利を得んが爲め、互に洗ひ合ふことに依つて、間もなく倦怠を感ずるに至るであらう、そして猶太人の子弟達は汽車又は汽船に乘つて十パーセントを利する爲め埃及に走るであらう……猶太人にして獨立してパーレスタインに生活するものは同族相食むの結果となり、軈ては自己の國家を破壊するであらう』と。勿論未だ脱離の時機――尠くともそれに對する原因は――到達しては居らない。

現今尠くも佛、英、米が問題にして居る猶太問題の政治的方面は、猶太國民の現在の組織の問題と離るべからざる關係にあるものである。猶太國民は遂にパーレスタインに居を占めて一國家を有する迄待たねばならないものだらうか、或は猶太人は今日既に一個の組織ある國家を爲して居るものであらうか、猶太人は一體此のことを承知して居るだらうか、猶太人は非猶太人に對して外交政策を持つて居るのか、又猶太人は斯樣な外交政策を遂行する政府を持つて居るであらうか、若し斯樣な國家が存在するとすれば斯樣な國家は目に

見ゆるものなると否とを問はず元首を持つて居るであらうか、此の元首は國務院を有つて居るか、若し斯樣な何等かの機關があるとすれば何人か之れを知つて居るものがあらうか。

右の各質問に對して目に見えない秘密な公共團體に敎養されたこともなく、又之に遭遇した經驗もない感情的な非猶太人は、直に否と答へるに相違ない。

併しながら以上の質問に對し、何人にも之を理解し得る樣に解說する必要がある。今若しも此の世界に猶太人の自覺的結合なるものが毫も存在して居ないと假定するならば、其の時は猶太人の成熟せる政權及び彼等が採用する政策の一致は、彼等が等しく包藏せる同一方法の活動の單なる結果と見ねばならぬ。果して然らば吾人は、恰も英國に就ても同樣に、英國が海上の冒險を好むが故に之を驅つて海上に勇飛せしめたといひ得るが、元來英人は海外に渡るといふことに就ては熟慮計畫の結果やつた譯ではなく、又植民的國民にならうと明かに決心したものでもない、英人天賦の資が自然的に彼等を驅つて海に赴かしめ植民的國民たらしめたに過ぎない。併し斯の說明丈けで英國の世界的國家といふことに對する十分なる解說とすることが出來ない。

此と同樣に現に猶太人が住んで居る所へ猶太人を驅つたのは、猶太人の內的素質であることは明かである、又吾々の面前に於て卓拔せる事業を營ませたのも猶太人の內的素質に因るのであるが、猶ほ此れ丈けでは各國內に現住する猶太人間に存在する緊密なる連繫を說明したといふことが出來ないし、又世界的競爭者たる猶太人といふこと、及び彼等が猶太人以外の人類に對して粉碎的暴威を振ふ異常事件を前以て驚く許りに能く知つて居ること、並に彼等の周密なる準備、即ち彼等が好機に乘じ疾風迅雷的に世界綱領を以て巴里の講和會議に臨み、萬國をして之れに同意せしめた其の準備等の十分なる說明と見ることが出來ない。

之が爲め吾人は先づ猶太人が他の諸民族と明瞭に異つて居る民族であるといふこと、而も彼等は或る目的の爲めには通常自己の國民性を容易に拋棄する民族であるといふこと、並に彼等が事實上一國家を形成して居り、國民的自覺心を持つて居る許りでなく、共通の防衞共通の目的に對して自覺的に結合して居るものであるといふことを知らねばならぬ。

此のことに氣付いたのは最初諸政府中極く僅少で二三政府の秘密局に過ぎなかつたが、後

今吾人には次第に識者が之を察知し、遂には國民の大部分も此れを推察する様になつた。今吾人はテォドル・ヘルッルが猶太人といふ言葉の觀念を規定すりに方り「共同の敵によりて集結せられたる民族」と定義したことを想起し、次に此の共同の敵とは非猶太人の世界なることを考へねばならぬ。自ら國民なりと自覺して居る此の猶太民族が、事實組織なくして個々別々に存在するといふことは、猶太人の狡猾性に照しても受取り難いことである。世人若し合衆國内に於ける猶太人が、各種の組織を作つて相結合し、而も其の組織は何人も疑念を挿み得ぬ程巧妙であつて、而も之を如何に確乎たる實行手段に依つて保持して居るかといふことを洞察する時には、何人と雖も猶太人の住む限りの各國内に於ても、同樣之を爲し得べく又爲されて居るといふことを結論し得るのである。

夫れは兎に角として一九二〇年六月二十五日のアメリカン、ヘブリウ(American Hebrew)といふ新聞に、ヘルマン・ベルンスタインは、次の樣な記事を掲げて居る。

約一年前のことである、司法省の一代表者が予にニルス(Nilus)教授の著述になる「猶太禍」といふ論文の草稿の寫しを提示して、此に關する予の意見を求めたことがある

此の代表者が予に言ふには、此の草稿は一九〇五年に刊行せられた露書の飜譯である。尤も此の露書は後になつて絶版となつた。此の草案は思ふに「シオン賢者の議定書」を内容とするものらしく、且つ世人が想像して居る如く、バーゼルで開かれたシオニスト會議の秘密會の席上でテオドル・ヘルッル博士が朗讀したものらしい。と尚ほ此の代表者は自己の意見として次の樣なことを述べた、多分此の書はヘルッル博士の著作だらう……と。尚ほ此の代表者は次のことを言つた、亞米利加の上院議員は此の草案を見て斯の如く以前より猶太人達が密計を凝らし今や其の實行期に入つて居り、且つ又ボリシエヰィズムも實は數年前より猶太人が計畫した所であつて、此れによつて世界を破壞せんと努めた所のものであることを知つて驚愕し且つ頗る興味あることゝした』

と玆に以上の記事を引用したのは單に次の事實を述べる爲めである。即ち合衆國司法省の一官吏が、此の書物をベルンスタイン氏に示し、且つ此の書物の著者はテオドル・ヘルツルであらうと推定して居る、と言つたこと及び一九〇五年の公表と一九二〇年の現象との間に一の連鎖があることを亞米利加上院議員が觀て非常に注意を喚起した、といふこと

の二つの事實を記さんが爲めである。

扨て此の代表者が屬して居る政府は、今日猶太人の掌中にありとも言ひ得る政府で、尠くとも猶太人の勢力下にあるものである。故に斯の如き政府の一官吏が、本事件に關係したといふことだけでも本事件は注目を要するものである。而も此の官吏の行爲が世に知れ亘るや否や、其の調査は直に中止を命ぜられたことは顯著な事實である。併し縦令如何なる命令が與へられたにせよ、此の事件の調査は勿論中止せらるべきものではなかつた。

然れども本事件に關しては米國政府は比較的遲く、他の四强國は合衆國よりも數年早かつた。議定書の寫書は大英博物館に陳列され、目下「一九〇六年八月一日」と云ふ此の博物館の印が捺されて居る。而して該書自身の有する日附は勿論一八九六年となつて居るか、或は上述のヘルツル博士の宣言の年となつて居る筈で、シオニスト會議の第一回會議は一八九七年に行はれたものである。

此の書の原文は最近英政府の指定印刷者たるエイア、エンド、スポティスウッド (Eyre & Spottiswoode) に掲載せられ、其の標題は、頗る貧弱なものであつたにも拘らず多大の

注目を引いた。從つて此のことは宛も英國で政府印刷局が此の書を發行したかの如き觀を呈した。玆に於て猶太系新聞の慣例的叫びは喧々囂々たるものであつたが、之に對しロンドンタイムスは其の評論中に、猶太紙の攻撃を論じて「不滿足なものであると」斷乎として宣言した。

タイロムス紙は斷言して曰く、猶太人の反駁者は議定書の原文を隱匿し、該書は匿名者の執筆なりと强辯するであらうと。又彼等猶太人が原書の內容に關して論じたことは例の猶太式一定型の論法で「此の書は犯罪者か又は氣狂ひの作物なり」と言ふのであつた。

此の議定書には著者の名前はない、そして大部分は草稿の形で斷片的に此所彼處が現はれて居り、此の議定書の背後に潛むと想像さるゝ權威者の保證もない。そして諸政府の秘密局で周密に硏究せられ、高官の間を回覽せられたものである。此の議定書は今日も生命を存して居る、そして此の內容が有する確信的力によつて、此の書は影響といふ點に於ても、亦印象力といふ點に於ても、益々增大しつゝあるのである。彼等は著者を犯罪人又は氣狂といふが、それにしては驚くべき力のある著述と謂はねばならない。此の書が眞物で

あるといふ唯一の證據は、原書の内容に含まれて居る所であつて、而も此の内的證明力こそは、タイムス紙も論じて居る如く、一般の注意を引いた所以であり、尙又猶太人が全力を擧げて此の世人の注意を他に轉向せしめやうと努力する所以である。

猶太人は組織ある世界制度を持つて居るであらうか、其の政綱とは如何なるもので、其の實行は何うであらう? 此の質問に對する答は議定書には十分に記されて居る。縱令此の著作が何人にせよ、兎に角著者は人間性といふものは對する智織、歷史及び政治に關する學識を持つて居り、而も其の智識たるや頗る該博であつて行くとして可ならざる所ないものであるからして、頗る驚嘆に値するものである。從つて此の智識が指向せらるゝ所の人にとつては實に恐ろしいものである。若し唯一人の人が此の書を著述したとしたならば此の著作者は決して氣狂でもなければ、又犯罪者でもない、否寧ろ民族と信仰とに對する愛情燃ゆるが如き人であると考へらるゝのだ。若し此の書が虛構であるとするならば餘りに恐ろしき現實であり、單なる思想的作物であるといふのには餘りに其の基礎が鞏固であり又僞造としては餘りに深刻に人生の秘密の源泉を穿ち過ぎて居る。

これに關する猶太人の辯解は、就中此の書が露國で出來たものであるといふことを根據にして居る。併しこれは誤りで、唯此の書は露國を經由したといふに過ぎない。即ち此の書はニルス教授が一九〇五年に出版した或る露書中に含まれて居つたものであつて、同教授は當時露國に於て發生しつゝあつた事件に鑑みて、此の議定書を說明しやうと試みたものである。此の露國に於ける飜譯出版が過々本書に露國的色彩を與へたものであつて、此の事實が又英國及び米國の猶太人論客等が宣傳の爲め乘ずる所となり利用するに好都合となつたのである。何んとなれば猶太人の宣傳は露國及び露國人といふものに關して、アングロサクソン人種特有の考へ方及び感情を利用して一定の觀念を抱かしむることに成功したからである。凡そ世界に於て猶太宣傳者等に依て亞米利加國民に對して押しつけられた最大の僞物は、眞の露國民の性格及び精神に關して虛僞を傳へたことであらう、從て議定書が露國に於て作成されたものであるといふ揑造說其のものが、既に議定書をして信ずるに足らぬものであると一般に思はしむる次第である。

議定書は其の內的結構から見ても、議定書の著作が、一露人ではないこと及び最初發行

せられたのは、露語でもなく又露西亞狀勢の影響下に著はされたものでもないことは明かである。唯々議定書が露國に傳へられ、其所で初めて世に公にせられたといふに過ぎないのである。而も此の議定書は草稿の形式の儘で、世界の各所に於て外交官から發見せられたものである。尤も猶太人の勢力が盛んな所では、彼等に依つて議定書の公表は抑止され、時には至上の刑罰を以て之れに臨んだこともあつたのである。

抑々議定書が、何時迄も立消えにならないで存在することは注意に値する所である。猶太人の論客は之を說明して、議定書は反セム思想を增大し且つ此の目的の爲め保存せらるゝといふが、併しながら合衆國にはそんな深刻な反セム思潮が存在したことはなかつたのである。合衆國内に於て議定書が云々さるゝ所以は、即ち議定書なるものは先に觀察した事實を一層鮮明にし且つ一層深き驚くべき意義を附與するからであつて、其の結果は敢て世人の信用を博して居らなかつた所の此の書に重大性を加味することゝなつたのである。凡そ單純な虛說は其の生命長きを得ないもので、其の勢力は直に消滅するものである。然るに議定書の生存力は、從來其の比を見ざる程長く且つ最高度を維持しつゝ而も世人をし

て前例なき程眞劍の態度をとらしめて居る。

若し此の議定書が假令ばテオドル・ヘルッル著とでもなつて居たならば、斯程に興味深く且つ貴重なものとはならなかつたらう。著者の名のないといふことは、決して著書其の物の價値を減少するものではない、恰度名畫は畫伯の署名がなくつても其の價値を少しも低下しないと同樣である。從て此の議定書が何處で著述せられたか分らないことが結局好いのである。何んとなれば若し正確に一八九六年佛國に於て、又は瑞西に於てインターナショナル猶太人の一團が相會合して、世界征服の政綱を立案したものであるといふ樣なことが正確に分つて居たとすれば、其の時は斯の如き計畫は單に妄想に過ぎないことになるが、併し此の議定書は無署名であるが爲めに、實際に於ても然るが如くこれを實行する努力によつて意味あるものとなり又力強きものとなるのである。今日議定書が正しく世界政綱であることに就ては何等疑の餘地がない、之れが何人の世界政綱であるかは議定書其のものゝ中に書き示されて居る。若し外面的確實の度に關していふならば如何なる實證を以て最も有價値のものとなすべきであらうか、一人の署名か六人の署名か又は二十人

の署名か――それとも亦二十五ケ年に亙る該計畫實現の努力の連鎖を以て一の有力なる實證となすべきであらうか？

議定書が非猶太人諸國家に對して尤も關係ある點は、猶太人が稱する所謂「犯罪人又は氣狂ひ」が著述したといふ其の著者の何人であるかといふ點ではない。此の政綱作製後に於て其の政綱の重要なる細部に亙つて具體化されつゝある方法手段を人々は目のあたり見るといふ點に存するのである。而して又議定書其のものは比較的重要ではなく、注意を惹いて居る凡ての條件凡ての狀態が頗る重要なのである。

九　猶太人の世界支配の歷史的基礎

「吾人は一民族――一國民なり……若し吾人にして下落すれば革命的無產者となり革命派の下士官たらん。若し吾人にして向上すれば吾人の有する金といふ恐るべき權力も亦向上せん（テオドル・ヘルツル著「猶太人の國家」五頁、二三頁）

猶太問題及び猶太人の世界的支配綱領に關する言論は、從來米國に於て大に束縛されて居つたが、本論文の發表せらるゝに及んで初めて解放さるゝに至り、今日に於ては何等の恐怖も何等の遠慮もなく「猶太人」なる語を極めて眞摯に發言し得るやうになつた。今日迄「猶太人」なる語の使用は、猶太人論客自身の特殊の權利であるかの如く思惟され、彼等は専ら用意周到而も有利なる宣傳にのみ此の語を使用したものである。彼等はシェクスピアの作物は猶太人を攻撃したものであるといふ理由の下に、公立諸學校よりシェクスピアを排除することも可能であつた。又彼等はサージェント（Sargent）の繪畫は、猶太教會の沒落を描いたものだといふ理由で、ボストンの圖書館から之が撤去を要求することも亦爲し得た所であつた。然しながら若し非猶太人側から猶太人に關して自覺した樣なことを意味することが發表されると、直ぐ樣夫れは偏見であるといふ非難が八釜しく唱へられるのである。

今此れに對する米國に於ける非猶太人の反抗的實例を擧げて見よう。

或る宴會の席上一辯士が猶太人銀行業者の業務に關する演說をした際「猶太人」なる語

「一體君は一人種を左樣な言葉で區別することを亞米利加式だと考へて居るのか」と、辯士は敢然として「然り」答へたので、此の辯士の答に同意する聽衆は拍手喝釆したことがある。此の地方の商人等は、年久しく猶太人と稱してはならぬといふ一種の不文律を守らせられて居たものであつたが、會々一辯士の思ひ切つた發言によつて、大に溜飮を下げた譯である。

シカゴ、トリビユーン（Chicago Tribune）紙は第一面の第一欄中に猶太人の世界支配綱領を公表し、其の標題の「猶太人」なる語を特に肉太に印刷し、且つ此の論文內に此の「猶太人」なる語を他の言葉に代ふることなく其の儘使用した。斯樣なことが新聞經營上良策であると同紙が考へようとは、一年前迄は何人も豫想し得なかつた所である。從來新聞等が斯の如き題材に遭遇し「インターナショナル猶太人」なる語が論文中に表はれた際には、何時も「財政家」なる言葉に訂正して用ゐたものである。

斯樣な譯でシカゴ、トリビユーン紙は、一九二〇年六月十九日第一面の第一欄に、同新聞紙の特派通信員ジョン、クレイトン（John Clayton）の電報通信を次の樣な標題の下に揭

斯の如き企圖に對する彼等の一手段に過ぎず」と、此の論説の第一節は次の樣に書かれてあつた。

「最近二ヶ年間に協商側の各種秘密勤務員及び諜報將校は、過激主義の外に尙ほ世界的革命運動に關する報告を齎して來た。最初の間諸報告は、此の二つの運動を種々混同して居つたが、近來此の二運動の區別は益々明瞭となり始めた。

曩に其の一端を述べたるが如く、我が米國の諜報勤務も亦之に關して相當顧慮して居るのであるが、政府に對する猶太人の勢力强大なる爲め之に關する調査硏究は、他の事件の如く十分徹底し得なかつたことは想像に難くない所である。吾人は之れ以上の公言は爲し得ざるも吾人が猶太人側より得たる所に依れば、一時合衆國の司法當局は熱心に此の問題の調査を開始したといふことである。」

前節の最も著目すべき點は、協商國官側憲により斯かる興味ある事實が二箇年間阻止されたことを示して居ることであつて、此の事實は今迄斯の如き事柄は全部獨逸の煽動に因

るものなり、と主張する人々の大に銘記すべきことである。亞米利加の思想界に猶太問題が現出するや、猶太人側は直に「之れ方に獨逸の輸入品である、今や反セムの思想は獨逸全土に漲り、新獨逸より勝ち誇れる猶太革命派を一掃したる今日、此の反セムの思潮は、獨逸の敗因を猶太人に轉嫁せんとする一奸策に過ぎない」と主張して之に對峙したのである。又亞米利加の猶太教宣教師は現今聲を揃へて說いて曰く「歷史が證明する如く凡そ大なる戰爭の後には、必ず猶太人に對する攻擊が更に行はれたものであると。勿論近時の大戰爭といふ大戰爭の結果は、インターナショナル猶太人の金權といふものが、如何に戰爭實行に作用するものであるかといふことを諸國民に痛切に感ぜしめて居る。されば斯の如き事實は最早單に偏見と一笑し去る譯にはいかない、更に首肯し得る說明を必要とするのである。其他トリビューン紙上の論說が示して居る樣に、又總ての事實が證明して居る如くに、猶太問題の關係は決して獨逸國のみに限つて居るものではない、又獨逸では決して最高潮に達しては居ない。此のことに就て最も活動したのは正に協商側の各種秘密諸機關である。

次にトリビューーン紙の論文の第二節に於ては、ボリシェヴィズムと猶太人の世界支配權獲得運動との區別を明かにして居る。

「ボリシェヴィズムの目標とする所は、現存社會の破壞轉覆であつて、勞働者の國際的同胞主義を世界の支配者たらしめんとするにある。第二の運動は新なる民族を以て新しき支配階級たらしむるにある。英國佛國及び米國の各政府の調査が發見し得た所によれば斯かる第二段の計畫の指導的人物は、猶太人の極左傾者といふことである」此の論說中には更に次の如き斷定がある。

「共產主義者仲間には右の第二の黨の一團も這入つて居る、併し第二の黨の一團が一個の黨として存在して居るのではない。此等首領にとつては共產主義といふことが何にも主目的ではなく、そんなことは何うでもいゝ、唯目的を達しさへすればよいのである」と。此の事は彼の加奈陀ジューイッシュ、クロニックル（Jeuish Chronicle）が曩に報道した所のロード・カステース、パーシ（Lord Custace Percy）卿の意見を世人に想起せしむるものがある、即ち其の意見に曰く「猶太人が急進的世界觀に拘泥して居るからで

もなく又非猶太人のナシヨナリズム又は非猶太人のデモクラシーに共鳴して之に協同せんとの希望をもつて居るからでもない、唯現今の非猶太人の政治組織といふものを、猶太人が悉く嫌悪して居るからである」

論說中には更に述べて曰く

「彼等の期する所は回々教徒の反亂、中歐諸國の英國に對する憎惡、日本の印度に對する企圖及び日米兩國間の商業上の反目を利用せんとして、常に虎視眈々たるものである」

「世界的革命の各種運動の孰れもが然るが如く、此の運動も亦主として反アングロサクソン的運動である」

「猶太人の急進的世界運動は殆んど各地に於て其の組織完成するに至つた」

「此の猶太過激派運動は、毫末も愛他的考から出發して居るものではない、單に彼等自己民族の解放を目的とする利己主義の外何物もないのである」

と、シカゴ・トリビューン紙の論說は以上の如くである。

是れ實に驚愕すべき事實であるといふことを、世人は承認するであらう。若し斯の如き事實が、責任ある著者の筆にならず、單に宣傳者のビラ樣のものに印刷されて居つたとすれば、どうであらうか、恐らく一般讀者は、此等の事實を以て單に荒唐無稽の說として抛棄し敢て顧みないかもしれない。換言すれば一般讀者は自己の生活内に進入し、自己の運命を形成して居る秘密の力を知つて居ないのである。併しながら是れが一大新聞紙上に掲せられて居る以上、此の事實は確に右と異つた印象を世人に與ふるのである。トリビューン紙とても亦此の事實を等閑に附せず、一九二〇年六月二十一日には更に之を「世界的の不幸」と題する社說に依つて掲載した。此の社說の目的は第一次の論說を萬一誤解する樣なものがあれば、之に對して其の誤解を解かんとするにあつた樣である。曰く

「本運動中に包藏する猶太人の眞意は、新に民族支配を獲得せんとするものである」と

トリビューン紙は更に附言して曰く

「一方英米以外の國々の猶太人達が、概して自然的の理由から此の世界的不幸に協力して居るに反し、英國及び合衆國の猶太人達は、善良なる愛國者にして且つ國民精神の支

持者である」と

若し是が事實とすれば、誠に結構なことである。但し千人の猶太人中十人に對しては、個人として此の言は適當であらう。然し各國諸政府を操縦し、彼の六ケ年に亘る悲劇的時期の間、或る種の態度を以て、世界的事務に從事して居つた所のインターナショナルの分子に對しては、斯の言は決して至當ではない。是等のインターナショナルの分子が、如何なる態度を取つて居つたかといふことに就ては、驪て明瞭にしなければならない問題である。

今玆に猶太人の世界支配權建設運動が、非猶太人及び猶太人兩者に及ぼした結果の反對性と類似性とを考究するも强がちに無益なことでもあるまい。猶太論者は斯の如き結果を最初一概に否定して曰く「總て是れ虛構である總て間違である、總ては猶太の敵が煽動したものであつて、憎惡と慘虐行爲とに油を注がんとたくらんだものである」と、然れども實證が逐次集積するに從ひ、此等論者の主張は漸次に變化するに至つた。即ち「よし、兎に角彼等の主張を事實だとするも、哀れなる虐げられたる猶太人、苦惱の爲め殆んど狂せ

猶太禍に對するモニター紙の警告

んばかりになつた猶太人が彼等の敵を屠り之を征服し、自ら國家權力の首位を占めんとするに何の不思議があらうか」と唱ふるに至つた。

現存する事實に直面する時、非猶太人側は恐らく次の樣に言ふであらう「勿論のことである、併しこれは露國の猶太人だ。我々には毫も關係はない、亞米利加の猶太人は誠に幸福である。彼等は一度も斯の如きものに魅せられたことはない」と。非猶太人にして今一歩深刻に事情に通じたならば、必ずや一種の世界的破壞運動及び米國を震動した一勢力の存在して居ることを認め、且つ此の運動の指導者は實に革命的猶太人であることを、承認せざるを得ないであらう、そして更に一歩を進むるときは、此の運動が其の起源、煽動、實行及び目的に於て、明かに猶太人式のものであると斷ずるか、若くは此の運動は疑もなく「一つの世界運動」であつて、唯猶太人式のものであるといふ理論に到達するかの二つであらう。結局猶太人及び非猶太人が共に認むる所は上記の運動に伴ふ或る物が、實際存在して居るといふことである。一例を擧ぐればクリスチャン、サイエンス、モニター(Christian Science Monitos) 紙は、一の標準新聞として其の主張は何人も疑はざる所で

あるが、該紙は本問題に關する社說に述べて曰く

「若し猶太禍なるものは存在するものでないと結論するが如きことあらば、是れ誠に不幸なる誤と謂はねばならぬ。猶太禍に他の名稱を附するならば、世人は猶太禍を舊約聖書より選びて「夜の恐怖」とも稱するを得よう、何となれば意識してか無意識でか知らぬが兎に角、ニルス教授が所謂讃美歌作者の精神的悪魔の力と稱するものと同一の概念を有して居るからである。換言すれば秘密のインターナショナル政治組織が存在するといふことは、苟も此の標準紙を讀んだものに取つて疑のないことである。そして此の組織は絕えず心理的事務室を介して仕事を爲して居つて、人は當然目醒むべきに尙ほ且つ深き眠りに橫はつて居る」と。

モニター紙は偏見のなき樣注意すると共に、證明の法則を蔑視しない樣に戒めて居る。併しながら困難なことは、偏見は證明に對する蔑視よりも事實に對する蔑視より發生する方が多く、偏見の大部分は事實に反抗して存在して居るものであつて、事實によつて偏見が生ずるものではない。若し世人が此の問題を巨細に硏究せんと欲するならば、二つの先

入主に對して警戒せなければならない。其の一つは若し猶太人の世界支配綱領なるものが存在するとすれば其の起源は極く最近のもので、非猶太人達は恐らく先週か又は先年にでも立案せられたるものであるかの如く考へることである。斯樣な偏見は絕對にあつてならない、猶太人の事件に於て殊に然りである。若し此の綱領が今日に於て立案せらるゝに於ては如何に吾人の想像する所のものと異なるかは容易に察知し得る所である。實際近代の綱領なるものも同じく存在して居る、併しながら此は其の範圍に於て將又深さに於て、既に久しき以前より存在して居るものと比較にならない程の差違がある。肉眼で認めること の出來ない猶太政府の完全なる憲法は、秘密會議などで創作したものではない、數世紀に亘る經驗と思想の集積である。加之近代人が如何に斯かる計畫を蔑視する傾向が甚しくあつても此等計畫が既に數世紀に亘り、秘密の民族的理想として存在して居るといふ事柄は、此れを容認しなければならない有力なる議論である。猶太人は神の選民であつて、其の將來は過去よりも更に光輝あるべきものであるといふ信念は、猶太人全體に深く植え付けられて居る思想である。基督教國の一部の者も、此のことを認めて居る、此の希望は或は眞

實かも知れない、併しながら現代の道義的の世界の秩序内に於ては、從來猶太人の採つて來た方法を以てしては、決して之を達することは出來ないのである。

今玆に此の神の選民の思想の最高年數を考へるといふことは寧ろ不可能である。何となれば此の思想の完全なる歴史的實現を招來せんが爲め、此の思想を中心として生じた各種の計畫の中、イスラエルの賢人等が成功を保證せんとして心血を注いだことは頗る古いものであるからである。斯の如き計畫が存在して居るといふことは、世界の秘事を研究した多くの人々の信ずる所であつて、又此の計畫が世界といふ檜舞臺上に於ける最後の上演の爲めの準備として小舞臺上に彼等が豫習經驗をしたといふことも、一部の人々の奪ふことの出來ない堅き信念である。

玆に於てか猶太綱領に就ては、古き猶太人の傳統として傳へられたものであるからして現今の猶太人及び著明なるインターナショナル主義者は、本來毫も責任のないものであるとも謂ふことが出來る。そして若し此れが近世的作物であり、現代に於て急遽立案せられ編纂されたものとすれば、此のものは其の作られたと同樣に、速に消滅するものであると吾

人は期待して差支へないと思ふ。

今一つ注意しなければならない先入主は、凡そ逢ふ限りの猶太人が悉く此の計畫を知つて居ると臆斷することである。イスラエル人が、最後の勝利を得るといふ一般觀念に就ては、猶太民族と觸接して居る各猶太人は皆持つて居る所であるが、此の戰勝を得んが爲めに幾世紀の間に構成された特殊の計畫に就ては、普通の猶太人は承知して居ないのであるそれは恰度普通獨逸人が世界戰を勃發せしめた所の汎獨逸黨の秘密計畫を知らないと同樣であつて、普通猶太人は特別の必要な場合の外秘密團體の計畫には干與して居ない。勿論猶太人といふ猶太人が、猶太人の勝利を不快と思ふ筈のないことは言ふ迄もないことである。そして猶太人が非猶太人に對して使用した手段が、幾分暴力的であつても、猶太人は之を以て酷に過ぎたとは思はない、彼等は數世紀の長さ間非猶太人からヤコブの子孫が受けた饗應に對しては、非猶太人の骨をしやぶつてもあき足らないのだと堅く信じて居るのである。

以上の偏見的先入主から免かれた後に於ても、世人は次の樣な結論に到達するのが通常

である。即ち若し現在斯の如き猶太人の世界支配綱領が存在して居るならば、斯かる綱領は多數の個人の力强き後援に依つて存在するものでなければならないし、又之等個人の團體は何處かに公的の首領を有して居らねばならないものであると、思ふに研究家の大多數は、此の點に到達して最早結論を得たものと考へるであらう。猶太人中に一人の世界支配者が存在して居るといふ樣な考は、通常本問題と關係を持つて居ない人々に取つては、頗る珍妙に思はるゝことかも知れないが、併しながら元來猶太民族は本能的に專制政治下に甘んずる民族であつて、能く之を支持し且つ之を尊重することは到底他民族の遠く及ぶ所ではない。權勢ある地位の價値といふことに對する彼等の觀念は、以て直に彼等の有らゆる活動の特異なる經過を說明するに足るものである。現今に至る迄猶太人は金を儲けることに專念する民族であるが、其の第一の理由は、彼等に取つて金力は總ての地位を獲得し得る唯一の方法であつたからであつて、金力以外の方法を以て優越なる地位を獲得した猶太人は實に寥々として數ふる程しかない。斯の如く論じたからといつて、是は決して反猶太的言論ではない。彼の有名なる英國の混血猶太人なる醫師バーナード、フォン、オーフェン

(Barnard Von Oven) 博士も同様の說をなして居る。其の說に曰く

「社會上卓越した地位を得る爲めの有らゆる手段は、猶太人に對して悉く拒絕である。唯彼は富に依つてのみ立たねばならない、若し富が社會上の位置、尊敬及び注意を保證するものであるならば(彼等猶太人は之を承知して居る) 彼等が富に依つて社會的地位を購はんが爲め、富を獲んと努力するに、何で猶太人を責むることが出來ようか、寧ろ金神の祭壇の前に唯々として叩頭する社會の方が罪があるのではなからうか」と。

又猶太人は決して帝王を嫌ふものではない、否唯猶太人が國王たるを得ない所の國家組織の現狀に反對して居るものである「未來の世界獨裁君主はダヴィドの王位に座する猶太王であらう」といふことに就ては總ての豫言と世界支配綱領の說は一致して居る所である扨て斯の如き帝王は、現在此の世界にあるであらうか？ 今ないとしても兎に角一人の王を選び得べき人々は存在して居る。旣に基督紀元前から、猶太人の王なるものは事實上一人もなかつたが、凡そ第十一世紀迄は「エキザイル (Exil) の侯」といふものはあつた之は散在せる猶太人を支配する首長の稱である。此等の侯は今日も猶ほ往時の如くエキザ

イラーチス（Exilarchs）即ち「追放者の侯」と稱せられて居る筈である。此の侯は朝廷を有し、其の隨從者中には彼のイスラエルの賢人が居つて之を護り、其の人民に對しては法律を發布した。彼等は其の時代と其の時の狀態に應じて適宜に基督教國又は回教徒國に居住したものである。此の官廳が最後に人に知られて居る有名なエキザイラーチス（Exilarchs）の沒落と共に斷絕したものであるか、或は單に歷史の表面から姿を消しただけであるか、或は又全然消滅したものか、それ共他の形式を取つて今日尙ほ存在して居るものであるかは世上一般に疑問として居る所である。併しながら兎に角猶太人の世界管轄を處理する官廳が存在して居るといふこと、換言すれば猶太民族自身の頗る强大なる世界的組織があるといふことは著明な事實であると共に、積極消極兩方面の猶太人の確然たる活躍上に全世界を掩ふ統一が支配して居るといふことも亦著明なことである。現在に於てエキザイラーチスの存在といふことは、猶太人の狀態及び思想に於て決して不合理と思はれない、又實に斯の如き思想は、猶太人に取り、眞に一大慰安でなければならないのである。

「猶太百科辭典」の註に曰く「不思議にも追放者の侯」はアシケナジイム（Ashkenazim）

猶太議會サンヘドリーン

宗儀の安息令中に述べられて居る……セファーディック（Sephardic）宗儀の猶太人は此の傳統的施設を保持しなかつたし、又第十九世紀の改革派猶太教會の大部分に於ても斯の如きことはなかつた」と

然らば猶太のサンヘドリーン（古代猶太議會の稱）なるものは、今日も猶ほ存在して居るであらうか？　サンヘドリーンとは猶太人の協議支配に任ずる團體であつて、全世界に亘り猶太民族の事件を監督する最高機關である。此の猶太のサンヘドリーンは極めて興味ある施設である。其の起源及び其の實質内容は模糊として不明であるが、此の機關は議長を含み七十一名の議員より成立し、政治上元老院の作用を爲したものであつた。而してサンヘドリーンが何處から其の政治權力を得たかと言ふことはどうしても分らない。サンヘドリーンは決して選擧の團體ではなく、又デモクラチックのものでもなく、それかといつて代表機關の資格を具へて居るものでもなかつた。從つて國民に對して責任を負ふものではない、其の性質に就て全然純猶太式のものであつた。サンヘドリーンは王侯又は僧侶から選擧せられ、其の目的とする所は國民の利益の保全ではなくして、寧ろ支配者を援けて統治を行ふ

にあつた。又サンヘドリーンは固定的に常設せられ又は召集に依つて集合した。恰度此の施設は專制政治の樣なもので、國民の政治上の發展には何等の顧慮する所もなく、唯貴族が自己の權力を保持せんが爲めにあるかの如き觀があつた「猶太百科辭典」には「サンヘドリーンは其の性格上純アリストクラチー(貴族政治)であつて、其の議員は貴族及び僧侶の有力なる家庭の出であるからして、從つて其の尊嚴も自ら偉大なるものがあつた樣である」と記されてある。

此の團體は、之に類似の他の第二の團體に依つて支持せられて居る、此の第二の團體といふのは、國民の宗教關係の事柄を統轄する團體であつて、其の議員は一般民衆と近き交涉ある階級から選ばれた。

又此のサンヘドリーンは、啻にパーレスタインの猶太人に對して其の支配權を行使した許りではない。尙ほ世界到る所に散在して居る猶太人に對しても、其の權勢を及ぼしたものである。それで元老院として直接政治權を持つて居つた此の猶太議會は、紀元七十年猶太國の沒落と共に閉鎖終熄したが、それでも第四世紀に至る迄は、議政機關として其の餘

ナポレオンの猶太議會サンヘドリーン召集

猶太議會の現存

端を保つて居たことは事實である。

彼のナポレオンが、猶太人に關する諸問題を答申させる爲めに、一八〇六年に名士會議を召集したことがあつた。此の會議の議員は有名な佛蘭西の猶太人達であつたが、彼等はナポレオンに對する會議の答申案を、全猶太人に承認せしむる爲め更にサンヘドリーンを召集した。此のサンヘドリーンは一八〇七年二月九日巴里に於て開會され、古代の樣式に則りて行はれたが、歐洲各部の猶太人を包含し、以て佛蘭西の猶太人とナポレオンとの契約に對し、猶太人全體の要求であるといふ完全な權能を附與したのである。

一八〇七年のサンヘドリーンは、有ゆる點に於て古代のサンヘドリーンと同一のものであつた、そして回答公布の後宣言して曰く「サンヘドリーンはイスラエルの安寧幸福を促進する爲め、法律を通過する權能を有する適法の議會なり」と

以上の事實の意味する所は次の如くである、即ちイスラエルの政策及び憲法を維持する爲めに、今日の猶太人の首領等が爲して居る所は、決して新しい方向を取つて居るものでもなければ、又新な態度を取つて居るのでもない。新らしい計畫と見るべき實證は一つも

ない。サンヘドリーンが今日猶ほ存して居るとしても、是は猶太人の團結性に徴して寧ろ當然なことである。古代のサンヘドリーンは議員中最も聲望の勝れた者十人を以て會長として居つた樣であるが、今日に於ては其の國により其の目的に應じて、猶太人の首領等が各委員會を組織して、集團して居るのも、當然のことで毫も怪しむに足らない所である。

年々各國に居る有力なる猶太人は、世界的會合を催して居る、此の會合には所謂召集によつて集合するのであるが、一度召集令あるや何事も顧みることなく直に之に應ずるのである。而して之に集まるものは各國の最高法院にある高級の裁判官、世界的財政家、非猶太人側よりも謹聽尊敬せらるゝ「自由系」の猶太人演說家、世界の各派代表の政治運動家等であつて彼等の欲する所に集合し、其の議題は各人の望む所に從ひ愼重審議するのである。此の會議に參加するもの悉くが最高圏内の議員である譯ではない、代表者一覽表は幾十人の名前を擧げて居るが、讀者はブランディス判事リーディング卿の名は自ら連想するであらう。若し近世サンヘドリーンが催さるゝとすれば、それは最も自然なことであつて其の議員は猶太人の金權、宗教及び權勢家の是認する人々の圏内に於て組織せらるゝのは必然

のことである。

猶太世界政府の機關は何時でも運轉可能の狀態にある。それで彼等は最良の宗敎、最善の道德、最良の敎育、最良の社會標準、最良の統治的理想を持つて居るものは猶太人であると堅く信じて居る。從つて猶太人は、猶太人が以て最良と思惟する範圍より拔け出る必要を認めて居ない、彼等は福利增進の爲め何事をか爲さんとする時、又は外界に對する計畫を實行せんとする時、自ら信ずる所を行ふを以て最善と信ずるものである。

猶太人の活動は、世界には其の一部が露はるゝに過ぎないが、彼等の全活動を爲すに當つては常に此の古い機關を使用して居る。それで現在猶太人の財政、政治、智的方面の主なる首領が時々會合を催する、此の會合に當つては、豫め其の目的が告知せらるゝのであるが、時には目的の告知をしないで世界の首都に此の種の集會が行はるゝこともも屢々ある。今の所此の各方面に於て公認されて居る一首領の有無に就ては未だ明瞭でない。併しながら所謂「外交政策」の存在、即ち非猶太人に對する一定の意見及び實行計畫の存在に就ては殆んど疑を入れない所である。猶太人は悉く敵の眞中に居ると意識して居る、之と同

時に彼等は一民族の一員であることを堅く自覺して居る。從つて外界に對して一つの政策を有することは必然のことであつて、彼等は自己周圍の狀態に絕えず注意し、彼等が將來の發展に就て自己の意思に副ふ如く顧慮して居るのである。

猶太人の目に見えない政府、非猶太人に對する態度、猶太人將來の政策といふ樣なものを一寸見ると、到底吾人には考へ得ないものゝ樣であるが決してさうではない、之を猶太人特有の狀態から觀る時は、悉く當然のこと許りである。猶太人の世界に存在するや、其の眠りを滿足にしようとして動搖つて居る樣なものではない、自ら進んで將來の出來事に對應する如く計畫組織をなし、その出來事をして自己民族の利益を成形せしめようとして居るのである。從つて猶太民族が、サンヘドリーン即ち各國の指導的猶太人の世界的團體エキシラーヘン、將來の世界專制政治の秘密の先驅者たるサンヘドリーンの目に見えない公然の首長及び世界計畫を有することは、恰度各政府が各外交政策を持つて居ると同樣のことであつて、決して不合理なことでもなく又怪しむべき想像でもない。斯かる機關は猶太民族の一般の狀態よりの當然の歸結として生れ出たものである。サンヘドリーンは常に

貴族政治であつた、今日に於ても恐らくさうであらう。從つて猶太宣教師が吾等は斯樣なことに就て尠しも知るものではないと、其の說教壇から說明するのも或は眞實を言ふのかも知れない（？）、インターナショナル猶太人が依つて以て賴みとする所は、恐らく各猶太人が自己の民族をして、權力と令名の位置に達せしめやうといふ考を持つて居る點であらう。普通一般の猶太人の指導者達が世界綱領に就て知る所極めて淺薄であつても而も彼等は世界計畫を實行すべき人々に對しては、最大の尊敬と信賴とを拂つて隨喜して居るものである。

是に關して「シオン聖賢集會の議定書」の第二十四議定には次の如く述べられて居る。

「ダウィド王統の根を地球の最下層迄も扶殖する方法を述べよう……此の扶殖法は第一番に我が聖賢が、今日迄一切の世界的事件と全人類の思想養成とを指導し來つた所の隱然たる力の中に存する」

「ダウィド王家の數人が王及び王の嗣子等を準備する……」

と若し此のことが信ずるに足るものとしたならば、以上は世界支配者其のものが未だ出

現しないことを意味すると共に、尙ほ此のダウィドの系統のものが、シオンの聖賢に世界支配者の出現に對する準備事業を委任して居ることを意味するものであつて、此等賢者達は、啻に此の準備許りでなく、尙ほ此の計畫に好都合なる方向に人類の思想を形造るに努力し來つたものである。而して此の綱領其のものは秘匿し得るとするも、其の實行及び實行の効果といふものはどうしても露はれずには濟まないものである。故に外界に於て綱領を發見する端緒を見出すことは必ずしも不可能ではない、若し世人が糸口を發見して之を手繰つて行つたならば、其處には必ず綱領が見出さるべく、綱領の内容の人類に關する善悪は、軈て察知せらるゝに至る譯である。

十、シオンの議定書(プロトコール)に對する觀察

今日猶太人の世界的支配の勢力に就て、其の實行能力といふよりも寧ろ其の理論に於て世人が多大の興味を有し、最も人口に膾炙して居るものは「シオン賢者の議定書」として

知らるゝ、彼の有名なる二十四ヶ條の文書である。本書は歐洲に於て甚大なる注意を喚起し、近くは英國に於て重大なる嵐の如き議論を卷き起し、英京倫敦に於て、英國政府の御用印刷所イアー、アンド・スポッティスウッド（Eyre & Spottiswoode）の出版する所となつた。然し米國に於ては此れに關する議論は大に制限せられ、或る程度迄闡明されたに過ぎずして、其の調査は司法省の手に行はれた。

本書は其の原文を全部改變せずして、其の一部の改變に依つて、此の書が猶太人の著作であるといふ證據を除却しやうとすれば、出來ないこともない。併しながら從來史上に其の例を見ない程廣範圍に亘る世界征服といふ綱領の主眼點は如何にしても抹殺することの出來ない所である。而して又猶太人の思想を暗示する樣な點を悉く除去するに於ては、本書は最早現在の形を失ふの矛盾に陷るのである。議定書内に表はれて居る主要論旨は、有ゆる人類の秩序及び國家權力を覆滅し、以て無制限の支配權力を有する一つの新世界權力を建設せんとするにあるのである。斯の如き計畫は、完全に國家權力を專用する支配階級より生ずべきものでなくして、寧ろ無政府主義より生ずべきものである。然しながら無政

府主義者と雖も其の求むる究局の狀態は絕對的寡頭政治ではないと宣言して居る有樣である。されば此の議定書の著者は、恰度彼の佛蘭西革命當時にオルレアン公を首領とせる佛國顚覆黨の一員の如き人物とも想像されるのであるが、それは單に想像であつて、斯樣な革命家達は最早現存して居る筈のものではない。然しながら事實に於て、議定書內に宣言されて居る綱領計畫は著々進捗しつゝあつて、啻に佛國に於てのみならず、全英國に於ても尙ほ全歐洲に於ても又合衆國全部に於ても著々實行を見つゝあるのである。

議定書の著者は猶太人であるといふことは、其の全體の關係より推して炳乎たる事實である。——若し此の議定書が虛僞のものであるとするならば、其の時は此の著者は世人が一目して反猶太主義の目的のものであると感付く程明瞭に而も猶太人の作らしく見せかくるに多大の骨折を爲したことであらう。議定書中には「猶太人」といふ言葉は僅に二回使用して居るのみである。人若し此の書に對して深甚なる注意を拂つて研究するならば、其の世界的專制政治を確立せんとする目的を看取し得ると共に、又如何なる民族の著作であるかといふことは自ら察知し得らるゝのである。

抑々該計畫は何人に對して立案されたかといふことは、議定書の全文を通じて、何等疑問の餘地なき程明瞭に記されて居る。即ち此の計畫は貴族政治を抑壓しやうとするものでもなければ、資本を壓迫するものでもなく、又政府當局を敵手とするものでもない。蓋し本文中には貴族資本及び政府に對する處置は、別に一定の計畫として存在するからであつて、全計畫の敵手とする所は、該書に屢々使用せられて居る所の所謂「非猶太人」と稱せられて居る世界各國民である。凡そ該書中にある破壞的「自由」の規定なるものは、大部分民衆の力を利用することを目的として居るものであつて、而も之を利用すると同時に民衆を頽廢せしめ、精神を惑亂し、斯くて彼等を意志なき道具たらしめやうと圖つて居るもの許りである。此の書に述べて曰く「自由」の性質を帶べる諸運動は之を煽動して一層活潑ならしむるを要し、宗教、經濟生活、政策及び家庭生活に對しては、破壞的教義を不知不識の間に傳播培養し、以て人類の共同團體を覆滅するに資し、斯くて後最後の計畫に著手し、人民が此の哲學の謬見を感知したときは、既に其の型に入りある如くせぬばならぬ」と

議定書に用ひられて居る文句の言廻しは「吾人猶太人は斯のことを爲す」といふ式ではなくして「非猶太人は此のことを考へ又は爲すに至るべし」といふ式である。議定書中僅少の箇所を除く外悉く此の「非猶太人」なる言葉が、民族を差別する意味で使用されて居る。例へば第一議定書中に最初斯樣な意味に使つてある。

「各國民の性質たる公明と正大は、政治上に於ては我々が强敵を帝位より引きおろす爲めに最良にして忠實なるものである。蓋し此の性質は非猶太諸帝國の特質であるが、吾人は斷じて之に指導されてはならぬ」

「吾人は自然的世襲の貴族の廢墟の上に我が黨の金力ある智的貴族を頭首に据えたが、此の新貴族の價値は、吾人に關係の深い富と我が聖賢に依つて進歩しつゝある所の科學に依つて定めたものである」

更に第六議定に曰く、

「吾人は勞働賃銀の値上をする、然し賃銀の値上は勞働者に少しの利益をも齎さない何故ならば之と同時に吾人は、如何にも農業及び畜産業の衰退の原因からのやうな口實

の下に、生活必需品を騰貴させるからである。

加之吾人は勞働者を無政府主義と飲酒とに馴致し、之と共に地上から非猶太人智識階級の有ゆる勢力を驅逐する手段を講じ、以て巧妙深刻に産業の根柢を顚覆しやう」と（若し反猶太主義の揑造家ありとすれば、恐らく斯かることを最近五ヶ年間に著述し得たことであらう。然るに此の文章は少くとも十數年前に印刷されたものである、即ち一九〇六年以來英國の博物館に存在する謄本が之を證明して居る。尙ほ露國に於ては夫よりも更に數年前配布されて居つたのである）同じく第六議定に曰く、

「吾人は事の眞相が中途で、非猶太人に發見されぬように、表面如何にも勞働階級の爲めと、經濟の大原則との爲めに盡力するかの如き主義を取つて眞相を隱さう。此の經濟の大原則といふのは、我が黨の經濟的學說が盛んに宣傳して居る所のものである」

以上述べた所は議定書の大體結構を例示したに過ぎないが、常に「吾人」なる言葉を以て非猶太人に對して居る、此のことは第十五議定に明瞭に表はれて居る、即ち曰く

「非猶太人の純粹な動物的智能は解剖と觀察力に缺けて居る、加之問題の主なる組立が何う傾くかといふことを豫察することが出來ない。吾々を非猶太人の此の思索的才能と比較して見れば非猶太人の天性たる獸的才能と違つた我が人格と神選の印章とを明瞭

に見ることが出來る。」

彼等は見ることは見るが、先きが見えないし又發明といふことが出來ない（單に物質的發明に過ぎない）此れから見ても天然自身が世界を指揮支配することを吾人に任命したといふことが明かである」

と、以上非猶太人なる言葉は古代より、猶太人が人類を差別する爲めに用ゐた所の常套語であつたのである。即ち彼等の見解を以てすれば、人類は單に猶太人と「非猶太人」とより成るものであつて、即ち猶太人にあらざるものは是れ「ゴイ」（豚の意）——非猶太人なりといふのである。

「猶太人」といふ言葉の使用は、第八議定に明かにされて居ると見てよからう、第八議定に曰く、

「我が國家の責任ある地位を、我が兄弟即ち猶太人に委ねないでも危險のない中は、其の經歴と性質とが人民とかけ離れた人物に委任して置く、それで此の人物といふのは、若しも吾人の命令に從はなかつた場合には、流刑になるか、或は牢屋に入らねばならな

サンフランシスコの議會

い脛に疵持つ人間であるから、最後まで吾人の利益を擁護することになる」

斯の如く非猶太人を正面に立たせて置いて、猶太人支配の眞狀を掩蔽する習慣は、現今財界の大範圍に亘つて慣用されて居る彼等の手段である。右の如き議定書が出來て以來、米國に於ては如何なる進捗を見るに至つたか、此のことはサン・フランシスコの議會の經過が説明して居る、即ち同地に於てはブランディス（Brandeis）といふ猶太判事が大統領候補者として擧げられた。之で見ると米國に於ける一般の輿論が、日と共に猶太人を最高官職に就任せしめても一向差支へないものである、といふ樣に移りつゝありと十分論定することが出來るのである。實際に於ては之は猶太人達が及ぼした影響の單なる現はれに過ぎない。今日米國大統領職の各重要機關中、其所に猶太人が密に活動していないといふことは殆んとないのである。今猶太人は其の勢力を伸暢する爲めに、敢て大統領の椅子を贏ち得るといふ必要はないが、唯議定書中に規定されて居る諸計畫と相平行する或る事柄を促進する爲めに必要として居るのである。

議定書は法律書の如し

議定書を讀む人は何人も感ずる所であるが、議定書中一ヶ所として勸告的語調が存在し

て居ない。元來此の議定書は宣傳に資する爲めに作られたものでないから、之を讀ませる人々の野心や活動を刺戟し皷舞することに毫も努力して居ないのである。議定書の冷靜なること恰も法律書の如く、純然として實際的なること統計表の如しであつて、「起て同胞よ」などゝいふ慷慨的文句もなければ又「非猶太人を倒せ」などゝいふヒステリックな叫びもない。而して又議定書を見れば、此の書は決して血氣にはやる煽動者の爲めに作られたものでなくして、寧ろ注意周到に準備し、試練を經たる高級の老練家の爲めに作られたものであることが會得されるのである。

今日議定書は一八九七年瑞西のバーゼルに於けるシオン會議の際の口演を筆記したものであることは殆んど確定的の事實であるが、其の內容を觀察するときには、綱領は口演を行ひたる際新に準備したものではない、寧ろ宗教上の遺言めいた論調が多分にあつて、恰も特に信頼するに足り且つ神聖なる人々が歷代相傳へたかの如き觀がある。從つて其の內には新發見又は新なる熱心の調子を見ずして、其の反對に長く知られたる事實の確實と靜隱及び長く經驗を重ねたる政策の安定を見出すのである。其の他議定書の中に少くとも二

回議定書の年齢を窺はしむる樣な箇所がある。其の一は第一議定の次の文句である。

「猶ほ古き時代に於て人民の中に自由、平等、博愛なる言葉を叫んだのは吾々が抑々最初のものである、それ以來此の言葉は、到る處から此の誘惑に向つて飛んで來た所の無自覺の鸚鵡に依つて常に繰り返された。實に彼等は此の誘惑と共に、群衆の壓迫より個人を保護する所の個人の眞の自由と平和の健全とを奪ひ去つてしまつたのである。如何にも怜悧らしく見える智識階級の非猶太人は、此の言葉を抽象的に判斷することが出來ず、又此の言葉の意味の矛盾と調和とを發見し得ない。又天然に平等なく、天然夫れ自身が智能、性質、才能の不平等を成し立てゝ居つて、天然自然の法則に服從すべきものであることを知らない、又彼等群衆は即ち盲目である……」

と其の二は第十三議定中の文句であつて即ち

「元來政治問題は既に數世紀間の指導者たるその創設者の外何人にも解るものではない」と

彼の猶太民族の某階級內に累代相繼いで繁榮せる秘密のサンヘドリーンに右のことが關

係がないと見得るであらうか？

又議定書を見て明かに感ぜらるゝのは、之を說くもの自身が尠しも名譽を要求しなかつたものであることゝ、全文を通して個人的野心といふものが全然ない點である。凡ての計畫、目的及び期待は唯一の目標「イスラエルの將來」に向つて居る。そして此の將來は唯非猶太人の主要なる思想を破壞することによつてのみ達成し得るものとして居る。議定書は其の作製せられた時代に旣に何がなされ終つたか、今何が爲されつゝあるか、尙ほ爲すべきことは何が殘つて居るか、といふことに就て述べて居る。凡そ各部の細部に亘つて完全を極めて居ること、規模廣大而も適切なること、人間行爲の內的根源を深刻に握かんで居ること、是等の點に於ては未だ嘗て他に其の比を見ざる所である。實に此の議定書は人生の秘密を巧に會得せる點に於て、又卓越性を十分に自覺せることは於て眞に恐るべきものである、蓋し猶太人が近時「議定書は靈感せる狂人の作なり」と稱するも決して不當とは思はれない程である。若し議定書內に記されたる文句にして、其の行爲及び傾向に於て現在生活と明かに沒交涉であるとしたならば、靈感せる狂人の作なりと稱するも首肯するの

外ないであらう、然れども事實は如何ともすることが出來ない。

又議定書が非猶太人に對して下して居る批判は至極正當である。殊に非猶太人の精神上の素質及び感化力に關し述べて居る文章は一として反駁し得ない程尤もである。

今迄此處彼處に思想家が起つて、所謂科學なるものは決して眞の科學ではない、又保守的たると急進的なるとを問はず所謂經濟的法則なるものは、決して法則にあらずして寧ろ人爲的の發明なり、と言つて居るのは確なことである。又時に慧眼なる觀察者が主張して現時逸樂放縱の風頗る甚しいが、之は世人の內的要求に基くものではなくして、實は計畫的に漸次に人間に押し付けられ刺激せられて遂に弊風となつたものであると言つて居る。又或る少數の者は「輿論」と稱せらるゝものゝ過半は、買收せられたる賛意及び人爲の作業にして決して實際の正大なる精神狀態を對稱とするものではない、と認めて居る。即ち上述の如く此所彼所にて疑問の糸の一端がほぐされたが、世人は此の糸をたぐり其の根源に遡つて研究しやうとはしなかつた。然しながら今や實に諸國民が此の迷宮を探ぐるべき大切なる時機である。

十一、非猶太人の人間性に關する猶太人の見解

「予は現在及び未來に於ける我が行動のプログラムを陳述したる後、諸君に此等の學說の根據を講演しやう」（シオン議定書第十六議定）

「予が今日迄諸君に報告した所の全體に亘つて、予は近き將來に於て將に來らんとする大危機の早瀨に向つて奔流するところの過去及び現在に發生する事件の秘密を詳細に說明し、且つ我が對非猶太人關係及び財政政略の法則の秘結を說述した」。（シオンの議定書第二十二議定）

シオンの議定書は猶太人の世界計畫の縮圖である。議定書は之を分解すると大體四つの主要なる部分に區別することが出來る。併しながら此の主要なる四部分は、文書構成上の區分として表はれて居るのではなくして、寧ろ思想上に現はれて居るものである。尙ほ此の四つの外に總てを包括して居る第五の部分がある、此の第五の部分と稱するものに、議

定書の全般に亘り一定の言ひ表はし方で此所彼所に散見し得るに過ぎないのであつて、四つの主要部分が即ち議定書の骨幹をなし、此の骨幹から無數の枝が分岐して居る。

先づ第一に叙說せられてあるのは、人間性に就ての猶太人の見解である、此の文は以て非猶太人の本質を說いて居るものと見るべきものであるが、非猶太人の人間性の平凡低劣なことに就て、實に確乎たる信念を基礎として書いて居る。議定書の如き計畫は、凡庸の士の到底なし得べきものではない。

第二に此の議定書に報告してあることは、本計畫實現の爲め旣に行はれたことである。

第三には猶太人が其の計畫を將來達成する爲めに用ふべき方法が指示せられてある、此の方法たるや、人間性を輕視して居るものであつて、此の人間性を價値なきものと見做す上に全計畫が立脚して居る。

第四には議定書執筆當時未だ達成して居らなかつた所の事業に就て詳述してある。當時猶ほ努力中であつた諸事業中、其の後今日迄に達成せられたものも多々ある。蓋し世人は一九〇五年より一九二〇年に至る間の日子は、猶太人が種々の影響を利用し、種々の目的

猶太人の見解に誤なし

を達成する爲めに、十分の餘裕があつたことを記憶せねばならぬ。本章の初めに掲げてある第二項が示して居る様に、議定書の講演者は「大危機の早瀬に向つて奔流する所の事件の秘密」を承知して居たものであつて、此のことは議定書以外に猶太人側から十分に證明されて居る所である。

吾人は以下人間性に關する猶太人の見解に就て述べ樣と思ふ。吾人は幾多の根據によつて、非猶太人の人間性に關する猶太人の見解を知つて居るものであるが、此の猶太人の見解は各種の點に於て、議定書にある判斷と合致して居る、即ち議定書は人間性に對して頗る低く評價して居るのである。然るに非猶太人の方にあつては、人間性は全然尊嚴なるものの高尙なるものといふ自巳欺瞞に陷つて居る。若し世人が此のことを各方面から觀察硏究したならば、猶太人の方の見解が誤のないことは殆んど疑を容れない所であつて、此の議定書の見解は人間の自尊心及び自惚心に對して甚だ酷であるかも知れないが、併し確かに眞なりといはねばならぬ、

今議定書より斯の如き見解の表はされて居る數項を摘出するときには、世人は人間の動

人間の本性は不良なり

因及び性質に對する可成り完全なる哲學的理由を見出すことが出來る。例へば第一議定には、

「人々の中で、善良なる本性を有するものよりは、不良な本性を有するもの丶方が多い、從つて政治上の良結果は强制と排除とを用ゐて贏ち得るのであつて、大學式の議論で得らる丶ものではない」

元來人は權力を得やうと努力し、爲し得れば執政者となることを望んで居るものである。然しながら其の際自らの幸福を達成する爲めに、他人の幸福を犧牲にすることを辭せないものは稀れでない」

「群衆を支配するに當つて縱令馬鹿げた反對にしろ、それが理解ある人民に取つて非常に愉快さうに見える可能性があつたならば、いくら尤も至極な理論的な智者が、利巧な訓戒や合議を以てしても、うまく群衆を支配することが出來やうか、出來るものではない。群衆及び群衆中の人々は些細な意地、迷信、習慣、因襲及び幼稚な理屈に捉はれて、實に賢明なる訓戒に對してさへ全體の一致を妨ぐる黨派的分裂をなすものである。

それであるから群衆の決議は、偶然的のものか或は豫め仕組まれた多数決に依るのであつて、政治上の秘密を知らない所から、行政に無政府(アナルヒヤ)の胚種を蒔くやうな愚な決議を産み出すことになる」

「……群衆の能力は無智盲昧であつて善悪理非の判斷力なく、人が右といへば右、左といへば左に、其のいふがまゝに言ふことを聽くものであるといふ呼吸を呑込んで置く必要がある」

「何時も吾人は我々に必要な人々と交渉するに當つては、人心の最も感じ易き心琴即ち計算高き事及び貪慾飽くことなき物質的要求に向つて活動したことに依つて、尚ほ一層勝利を容易にした。以上述べた人間の各弱點は、獨創性(イニチヤテイフ)を減殺し人間の活動を買收者の意志の儘自由にさせるものである」と

斯の如き人間性に關する深刻なる觀察は、第五議定にも現はれて居る。

「人民も各個人も、約束が社會に於て實行されて居るか何うか殆んど追及せずに、何時も言葉を實行と思ふて、表面丈で滿足して居る。それであるから吾人は、言葉巧に世

界の進歩に對して、已が恩惠を表はす所の外見的機關を設置するであらう」

又第十一議定に曰く

「非猶太人は山羊の群で、吾人は彼等に取つて狼である、だが諸君は狼が羊小屋の中に泥坊に這入る時は羊と一緒に居ることを御存じか？

「吾々は世界の敵を平定し有ゆる黨派を鎭撫したる後、取り上げた凡ての自由を返すことを約束するから、彼等は總てに對して猶ほ目を閉ぢて居る、之を返すのを何時迄彼等が待つべきであらうか、それは言ふ迄もない」

迂路による

「吾人は凡て此等の政策を考案し、非猶太人に其の眞相を觀察することが出來ぬ樣にして、非猶太人に之を鼓吹するのは何の爲めか、是は吾々分散して居る種族には、正道に依つて達成し得ないものを、迂路に依つて達成しやうといふに外ならない」

マッソン秘密結社に對する猶太人の觀察

尙ほ世人はマッソン秘密結社は對する拔目のない觀察に注意する必要がある。卽ち第十五議定には、此の秘密結社が猶太人の計畫を促進する上に於て如何に利用せらるゝものであるかを示して居る。

「通常秘密結社に喜んで入るものは儲け主義の者、大野心家及び一般の人々で共の大部分は經佻浮薄な人間である、彼等と共に事を爲し又彼等を用ひて吾人の計畫せる機關の機械を動かすことは容易なことである」

「若しも此の世界が溷濁するならば、それは世界(?)頗る大なる團結を破壞する爲め、之を溷濁せしむる必要が吾人にあつたことを意味する。若しも謀叛が起つたならば、その主謀者は我が忠僕中の一人に外ならない、從つてマッソンの活動を指導するものは、吾々以外にはないといふことは自然的なことである。これは吾々は指導先を知つて居る即ち一切の行動の終局の目的を知つて居るからである。非猶太人に至つては何事も辨へず直接の結果さへ認識し得ない、即ち通常彼等は、その計畫が彼等の發案にあるにあらずして、吾々が彼等の思想を誘導したものであることさへ氣が付かずして、計畫を實行し利己心を一時的に滿足することを考へて居る」と

蓋しマッソン結社員が是れを見たならば定めし興味あることであらう。尙ほ同議定に曰く。

「非猶太人がマッソン結社に入るのは好奇心からか、或はその御蔭で社會的の御馳走にあづがらうといふ野心からであつて、或者に至つては公衆の面前で、實行不可能な根據のない空想を言ひ出す可能を得んが爲めである。實に彼等は成功と喝采の感情に飢ゑて居るのだ。それに對して吾々は、成功と喝采を惜しまずに與へて居る。吾々が彼等を成功せしめるのは成功から生ずる自惚を利用せんが爲めである。人々は自惚れると他人の說を入れることが出來ず、自己の考へに過誤がないと信じ切つて用心しないから、知らず識らずの間に吾々の煽動に乘るのである」

「非猶太人中の最も悧悧なものでも自惚れて居る際には、如何に之を子供扱ひにすることが出來るか、又之と同時に、拍手を止めるだけの些細な不成功でも彼等を落膽せしめ其の成功回復の爲め奴隷的服從をさせることが如何に容易であるか、諸君には想像がつくまい……吾々は自分の計畫を實行するのみで、成功の名などは輕蔑して居るが、非猶太人は單に成功の名を得る爲めに一切の計畫を犧牲にすることを辭せない。彼等の此の心理狀態は吾人の彼等に對する問題を輕減した」

以上列擧したことは、猶太人が人間性即ち非猶太人の人間性に就て、如何に觀察判定して居るかといふ數例に過ぎない。假令それが明瞭に發表されてないにしても、彼等が如何なる見解を持つて居るかといふことは容易に推論することが出來る。即ち綱領の目的たるや非猶太人の堅實性を破壞し、其の勢力を挫折せんとするものに外ならないのである。

其の手段とする所は分解法であつて、猶太人は一國民を多數の黨派や宗派に分裂させるのである。此が爲め彼等は先づ社會に向つて最も誘惑的な恰も理想郷的の樣な諸思想を散布する、然るときは次の二現象が表はれて來る。即ち投ぜられた思想に附著する人々と、此の相異なる思想團體に潜入して之を疎隔反噬せしむる人々が現はれて來るのである。議定書は如何なる方法を以て之を爲すべきかを詳細に亘つて説明して居る。此の彼等に振り撒く思想は一つの思想でなくして、思想相互間には決して一致性を有しない所の多數の思想である。其の目的とする所は人々をして種々雜多なる思想を持たせ、各人の間に何等の結合も統一もなからしむるにある。其の結果は一般社會の不和を來たし、遂に不測の不安を將來するのである。

斯くして非猶太人社會の團結が破壞された時、一般的混亂に尠しの影響をも受けなかつた猶太思想の堅き楔は、適確に自己の勢力を振ふ樣になるのである。抑々良く訓された二十人の警官又は兵卒の一隊は、千人より成る烏合の衆よりも有力であることは何人も知る所である。此と同一の理屈で計畫的に熟練された少數者は、不統一なる一國民又は分裂して相抗爭する世界より遙に有力である『分解せよ然る後支配せよ』とは之れ議定書のモットーとする所である。

此等の議定書の內に記されてある所の、人間の本質に關する猶太人の評價に基いて、人間社會を粉碎することは一茶飯事に過ぎないことである、即ち其の評價に曰く「單に約束を實行と思惟するのは人間の天性である」と。幾世紀を通じ人間を左右支配した所の幾多の夢想、妄想、空理等を概觀するときは、何人も此の言葉の眞理であることを疑ふことが出來ない。議定書がいふのも亦此れに外ならぬのである。人間社會は理論の起源も結果も共に之を穿鑿しやうとはしない　其の理論が理想的で蝶の如く美しければ皆之に執著する人間の精神は新に現出する理論に對しては其の外觀を以て直に其の本質であると思惟する

の傾向を持つて居る。故に實驗に基く經驗は、常に理論に對して殆んど新發見であるかの樣に見ゆるのである。

斯くて新たなる理論は次から次へと群集の中に投ぜられた。そして結局各理論は實行不可能なものであることが發見され非難と共に放棄された、併しながら其の結果に至つては常に議定書の計畫通りであつた、即ち一つの理論が非難を以て放棄さるゝや、社會は以前にも増して一層混亂を來し、此の理論の極まりない弊害に對しては殆んど策の施し樣もなかつた、就中此等の理論の宣傳指導者の存在する所では、其の不安は更に大なるものがあつた。即ち各種團體は、常に其の自ら求むる幸福を與へんと約束する理論の犧牲となり、且つ其の幸福は與へられずして失敗の後尙ほ殘存するものは愈々混亂を加へた、斯くて益々社會は破壞されて行く。世上最早眞正なる輿論は存在して居ない、不信と分裂は隨所に見受けらるゝ樣になつた。然しながら人々が此の大混亂の渦中にある間に、一人泰然として分裂せず此の社會の混亂に乘じて自ら欲する所を獲得する一團があるのである。是れ議定書の要求する所であつて、現時世界中に流通する破壞的諸理論は其の起源を猶太人に發

するものであることは自ら明瞭である。又分裂破壞することなく現存し、人間社會の運命を顧慮することなく自ら進むべき方向と進路とを知りて之を進む唯一の團體は、是れ猶太人團なることも亦議定書に依つて了解し得らるゝ所である。

凡そ理論の中最も危險なるものは、新たに投ぜられた理論の起りを說明しつゝ、此に伴ふ社會の破壞を之と自然的に結び付ける理論である。即ち彼等は曰く『是れ即ち進步の示す特徵なり』と。若し果してそれが進步であるならば、それは崩壞の道への進步のみ。吾人の祖先が風車又は水車を用ひたる所に於て、吾人が今日モートルを利用し居ればとて、是れが實際の進步であるとは斷定し得ない。眞の進步を認める爲めには、該車輪は吾人を何處に導くかといふことを見ねばならぬ。即ち風車、水車等の吾人に及ぼす効果は何うであらうか？水車社會及び風車社會は今日のものよりも良好であつたか又不良であつたか？彼等社會は慣習及び德義といふ點に於て、今日よりも良く統一されて居つたか？彼等の社會は今日よりも法律を尊敬すること大であつたか？彼等社會は今日よりも、より高尙にして、より鞏固なる性格を養成したか？といふことを見ねばならぬ。

總ての不安、騷擾、變化、總ての價値の變動から、一層優良なる新らしき人道が開發すべし、といふ現代の攪亂的理論は、地平線上如何なる事實に依つても證明することが出來ない。此の理論の明白なる目的は、否定することの出來ない惡事に、唯々表面上何か一抹の善を加へんとするにあるのみ。破壞を以て善にして有益であると說明する諸理論は、皆此れと同一の根源から來たものである。總べて經濟科學は、其の保守的なると急進的なると又資本主義的なると虛無的なるとを問はず、悉く猶太人に起源を有して居るものである是れ議定書の宣言する所であつて、而も是れは幾多の事實により證明されて居る所である

今や此の事は全く完成された而も行爲に依らずして言論に依つて完成された。世界に於ける言葉のブローカー、即ち彼等仲間以外の世間との交涉に於て言論を行爲と思はしむる所の人々は、疑もなく吾人が本書に於て論じて居るインターナショナルの猶太人である。彼等の哲學と方法は議定書に揭げられてある。

次に其の例證を擧げて見やう。第一議定に曰く

「政治の自由は理想であつて、實際的のものではない。若しも我黨が政權を掌握して

居る所の他の黨を倒さうと思つたならば、理想的の欺瞞を用ひて自黨に民力を引き入れることが必要であるが、其の時には此の自由の理想を甘く利用し得ねばならぬ」

「若しも此の時に政敵自身が自由主義（リベラリズム）と名づけらるゝ所の自由の理想にかぶれるならば、政敵は此の理想の爲めに自己の勢力を減退するから之を倒すことは容易くなる」

第五議定に曰く

「輿論を掌握せんが爲めには、非猶太人が迷園に姿を沒する迄は各方面から出來る丈け色々の反論を主張して、政治問題に就ては何等の意見も持たぬ方がましである、と思ふ程輿論を迷路に立たしむることが必要である。元來政治問題なるものは、一般の人々が知る必要なく、人々を指導する者のみが承知して居るべきものである——是が第一の秘訣である。

政治に成功する爲めの第二の秘訣は、人民の缺點、習慣、慾望及び一般生活の方式を各種各樣に增加し、其の渾沌たる中にあつて、何人も其の選擇に苦しみ、之が爲め人々が相互に全く了解することが出來ぬやうにするにある。又此の方法は有らゆる黨派に軋

礫の種子を蒔き、吾人に征服さることを欲しない一切の公衆力を粉碎し、且つ吾々の事業に對して些少なりとも妨害を與へ得る所の個人的獨創性を無氣力ならしむるに役立つのである」

第十三議定に曰く

「凡て之に依つて諸君は、群衆の賛同を得つゝ行くことに依つて初めて我が機關の運行を容易にして行くことが出來るのであるといふ事を見、又行爲に依つてゞはなく各種の問題に關して吾人の放つた言論に依つて、吾々は賛同を得るのであるといふ事を認めることが出來たであらう。それで我が一切の政策に於ては、一般の幸福に資する確信を以て期待に向ふものであると、吾々は常に宣傳する」

「甚だ穩かならぬ人々を政治問題の考より遠ざける爲め、吾々は今恰も新政治問題のやうにして工業問題を起して居る、此の競技場で彼等は惡魔に魅せらるゝがいゝ!」と（望むらくは讀者よ、眼を議定書の之等細部に放つと同時に心眼を開いて過去數年間の實生活及び思想上の發達に留意せよ）

「尙ほ吾々は彼等が何か考へぬ樣に享樂や、遊戲や、娛樂や、性慾や、民衆倶樂部などを設けて彼等を牽制する……」

「間もなく吾人は新聞雜誌に依つて各種各樣の運動、藝術の競技を提議する、即ち此等の趣味は吾々が彼等と戰はねばならぬ諸問題から人心を徹底的に牽制する。さうすると人々は次第に獨立の思索から離れて吾人と共鳴する、何故ならば思想の新傾向を提出するのは吾人許りであるからである……之を提出するのは、吾々の仲間のやうに見えない人々を經てやるのである」と

右の綱領内には明確に『自由主義』の理論を散布する其の目的は、那邊にあるかといふことが斷言されて居る。此等の理論の主なる代表者は、猶太人の作家、詩人、猶太敎宣敎師、猶太人社會、猶太人勢力なることは言ふ迄もない。尙ほ同議定に曰く

「自由の空想家の役目は、吾々の政權が承認される時に終了する。其れ迄は彼等は吾人に忠勤を拔んでるのである、其の後尙ほ吾人は、如何にも進步的な新らしい空想的理論の色々な發見に人々を仕向ける。見よ、吾人は腦味噌の足らない非猶太人に進步とい

ふことを利用して成功したではないか」と

本綱領に於ては、實際に人類の精神を混亂せしめ、衰退せしめ、且つ平凡ならしむる所の完全無缺なる計畫が掲げられてある。若し吾人にして十分なる經驗がなかつたならば、尊敬すべき地位にあり、且つ一見それと判定し得ない樣な人々が、此の計畫の達成に活動して居ることは到底理解し得ぬ所である。

全猶太人の一致

最近或る著名なる雜誌か「猶太人は公的生活の各仕事に於て有力者となつて居る」といふ事實に準據して、支配的地位にある猶太人達が、共通の世界綱領中に存在して居ることは不可能のことであると說明したことがあつた。資本家、勞働組合其の他過激的團體の牛耳を取るものに多數の猶太人が居る。又英國の司法機關もソヴィエト露國の首班も共に猶太人である。斯の如く各種雜多の意見を代表する彼等が、能く結合一致しありとは如何にして言ひ得よう。と

猶太人の一般統一及び全體の共同目的に就ては第九議定に次の如く確言されて居る。

「一切を抱擁する恐惶(テルロル)は吾々より生ずる。各種各樣の思想や主義を持つ人々が、吾人

に忠勤を拔んでゝ居る、即ち君主制復興者、煽動政治家、社會主義者、共産主義者及び有ゆる空想家である。吾々は凡ての人々に仕事の軛を著けた。彼等は各々自分の立場から政權の最後の殘りを取り毀はし、凡ての整然たる秩序を破壞することに努力してゐる此の運動に依つて各國は困憊して居り、彼等は平安を祈願し、平和の爲めには一切を犧牲とすることを辭せないが、併し吾々は彼等が公然低頭して、國際最高政府を承認しない中は、決して平和を與へないであらう」

又第十議定は「諸思想の力」を述べて曰く、

「吾人が自由といふ毒藥を國家機關に注入した結果、その全政體に變化を來した」と此等の諸議定の世界に對する基礎的觀念は「思想といふものは之を用ふるときは最も有効なる毒藥となるのである」といふにある。此の議定書の著者はリベラリズムを信ずるものでもなければ又デモクラシーを信ずるものでもない。彼は唯常に斯かる思想を毒藥として宣傳使用するの計畫を立て、之に依つて人間社會を破壞して、相互に相反目敵視する數團に分裂せしめ、共同の基礎的觀念の力を無數の意見によつて破壞せんとするものである

此の「思想」といふ毒藥こそ彼等の最も信頼する武器であるのだ。

思想を右の如く使用するといふ計畫は、教育の上にも及んで居る。即ち第九議定に

「吾々は吾人に解り切つてゐる虚僞の學理や主義を非猶太青年に宣傳教育し、之を馬鹿にして引き廻はし墮落させた」と

又家庭の生活に關しては第十議定に次の如く述べて居る。

「凡ての人々に自覺の觀念を馴致し、非猶太人の家庭と其の教育的價値を破壞すると」

次に思慮深き讀者の熟慮と觀察とに對し材料を提供しやう。第二議定に曰く

「或る時期まで彼等が歡樂に耽らうと、或は新歡樂の空想に生きやうと、或は又過去の追憶に耽やうと勝手にするがよい。吾人が科學（理論）として彼等に鼓吹した所のものをして、彼等の爲め大なる役割を演ぜしめよ。此の目的を以て吾々は印刷物を利用して絕えず科學に對する盲目的信念を鼓吹せねばならぬ」

「吾人の仕組んだダーウィン主義マルクス主義及びニーチェ主義の成功に注意せよ。是等の主義の非猶太人心に及ぼす破壞的價値は、尠くも吾人に取つては明瞭ではないか」

先づ精神的に次に經濟的に

議定書が提示された時代に於て、既に非猶太人社會の分裂及び破壞が著々進捗しつゝあつたことは、議定書の各文面に依つて自ら了解さるゝ所であるが、吾人の記憶せねばならぬことは、此の議定書なるものは、建議せられたる計畫に對し、援助支持を求むるものではなくして、古代より充實の道程にあつた計畫の進捗を報道したものであることである。議定書の內容には、將來爲すべきことゝ共に既に實現したる事柄を無數に羅列してある。實に人類社會の破壞行爲は一八九六年に、換言すれば議定書即ち神託が告知せられたる時代に十分進行して居つたのである。

更に世人が注意すべきことは、議定書にある明確なる目的は、決して非猶太人を根絶しやうといふのではなくして、之を征服せんとするにあることである。即ち先づ其の第一著手としては、議定書の所謂目に見えない支配下に非猶太人を征服し、終局に於ては政情の變化に依つて、目に見えない力が或る一人者を世界支配者と爲し、此の支配によつて世界の大統領又は世界の專制君主の政廳を創設せんとするにあるのである。議定書には非猶太人の征服は可能である、此が爲め最初は先づ精神的に征服を爲し、後經濟的に之を征服す

るものであると示してある。

議定書が出來た當時に於て、人類社會の分裂の作用が如何に進捗しつゝあつたか、第五議定を見れば明かに之を知ることが出來る。即ち

「一時は非猶太人の全世界連衡が吾人を統御することが出來やうが、併し此の點に於ても彼等相互間の拔き取ることの出來ない紛糾の深き根が吾人を保證する。又吾人は非猶太人の個人的及び國家的利害と、宗教的及び種族的憎惡とを二十世紀間彼等の心中に扶殖し相互に對立反目させた」と

非猶太人間に於ける闘爭、基督教徒間に於ける闘爭が絕へざる限り、右の所說は絕對に眞である。吾人は現に米國民に就てすら、其の個人上の利害及び國民的の利害の不一致が『宗教上の憎惡心及び人種上の反感』に起因するものであることを認むるものである。さりながら斯の如きこと總てに對して共通の原因ありとは何人が想像し得やう。又斯かる任務に努力する個人又は團體ありとは誰が考へ得やう、實に驚嘆すべきことではないか。而も議定書には「何れの國家と雖も吾々に反抗することが出來ない樣にしてある」と書かれ

てある。此の議定書が猶太人の手になつたものであるか何うかは別としても、兎に角非猶太人の現狀は、方に議定書の所說と符節を合する如きものあるを如何せん。

然れ共啻に右の如きに止まらず、更に々々深刻なる分裂作用が計畫せられて居り、而も此の計畫が進捗中にあるといふ兆候すら存在して居る。猶太人の指導の下に、非猶太人の下層階級が同じく非猶太人の上流階級に向つて反抗した所の狀態は、之を露國に見ることが出來る。第四議定には投機に立脚する經濟組織が、國民に及ぼす効果に就て述べて居る

「……驚くべき冷酷な、そして無慙な社會を形造る、否旣に作り上げてしまつた。此等の社會は高等政治と宗教とを全く厭忌し、社會を指導するものは唯打算即ち黃金のみとなり、黃金が與ふる所の物質的快樂の爲めに、黃金のみを崇拜することになる。斯うなつてくると、善に仕ふる爲めでなく、又富の爲めでもなく、單に特權者に對する憎しみから、非猶太人の下層階級は、吾人の後に從つて、吾々の權力上の競爭者たる非猶太人の上流者に反抗して行くのである」と

若し斯樣な戰が今日起るとすれば、非猶太人社會に對する非猶太人革命家の首魁は、必

ずや猶太人であらう。猶太人は既に指導者の位置を占めて居る。之は啻に露國に於て許りではない、合衆國に於ても亦然りである。

十二、シオンの議定書一部の實現

第一議定に曰く

「有ゆる政權の動搖して居る現代に於て、我が政權は最も優越無敵なものであらう、何故ならば我が政權は如何なる奸策と雖も之を侵蝕することが出來ない程强固なものになる迄は、人目に匿れて居るからである」

第二議定に曰く

「戰爭が、領土的利益を出來るだけ與へない樣にすることが吾人に必要である。之が爲めには戰爭を經濟的地盤に移すのである、此に於てか我々の援助を受けて居る各國民は、吾人の卓越した力を認識することになつて、兩交戰國は、如何なる僻陬の地までも

行屆いて居る我が數百萬の國際間諜の自由になるのである。其の時我が國際法は、國法本來の意味を抹殺し、恰度各國民法が其の國民相互の關係を律する如く、各國民を支配するであらう」

「シオンの議定書」は單に文學的珍書とするも、其の內容とする所は驚く程完全な世界的大計畫であるからして、非常な魅力を持つて居る。けれども議定書を單なる文學上の產物であると斷定するには、餘りに其の內容が現實性を有して居つて、有ゆる點に於て此の斷定は許されない。當然之を實際政治學と見做さねばならぬ。議定書には之を一貫する脈胳があつて、將來に關する諸計畫の外尙ほ既に過去に於て實現したこと及び現在實行中のことが附記されてあるのであるが、世人にして若し世界事情を概觀して、議定書が示して居る一般的傾向と其の確立された現實の狀態とを觀る時は、單なる文學的珍書に對するの興味は、進んで緊張せる注意心を喚起するに至り、此の感情は更に進んで驚嘆の餘り呆然自失するに至るであらう。

今二三の例を擧げ議定書の現在將に完成せんとする諸事項を說明しよう。

第九議定に曰く

「事實に於て吾人に取つて障碍といふものがない。我が最高政府は、强烈なる獨裁といふ言葉を以て名づける所の特別合法の條件に存するものである。

現下に於て吾々は立法者であつて、裁判と懲罰とを作り、或は處刑し或は赦免を行ひ我が全軍の隊長として先頭に馬を驅つて居るといふことを、予は眞實に述ぶることが出來る。吾々は强固な意志で政治を行はん。何故ならば、嘗ては强かつたが、今は吾人に征服された黨派の斷片を吾々が掌握して居るからである」

第八議定に曰く

「吾人は經濟學者全體で、我が政府を掩護しやう。經濟學が猶太人に教授する重要課目であるといふのは即ち玆にあるのであつて、銀行家、實業家、資本家等主なる富豪の全部は、吾々の周圍を取り卷いてゐるやうにする、何故ならば總てのものは數の問題で解決されるからである」

是は餘りに高き要求である、而も事實は歴然として此の高き要求に一致して居る、けれ

ども彼等は更に滿足することなく次第に要求を高め、軈て此の要求は事實となり現はれるのである。第八議定中にも說かれてある通り、猶太人は政治的國民經濟學上に卓越せんことを主張して居るが、事實は又其の成功を證明して居る。實に彼等は民衆をして不可能なる經濟的目標に走らしむる僞敎義の主なる著作者であり、米國諸大學に於ける政治的經濟學の敎授であつて、更に又各階級をして國民經濟理論は即ち國民經濟法則なりと迷信せしむる彼の『理解容易なる書』の主著述者である。又社會破壞の手段としての思想及び理論を取扱ふものは、實に大學に巢食ふ猶太人及び過激派猶太人の徒である。斯かる內情が細大漏さず世の中に公開されたならば、恐らく大學の講義と急進的なる敎義の價値に關する輿論とは、變化を來たさずには措かないであらう。

第九議定の示す如く方今猶太の世界的勢力は最高政府を形成して居る。此の最高政府なる言葉は、議定書自身の用ひて居るものであつて、他に此の言葉程適切に其の意義を現はすに適當なるものはない。凡そ世界中如何なる國民と雖も其の欲する所を悉く達成し得るものはないが、猶太の世界勢力のみは其の欲する所として達せざるなき有樣である。而も

彼等の要求たるや、非猶太人と同權たらんとする以上の要求であるに拘はらず、尙ほ且つ之を達成して居るのである。吾人は『立法者なり』と議定書には書かれて居る。然り猶太人の勢力が如何に深刻に立法に關與したかといふことは、當事者以外の夢想だも及ばぬ所である。最近數十年間猶太インターナショナル支配權、換言すればインターナショナル猶太人團が全世界を支配し來つた。加之彼等の勢力は他の健全なる法案の通過を妨害する充分なる力を有し、且つ彼等の法案にして一度法令書中に割り込まんか、遂に該書の目的をして無効ならしむる如く之を解釋せしむる力を有した。以上のことは決して虛構の言ではない、之を證明する幾多の事實が嚴として存して居る。

以上の樣なことを實施する爲めに用ふる方法は、旣に久しき以前から綱領内に規定せられて居つた、即ち「吾人は裁判所を創設す」といふ文句があり又或る所では「吾人の裁判官」といふことを就て述べて居る。目下猶太人裁判所は紐育に一箇所あつて每週同地の某公館で開廷して居るが、其の他此の民族の爲めに利用せらるゝ裁判所は到る所に構成中である。尤も猶太人の論者は「猶太民族は特殊の人種であるから」と辯明して居るが。市民

權を有する猶太人に特別の猶太憲法と自治とを其の國内に於て與へ、以て猶太人を保護しようとの猶太人側の計畫は紐育以外の小都市に於ても、各所で既に實施せられて居る所であつて、苟も猶太人の運動が何等妨害を受くることなく進展する所では、決して猶太人は亞米利加化したものでもなく又アングロサクソン化したのでも又何々國民化したものでもない。否彼等は純猶太人式を無制限に發揮固執して居るものである。

吾人が議定書の要求を觀察する時更に次のことを知るのである。第十七議定に曰く

「吾人は既に非猶太法敎主を信用しない樣にし、之に依つて目下大に妨害となる彼等の使命を敗頽せしむるやうに骨を折つて居る、此が爲めに彼等法敎主の人民に對する勢力は日一日と失墜して行く。今や到る處に良心の自由が宣言せられ、基督教の總瓦解は近年に切迫して居る。吾人が基督敎以外の宗教を征服することは一層容易であるが、併し之を今いふのは過早である。尊愼主義及び同主義者の勢力が、昔の動搖に逆戻りするやうに吾人は彼等を狹い枠の中に入れるであらう」

此のことは、猶太講法博士等と協力して一種の宗敎上の合同を成立させやうと盡力して

居る宗教家に取つては、恐らく多大の興味あることであらうと思ふ。斯の如き合同は善意にいへば基督の必然的表示である、併しながら其の實は誤れる猶太の豫言者として基督が現出するに過ぎないし、又斯の如き併合が成立するとすれば最早基督教は特別の宗教としての存在の意義がなくなるのである。議定書に表はれて居る所の最も激烈なる宗教的敵意は、カトリック教全般に對するもので、特に法王廳に對して甚しい。

尙ほ第十七議定中には、猶太人は人々を墮落せしむる天才なることを述べて居る、即ち

「概して我が現時の新聞雜誌は凡て無定見なる言論を用ひ、雜多に墮落せしむるやうに國政、宗教及び非猶太人の無能を論證する、此のことは獨り我が天才的民族にのみ爲し得る所である」と

又第十五議定には

「我が勢力の下に非猶太人法律の遂行を最少限度に縮少してしまつた。又法律の權威は、其の中に傳導された所の自由主義の解釋に因つて顚覆された。最も重要な政治的事件、主義の問題、裁判問題等は、我々が彼等に命令する如くに決定され、人々は我々が

非猶太人行政官をして採用せしめた其の光線下に事件を見て居る、勿論此のことは如何にも無關係な樣な傀儡即ち新聞輿論や其の他の方法を以て行ふのである」

第十四議定に曰く

「吾々は所謂先進國に無恥卑穢にして唾棄すべき文學を創めたが、尙ほ我が政權獲得後暫くは、我が黨のものが上から與ふる演說やプログラムの良き對照として、その存在を奬勵する」

新聞紙の支配に關し第十二議定に曰く

「此の事は現在數人の諜者が世界の隅々から集中する新情報を受付る事に依つて遂せられて居る。此等通信の諜報機關は全然吾人の施設に係かるものであつて、吾人の命ずる所のみを公表して居る」

第七議定には同じく新聞紙に言及して曰く、

「我が廣汎なる計畫は既に吾人の憧憬する地點に近づきつゝあるが、之に向つて非猶太人の各政府を敢て動かして行く爲めには、所謂大國の出版物の援助に依り、密に吾人

の製造した輿論を以てせねばならぬ、極めて少數の例外はあるが、凡ての出版物は旣に吾人の掌中にある」

又第十二議定には以上の件を總括的に說述して曰く

「現在吾々が非猶太人心を支配して居る程度といふものば、殆んど凡ての非猶太人社會が、彼等の目隱として吾人與へた色眼鏡を通じて世界の諸事件を見る程であり、又現在吾人に取つて非猶太人の馬鹿共のいふ國家の秘密に吾々の近寄ることを妨ぐる障害が一國家にも存在して居らないのであるからして、若しも吾人が我が全世界王の御陰で世界の公認支配者となつた場合はどうであらう?!」と

猶太國民は他國民の總ての秘密を知る唯一の國民である。凡そ如何なる國民と雖も猶太人程他國民の秘密を握る國民はなく、又猶太人程長く他國民の秘密を保つ國民はない。元よりインターナショナルの猶太人が、他國民の秘密を能く知つて居ることに就ては今更いふ迄もないことである。尤も秘密とはいふものゝ中には重要でないものも多くあらう。又此のことを知つてゐるからといつて、それが直接猶太人の權力を增大する譯のものでもない

けれども彼等が、總ての國家の秘密に必ず干與するといふこと及び彼等が聽かうとさへ思へば何時でも聽取し得るといふことは、實に重大なることではあるまいか。若し秘密文書にして口あらば必ずや此の事實を立證するであらうし、又秘密文書の保管者にして話さうと思つたならば必ずや此の事實を話し得るであらう。抑々唯一の秘密外交とは、所謂秘密を單に一人種の少數個人に打ち明け委托する外交である。外交の表面上の變轉極まりなき折衝、老政治家の手記による活動、眞に彼の何物かを意味するが如き重要なる妙計又は條約——是等總ては猶太の外交及び有ゆる支配階級より如何なる秘密をも採り出すといふ無類の猶太機關に比すれば兒戯といふべきのみである。合衆國も亦此の儼乎たる事實の除外例たることは出來ない。恐らくは現今の如何なる國の政府と雖も、米國政府程猶太人の御用を勤めたものはないであらう。米國に於て猶太人が斯の如き權力を得たのは、實に最近五六年間のことである。

第十一議定を見るも明かなる如く、全地球上に猶太人が分散しあることを彼等は少しも不幸とは思ふて居らない、否寧ろ之に依つて世界支配計畫が愈々確實に實行し得る神の思

召と見做して居るのである。即ち議定書に曰く

「神は吾々神選の民を流浪せしめたが、此の凡てに取つての表面的弱點の中に我が全力が含んで居り、此の力が現に吾人を全世界主權者の境に導いたのである」と

又第九議定に宣言せられて居る要求は餘りに過大であつて、實際實現するには餘りに放膽に過ぎやすまいかと思ふ感があるが、併し文章と實際とが一致符合する點があるから之を次に擧げて見やう、

「或る時機まで吾々は、非猶太人の機關を破壞しないやうに巧妙なる手で、その機械のゼムマイの兩端を把持して居る。此のゼンマイは嚴重な而も整然たる秩序にあつたが吾吾は之を自由的な雜然たる放縱に替へた。又吾々は、吾人には解り切つてゐる虛義の學理や主義を非猶太青年に宣傳敎育し、之を馬鹿にして引き廻はし墮落させた。又吾人は、法律の實質を換へずに反對な解釋で之を不正にし、實際の法律以上或る偉大なる結果をつくつた」と

「自由」に關する諸理窟及び「權利」に關する粗雜粗笨極まる諸解說が、今日程多種多

樣に社會に彌漫して居ることはない、然るに「個人の自由」は却つて何等かの理由の下に絕えず制限縮少されて居ることは公知の事實である 人民は社會的自由といふ文句の假面下に却つて國家の後見下に置かれてゐる、「公衆衞生法」或は「公安」等は其の口實を與ふるものである。今日亞米利加に於て兒童は殆んど自由に遊ぶことが出來ない有樣であつて遊ぶ時は國家の遊戲監督者の下で遊ばねばならない、そして此の監督者中には不思議にも驚く程多數の猶太人が居るのである。道路は最早從前の樣に開放されてゐない。各種の法律は無邪氣な國民の自由を切斷し、絕えず千篇一律に形式化せんとする努力が——此の形式化は「主義」と呼ばるゝあるものゝ上に立脚するものである——行はれて居る。そして奇異なることには調査者が、斯の如き民衆生活を規整する此等の運動の權威ある中心を突き留めるとき、其處には必ず勢力ある猶太人を見出すのである。兒童は家庭といふ「社會の中心」から他の「中心」に伴はれてゐる、即ち彼等兒童は——吾人は非猶太人兒童のことを茲に述べて居るのであつて、非猶太人は何人と雖も猶太人兒童の生活に干涉することを許されてゐない——獨り兩親の家から許りでなく、學校及び敎會等の自然的中心より離

れ、組織化せる「中心」及び科學的「遊場」に連れ行かれ、所謂『敎養ある指導者』の下に入るのである。——是れ實に兒童をして其の自然的周圍の指導に據らしめずして、何事も『國家』に待つ慣習を附するものであつて、斯の如き準備的行爲は、總て非猶太人の征服を目的とする世界計畫中に立案されて居る所である。若し以上の事實が、此の猶太人の世界計畫に準據して行はれて居るものでないとしたならば、何故に材料となるものが常に非猶太人兒童であつて、指導者が多く猶太人であるのであらうか？

猶太人の自由は合衆國に於ては極めて安全に保證されてゐる。非猶太人は何人も普通一般的であつて何等特別の保護といふ樣なことはないが、猶太人の地方團體は皆各特別の保護者を持つて居り、そして之等保護者は各種の手段に依つて特別の承認を受けてあつて、非政治的にも實業的にも毫も脅威を感ずることがない。從つて如何に公共的精神に富める非猶太人も、猶太兒童の生活を規整する樣な仕事を爲さんとしても決して歡迎されることはない。猶太團體は各都市毎に自ら自己の兒童の爲め夫々施設を持つて居る。それで總ての自治體學校中最も秘密な學校は猶太人の學校であつて、甚しきに至つては其の所在地すら

大都市の行政廳には分らない事が屢々ある程である。猶太人は非猶太人の精神を支配すべく常に思を凝して居るものであるが、彼等は非猶太人が如何に考ふべきかをさへ敎へんとして居る――就中猶太人に關する考へ方に於て然りである。又彼等は非猶太人の思想界に勢力を作用せしめ、遂に之を猶太人の意志の如くに動かさんとして居る。之は一度猶太人を觀察したものには能く知られて居る所であるが、彼等は極めて頑固で固執する性質を持つて居る。是は彼等猶太人が、自身は高等人種であつて、低級なる人種を操縱するの能力あるものであると、堅く信じて居る其の確信が外に現はれたものに外ならないのである。

今日非猶太人青年を輕佻浮薄放縱に導きつゝある各種の勢力の根源は、皆猶太人關係のものであるといつても過言でない。若き人々よ、今日諸君に多大の弊害を與へつゝある彼の「スポート服」なるものを考案したのは何人であらうか？ 此のスタイルは猶太人の洋服商に依つて考案されたものである、彼等猶太商人間には技術の前には規則もなく道德上の懸念もないのである。又活動寫眞は寫眞と見世物とを合同したる趣味ある發達物であるが、此のフイルムの墮落に對して一體何人が責任を負ふのであるか？ 今やフイルムの墮落は

幾多の觀衆を驅つて慨嘆すべき道德上の危機に至らしめて居る。又彼の演舞場、騷々しき公衆飮食場、安價なる寳玉屋及び强き衝動と放縱の中心たる快樂の巷、歐米に於ける斯樣な場所の經營者は果して何人であるか？ 更に讀者よ、今試に責任感念に乏しく平凡なる容貌の持主で虛飾に浮身を窶つして居る青年男女を捉へ來り、之に內外兩方面から、即ち其の衣服裝飾品より其の思想及び希望に至る迄、全部に正札を付け得るものとしたならば、其の札には『猶太人に依つて作られ、宣傳され、奪ひ盡さる』と表記せねばならぬであらう議定書の次の箇所は以上の有樣を明かに說いて居る「吾人には解り切つて居る虛僞の學理や主義を非猶太青年に宣傳敎育し、之を馬鹿にして引き廻はし墮落させた」と、何んと氣味の惡いことではないか。

此の『主義及び理論』は必ずしも高尙なる能力否低級なる智識的素養すらも要求するものではない。青年にして其の閑暇を活動寫眞館に費して居る者は、既に猶太人の宣傳による『主義及び理論』を感受して居る、又上流の青年にして『性の自由』を聽き「產兒制限」を聽く者も亦右の主義及び理論を體得しつゝあるものである。此の『主義及び理論』に附

きものゝ放縱性は、非猶太人の家庭、敎會又は非猶太人經營の職業から來るものではない主として猶太人によつて考へらるゝ所の理論、運動、職業から由來して居るのである。然し斯の如き慨嘆すべき事柄は恐らく將來に於ても跡を絕つことは困難であらう。そして又此の主なる犧牲者は猶太人の青年でなくして、寧ろ非猶太人青年である。勿論猶太人青年中にも極めて一部のものは、斯樣な社會的害毒を受ける者も勿論あるであらう、併しながら非猶太人青年の蒙る大害に比する時は實に微々たるものである。猶太人は斯く非猶太人の神經を痲痺させる許りでなく、此の痲痺の經過中から既に利益を收めつゝあるのである而も彼等は此の行爲の爲め自身は勿論、子女と雖も犧牲となることはない、此れが彼等の特徵であつて、猶太青年は非猶太青年の大部に比し遙に誇り高く、且つ純潔に其の青年期を經過するのである。

今の米國の有樣は國民一般に非常に贅澤になつて華美の風が瀰漫して居る、それで此の慨嘆すべき狀態に對して幾多の親達を始め、意志堅固なる幾多の青年、敎師及び著作家等は此の贅澤奢侈に反對して大聲疾呼して居る。又民衆が其の得たる金を湯水の如く浪費す

る一般の傾向に憂慮して幾多の財政家は大に警告する所があつた。現在生活必需品工業を盛んにする爲めに必要な人員材料は贅澤品工業に消費され、製鋼に從事すべき人が玩弄物の製作に從事し、耕作に從ふべき人が無用物の製造をなし、總ての材料は需用の爲めにあらずして販賣の爲めの品物に變化しつゝある、即ち人間生活を補助する工業から漸次遠ざかりつゝあると知つた經濟家は、之又社會に對し大に警告する所があつた。然しながら――議定書に依れば――世人は旣に不良なる方面に踏み込んで居るのである。實際世人は贅澤品と稱せらるゝ無益無用のものを買つて居る、併し之は世人自らが工夫したものではない。且又人々は間もなく品物に飽きを生じ又新奇なものを求めやうとする、而も贅澤品の流行は次から次へと目新しきものを人々の眼前に放り出すのである。

抑々此の狀態は何處から來たものであらう？　又如何なる力が存在して長き經驗と意識せる目的とによつて、國民の精神と趣味とを斯くも輕佻ならしめ、又金錢を浪費させるのであらう？　加之此の奢侈と浪費の風が未だ甚しくなかつた以前に於て、旣に人心を刺戟せられて居つたといふことは一體どうした譯であらうか？

若し亞米利加國民にして此等不用にして贅澤なる品物を見た時に、是等の品物の起因を探り且つ此れによつて生ずる莫大なる利益を占有するは何人であるかといふことを考へ、又市場を不用品及び贅澤品の洪水たらしめ、以て非猶太人の世界を財政的にも、經濟的にも將又社會的にも墮落せしむることに感付いたならば——否若し亞米利加國民にして、猶太人の財政的利益は啻に人類本性中の最も低級なる衝動と結合して居る許りでなく、十分なる準備の下に斯の如き衝動を喚起し、之を培養せんとするものであるといふことを明確に看破したならば、其の時に於て初めて材料、勞力、金力、精神及び猶太人の才能の空費を防止することが出來やう。

吾人は斷言する、非猶太人公衆は無益の贅澤品を以て人爲的に刺戟されたる貿易の犧牲なりと。然しながら讀者は曾て猶太人が之が爲めに犧牲となつたといふことを見聞したことがあるであらうか？　猶太人は目立つばかりの服裝をして居ることがある。けれども其の價格と品質とは一致して居るものである。然り彼等は頗る大なるダイヤモンドを持つて居る、併しそれは眞物である。猶太人は猶太人の犧牲にはならない。馬鹿げ切つた贅澤及び

歡樂は人々に對して猶太人が與へた所のものである。猶太人は國民を釣るには何がよいかを知つて居る、そして斯かる品は全く價値のないものであることをも辨へて居る。

最も慨嘆に堪へないのは、財政的の損失でも、高尚な趣味を失ふことでもない、愚かなる非猶太人の群衆が、勝手に喜んで自ら罠にかゝつて行くことである。彼等は流行の變化を以て避け難きこと宛がら冬が終れば春來るが如きものと思惟し、又彼等自身の財布から支出を要求することが、必要にして自然的なること租税の如く考へて居る。群盲は自ら如何にして此の貧澤の仲間入りせんかと考へて居るが、焉んぞ知らん彼等は唯支拂の仲間入りして居るに過ぎない。最新流行が舊式となり、新に流行が起るとき、彼等は唯永久に支拂の役を演ずるのみ。米國には既に數年前流行の種類を豫め知つて居るものがある。此れには何の不思議もない、即ち流行は彼等の命ずる所であるのだからである。要するに此等のことは非猶太人の多數を墮落せしめ、猶太人の少數を富ましむる職業であるのだ。

以上の事柄に對して第六議定は側面的觀察をして居る、即ち次に示す一節は此の可成り長文の箇所からの拔萃であるが、其處には如何にして國民の興味を政治問題より經濟問題

に轉換し得るか、叉如何にすれば工業界を不安ならしむることが出來るか、叉最後に如何にして民衆の反抗を無力無援ならしむるを得るか、といふことに就て述べられてある。

「吾人は非猶太人の工業を崩壞する爲め、吾人が非猶太人間に擴めた贅澤に對する非常なる慾求、即ち飽く所なき奢侈を投機の補助として流行させやう……」と

叉第一議定に曰く

「酒で著馬鹿になつて居るアルコール浸りの動物を見よ、酒を無制限に用ふる權利は自由の無限使用の權利と共に與へられてあるのだ、併し我々及び我黨のものには之を許してはならぬ……」

偶然にもアルコール性飲料の莫大なる收入は猶太人の懷中に流れ込んだ。米國に於ける「ウイスキー黨」の物語は實に之を證明するものである。歷史的には此の米國の禁酒運動は非猶太人と猶太人資本家との間の爭鬪を現はすものであつて、非猶太人は多數のお蔭で此の戰鬪には勝つたのである。

彼等猶太人は一般民衆を大規模に墮落せしむることに仲間入りして居ることを或は自覺

して居らないで、單に金儲の爲め墮落化の職業に從事して居るのかも知れない、然しながら夫れは兎に角として吾人の前には「世界支配の綱領」が橫はつて居る。此の綱領たるや熟慮の下に冷然として諸國民を物質的にも精神的にも崩壞支配せんとする目的を藏するものである。然り而して他方面に於ては、吾人は又此の綱領が日一日と實際化されつゝあつて、而も其の大部分が猶太人の調節の下に實現しつゝある樣を認めて居るのである。

附錄

附録參考

一、獨逸人の猶太問題に對する態度

次に掲げた二文は、獨逸國ライプチヒのハンメル出版部が、フォードの「インターナショナルジュウ」を獨譯出版するに當つて、其の卷頭に載せた序文である。之に依つて獨逸人の猶太問題に對する態度と本論文の價値とを窺ひ得ると共に、猶太問題を研究せんとする吾々に取つて一つの好資料であるから、敢て玆に紹介した。

一般讀者が「此の書は實に世界史的意義を有して居る」と承認するやうになるのも、蓋し遠き將來のことではあるまい。今から一年前までは合衆國内に於て、賞讚の意味に使用する以外「猶太人」なる言葉を使用した新聞、雜誌、論客及び作家は一つもなかつたのである。――それであるから人々は合衆國を「自由の亞米利加」と呼ぶのだ。――世

人が亞米利加に自由といふ言葉を冠するのは、是れ亞米利加を知らなかつた結果である實に世人は亞米利加程、猶太人の資本主義に悩む國は外にないといふことを知らない—然り猶太人の資本主義なる語は、啻に經濟的に猶太人の優越を意味する許りでなく、之れと同時に精神上に於ても、亦政治上に於ても、亞米利加が猶太人の桎梏下に呻吟することを意味する言葉であるのだ。——一九二〇年五月有力なる週刊雜誌「ザ、ディアボン、インデペンデント（The Dearborm Independet）」に本書の第一章即ち「猶太人の性格及び其營利生活」なる論文が表はれたが、是れは亞米利加の猶太人全般に對する頂門の一針であつて、彼等は之れを見て顏色をかへ一時息の塞まる程驚いたのも無理はない。蓋し該雜誌は約二十萬の讀者を有して居つて、該論文は實に猶太人の本性と其の活動とを高雅流暢なる文章で、而も公明適確に批評したからである。爾後毎週猶太人に關する批判、論文は相次いで掲載せられ、讀者の數は著しく增加した、多分今日に於ては其數三十萬を突破したであらう。——猶太人は逼塞爲す所を知らずして呆然たる有様である。猶太人が斯く默止したのは抑々何故であらう？　斯くて半歳は經過した。合衆國

内の感激は益々其の度を增し、此の文章よりして多數の亞米利加人は、恰度窒息致死せしむる壓迫から、急に解放救出されたるが如く、彼等の胸中には今や「我が國は裏切られ賣られ、奴隷化せられて居る」といふ認識の念が烈しく燃え上がつた。是に於てか猶太人たる者豈武器を手にして立たざるべけんやである。彼等の武器とは何んであらうか、即ち彼等の常套手段たる「詭辯、黑白を誤魔化すの論法、名譽毀損、誹謗」之れである彼等の反駁論は一つも事實上に根據を置いたものはない。又猶太人に心醉して居る宗教家及び猶太人に眩惑されて居る政治家の輩は、猶太人と共に相競つて「實に之れ基督の教義に悖る排斥である」とか、或は「實に之れ人種の平等權に對する攻擊である」などゝ、或は慨嘆し或は怒號した。けれども彼等の斯かる行爲は、反つて彼等に取つて好ましからざる結果を招來した、即ち今や猶太問題は合衆國に於て、公然たる而も熾烈なる焦眉の大問題となるに至つた。――此のことの焦眉の大問題たるは因より當然で、既に久しき前からさうなければならぬことである。事茲に至りては最早糊塗も抑壓も到底無益であつて。該問題を徹底的に論議し、而して猶太問題の本體を見極むるの必要があるので

ある。

抑々猶太問題の本體を見極むるとは、如何なることを意味するのであらうか？　以下之れに就て述べやう。殆んど完全にも近い猶太民族の世界支配は「分解せよ而してそれによりて支配せよ」と云ふ信條の實に巧妙なる應用によりて贏ち得たものである。即ち彼等の利益の爲めに、嘗に各國民を其の内部に於て氷炭相容れざる二派に分離させ、之れに依つて國民の注意を他に轉じて、猶太人の秘密侵略を悟られないやうにし、そして國民の猶太人の侵畧に對する防禦力を痿縮させた許りでなく、諸國民をして互に相爭はしめ、猶太人の有する唯一の目的の犧牲として、健全なる幾百萬の男子を失ふの止むなきに至らしめた、即ち世界戰爭は究竟する所猶太人の企畫したる一事業であつて、實に此の世界戰のために失はれた死者の數は、現地球上に存在する全猶太人の數より多かつたのである！

各國に於ける達識の士は、此の猶太人の恐るべき蠶食運動に對しては、殆ど策の施すべきものなしと感じて居つたが、苟くも敢然起つて之れに對抗した者は、立所に殲滅さ

れずには置かれなかつた。露國は實に猶太人が、世界に對して示した戒告の犧牲となつたものと謂ふべきである。猶太人は獨逸に對しても亦露國と同樣の運命に陷らしめやうと夙に畫策して居つた、さりとて世界各國が同時に擧つて對猶太防衞戰を行はないで、僅か一ヶ國位が防衞戰を企圖したからとて何にもならないのだ。必ずや此の戰は戰前にも增して一層屈辱的奴隷化の結果を招致するに違ひないし、又一方「汎猶太」の畫策した國内分裂政策及び各國をして相敵視乖戾せしむるの政策は、遂に各國民の民族的憎惡心をして愈々深刻ならしめるから、列國の協同は到底成立する筈もない。

世界戰爭は猶太人の世界支配權を一層確乎たらしめたものと謂ふべきである、露國はボリシェヴィズムの掌中に歸し、獨逸は蹂躙せられ、各國は負債に苦んだ。戰勝國と雖も亦然りで、見渡す限り世界到る處困憊と不幸との中に沈淪呻吟し、世界到る處國家の首班に座せるものは、無能者に非ざれば猶太人の利益を圖る賣國の徒であつて、萬事は猶太人の豫期通りの結果を見たのである。けれども流石猶太人にも一つの違算があつた、即ち彼等は各國民の精神的緊張力を誤算して居つたのである。彼のヴェルサイユの平和

會議に於て、參列諸國が戰爭の責任問題を論議するに當り「戰爭の責は一に獨逸に在り」と判決し、之れによつて該問題を解決しやうとしたが、然しながら該問題は斯の樣な判決で解決すべきものではない。爾後該問題は波瀾を惹き起すに至り、佛國及び英國に於ては、此の議論の沸騰を抑壓することが出來ずして、遂に兩國に於て「實に世界戰は猶太人の戰爭であつた、各國民は相互に傷ついて倒れ、只沉猶太のみが赫々たる勝利を博した許りである」と公然叫ばるゝに至つた。然り今や亞米利加に於てさへ、異常に膨脹する宣明運動及び護國運動の焰が炎々と燃え上がるに至つた。蓋し斯の如きは實に猶太人の全然豫期して居らなかつた所であつて、事玆に至りては最早「猶太問題は全文明國の切實なる問題であり、今迄恐ろしく誤つてつ居た全世界の焦眉の緊急問題である、實に猶太問題は今や世界的一大運動である」といふことは毫末も疑ふの餘地がない。

斯くて戰爭責任問題は、兎に角解決した譯である。今や各國に於ては、何人が此の世界的不幸及び此の各國民の沒落を故意に招致したか、を明かに知り且つ公然と斷言するに至つた。けれども各國民が斯く認識するに至つたとは言へ、之を以て猶太人に對する十分

且つ完全な勝利とは謂ふことが出來ない。斯かる認識は勝利の半ばを奏したるものと見るべきである。抑々全猶太人は一方に於て世界の富を一手に吸收するに鋭意努力すると共に、又一方に於ては自己の罪跡を消滅するに苦心して居つた者である。されば此の認識は先づ其の一を看破したのであるからして、半ばの成功と見るべきが至當であつて、斯かる小成に晏如として安んずべきものではない。

次ぎに各國の努むべきは各國の反猶太運動を連絡せしむるにある、若し此の連絡が出來たならば、其の結果として各國を網羅する眞の公明なる萬國同盟が成立するであらう斯の樣な力强き同盟に對しては、猶太人は固より無力である、猶太人の沒落を支持しやうとして如何なる手段を回らしても、到底斯の如き同盟に對しては毫も効力ある譯はない。然るに遺憾限りなきことには、目下世界を通じて實に次の樣な大平樂の思想が流れて居る、即ち「文明列强が悉く有史以來嘗てなき程の猛烈なる打擊を蒙り、一度滅亡して後始めて其處から新時代が生れ、何れの國も等しく世界の王位に上り得るの權利を得、又虐げられて居つた人々は新たなる世界組織の現出を希望し得ると共に、又斯の如き社

會組織を創造するの喜びにて滿たさるゝに至るのである。されば新時代の再現こそ望ましいことである」と

世情實に斯の如くである、されど天なる哉命なる哉、人類及び人道は其の未だ亡びざるに先だちて、玆に救出せられたのである。

この救の感謝こそは實に亞米利加の開放運動の勇士ヘンリー・フォードの勇敢なる行爲に捧ぐべきものであつて、世にヘンリー・フォードなく又彼の勇敢なる行爲がなかつたならば、人類は猶太人と言ふ世界蛇のために絞め殺されたことであらう。木鐸ヘンリー・フォードの警告あり、今や世界は迷夢より醒めて活動に移るであらう。

本書は亞米利加にて二百萬部乃至三百萬部出版された筈である。眞の亞米利加魂の力強き精神及び意志は、決して首唱呼號するのみにて止むべきではない、今や既に奮鬪の途にある、必ずや猶太問題を解決するに違ひない。

併しながら猶太問題の解決たるや、實に偉大なる歷史上の事業である！ そして之が解決を見たる曉には、玆に各國民の眞の融和は必然成立するのであつて、眞の平和主義

者たるフォードが此の事業を企てたのも亦此が爲めである。（一九二一年六月　ライプチヒ・に於て　ハンメル出版部）

概して言へば本書に掲げられた各章は、彼の有名なる「シオン賢者の議定書（プロトコール）」（"Protokolle der weisen vonZion）と相關聯する所が多い。尤も其の詳細のことは内容目次に就て一讀すれば明瞭である。唯だ左の點に就ては玆に豫かじめ注意して置きたいと思ふ、即ち

猶太人等は「シオンの賢者のプロトコール」と言ふ書に關しては、出來る丈長い間默殺し該書に就て云爲することを避けて居つた。けれども世上漸く該書を問題として論議するに至るや、彼等は釋明して曰く「これ痴人の夢物語に非ずんば背道者の著作のみ」と、即ち彼等の釋する所によれば、該書はゴーディシュ、レドクリフ（Goedsch Retcliff）の小說ビアリッツ（Biarritz）から編輯したものであると言ふにあつた。然るに又近頃になつて、該書は一八六四年時代に佛蘭西の辯護士ヨーリー（Yoly）が、ナポレオン三世に對

して作つたパンフレットに其の起源を有すとの說をなすに至り、新聞紙上にて此のパンフレットと彼のプロトコールとの一致せる點を公表する所があつた。然しながら猶太人の公表した所は、實は似て非なるもので、毫も重要視するの價値なく、加ふるにプロトコールの核心にも觸れて居らないものである。抑々プロトコールの核心とは何んであるかといふと、卽ち「遲く共一九〇五年には猶太人が全世界の經濟、政治、宗敎及び學術を支配掌握するに至る順序を書き示してある」ことである。而して此のプログラムは、現に今日に至る迄逐次步一步と實現せられ來つた所である。論者說をなして、此のプロトコールの著者は非猶太人なりとなすものがある、若しさうであつても此の著者は、猶太人が自己の眞相を看破さるゝことを危惧し且つ怒つて之を筆舌に攻擊罵倒したやうな、そんな痴人でもなく又背道者でもない、否一個の達識者である。――既に十五年以前に於て今日の世情の一部を豫察し豫言した卓見の士である。卽ち今日吾人人類が苦惱せるこの一大變化を、微に亘り細に亘つて豫想し、豫言したる所の慧眼者であると謂はねばならぬ。故に若し著者が、猶太人以外の人であるとする時には、此の議定書を方に一の奇蹟

なりと謂ふも敢て過ぎたる讃辭ではない。又右の說に反し議定書は猶太人の手になつたものであるといふものがあるが、此の方が事實に近き觀がある。

蓋しプロトコールの諸計畫と現今の狀態とは眞に因果の關係にある。吾人が經驗したる總べての事は、實に唯斯くなるより外に成りやうがなかつたのである。何んとなれば全世界の猶太人の秘密の頭首達が、プロトコールの規定通り寸分違はず行動したが爲めである。實に全世界の狀勢は議定書に明記されてあつて、其の記述に寸毫の違算もない從つて又さうなるより外に仕方のない絕對的のものであるのである。

吾人は上記のパンフレットと議定書との間に、某程度の類似性が存在して居ることは承認し得る所であつて、それは强いて說明すれば次のやうにも言ひ得るからである「即ちプロトコールの著者はヨーリーの著者を知つて居つた者であらう、其處で彼は形式なり思想なりに就いてはヨーリーに模倣したものである」と

けれどもプロトコール本來の內容に至つては、明かに猶太人的のものである。――萬事に對して常に猶太人の態度が然るが如く、此の內容の問題に對しても亦猶太人は

プロトコールの内容を穿鑿せらるゝを忌み嫌らひ、頗る要心堅固なるものがある。彼等はプロトコールは虚僞のものである、痴人の夢である、背道者の作であると百方辯解に努め以て世人が此の書を讀まないやうにして居る、蓋し斯の如きは上策とは謂ひ難い、宜しく彼等の所謂此の「痴人の夢」なる書を各人に照會し、以て各人をして此の書は眞に荒唐無稽の書であることを確信せしむるの手段をとつてこそ眞に正しき道と言ふべきである。

吾人は此の正しき道を諸君に示さんとする者である、而して讀者諸君が之れに關する獨立的判斷を自ら下されんことを希望する者である。（一九二二年七月、ライプチヒに於て、ハンメル出版部）

二、無線電信と猶太人

次に掲げたのは「ロイドジョージとマルコニー事件」といふ表題の下に、一九二一年六月

二十三日ヴィエイエ・フランス誌に掲載されたものである。今此を摘錄したのは、英國の大政治家ロイドジョージの人物を論評しやうといふのではない、此のマルコニー事件を猶太研究方面から觀察すると實に面白いものがあるからである。即ち此の事件に依つて、如何に猶太人が世界的大機業に非凡な眼識を有し、其の目的の爲め彼等の勢力を如何にして國家に喰込ませ、そして之を左右するか、といふ實例を窺知し得るからである。

ロイドジョージの關係した例のマルコニー事件があつて、未だ數年を經ないのに既に忘れられやうとして居る。今玆に其の事件を想起し、以て三年以來佛國が犧牲となり且つ恥辱を蒙るに至つた人物を明にしやうと思ふ。

抑々英國の戰略地點は全地球を包容して居るのであるが、一九一一年英國は無線電信の重要なることを知り、同國海軍は無線電信網を以て海洋を覆ふた。發明は當時亞米利加の一會社にあつたが、本會社に關係する英人側猶太人ゴットフレー・イサック（代表管理者）は、一九一二年六月十九日の契約に依つて、英國政府から無電專賣權獲得の權を得て大に英帝國の爲めに貢獻するに至つたのである。即ち彼は急遽亞米利加に到り、一

萬四千磅（約十四萬圓）で亞米利加會社から權利を買收し、百四十萬磅（約千四百萬圓）の資本を以て英國に新會社を設立した。

然るに猶太人ゴットフレー・イサックに二人の兄弟があつた、一人はビラングスゲートの果物市場の商人なるハリーで、他の一人は閣員にして且つ英國の總會計役なるルフュスである。ゴットフレーは勿論此の二人の兄弟を組合員にした、そこで總會計役なるルフュスは一萬株を取つた、併し彼は此の仕事に就て不安を感ぜずには居られなかつた。なぜならば彼は議會と輿論を心配した、即ち彼は閣員でありながら一私設會社の專賣權を利用し誤魔化して居るといふことを知られては大變だと思つたのである。

英國はルーシュールやアルベール・トーマス等の制度が佛國人を倒した樣な程度迄は未だ隋落して居なかつた、縱令へブライ人のするが儘になる樣な國民でも之を强奪することは倫敦では正しくなかつた。隨つて彼ルフュスも其の同僚たる大藏大臣ロイドジョージを同じ途作れにする爲めに餘程注意した。併し投機者ロイドジョージには、株の支拂をする金がなかつた、其の時ルフュスはいつた「そんなことはどうでもよいよ、仕拂は君の都合

のよい時でよい」と斯くしてロイドジョージは一千株を買つた。

此のことが世に出ると調査會を開くべしといふ聲が高くなり、ロイドジョージとルフュスイサックはマルコニー會社とは何等關係なきことを確言し、ロイドジョージの演説は吾人に新聞に依つて傳へられた。「私は可愛相な者である、唯パンを有するのみ」と、而して彼は株を持ち自動車を持ちそして外國銀行で貯金して居る。

遂に秘密なる力はロイドジョージを掌握して英、佛及び波蘭の諸國を裏切り獨逸の利益の爲めにボリシュウィキーの手先をしたのだ、

瀆職者たるロイドジョージはルフュス・イサックをリーディング卿の假名で、英帝國の崩壞の爲め印度總督に任じ、前の借金をイサックに支拂つたのである。

三、上海に於ける猶太實勢力

本記事は私の友人で支那通なるK博士の談である。東洋通商の樞軸にして我が帝國の玄

闘先たる上海に於ける猶太勢力の實況を窺ふべき絶好の資料を思惟したので、次に掲載して讀者の參考に供することにした。

支那の上海にはハードン、カドウリ、エヅラ氏等の如き代表的富豪を始めとし、各國に籍を有つて居る猶太人の醫師、記者、教師が居る。私は戯談の意味で親交ある一猶太人に向つて「全世界は方に猶太人に征服せられつゝあり」といつた處が、彼莞爾として曰く「實に然り、但し尙ほ多少の歳月を要すべし」と更に曰く「諸國に散在して居る猶太人の眼からは、其の土著の國人は馬鹿者と考へられて居ると」と。猶太問題に關する書籍を涉獵した私の腦裏には、此の僞らざる告白から一種の深い感興が湧いて來たのである。

誠に上海に於ける富豪を數へて見ると、私の知つて居る範圍では、一番から五番まで悉く猶太人である。彼等在留民の全數は徵々たるものであらうが、而も現在四百餘名の市參事會員有權者があり、三個の英字新聞中チャイナー・プレス（排日紙）と上海タイムス（親日紙）は現に彼等猶太人に依つて經營されて居り、ノース・チャイナー・デリー

ニュースは英人の經營ではあるが、有力なる記者は猶太人である。其の他バンドの大建築櫛比する中に交つて、巍然たるマッソン結社の大會堂及び英租界に宏大なるシナゴーガ（猶太敎會堂）を有して居ること等より想像するも、東亞の一開港場たる上海の如き一局地に於てさへ、其の根底に於て如何に彼等の實力が牢乎として居るか窺はれるではないか。殊に南京路大通の大部分が、ハードン翁個人の所有であるといふに至つては驚嘆せざるを得ないのである。上海といへば、日本人は英國其のものゝ延長の如く考へて居るが、良く解剖して見ると夫れは唯外觀丈であつて事實は寧ろ猶太人の上海といつた方が適切であるかも知れない。

私は昨秋シオンニズムの人々からマッソン會堂に招待されたことがあつた。數千人を容るゝに足る大ホールに參集した面々は、英、米、獨、露、ポーランド、チェッコスロバキア、印度等各國籍の猶太人であつて、其の餘りに多種多樣であるのには驚かざるを得なかつた。各自其の所屬國の國語を用ひながら、歐洲大戰中には互に　となり味方となつて戰つたことなどは、更に頓著する樣子もなく「總てのイスラエル人は同胞なり」といふ

傳統的信條の下に、故國恢復運動に熱を揚けて居る。いざといへばすぐ特種部落を作るのが猶太人と日本人であるが、猶太人のマッソン結社やシォニスト團などは世界的のものであつて、而も日本人の小團體の樣に孤立したものではなく、世界の隅から隅まで網の目の樣な連絡があるのである。

終

昭和二年二月十日印刷
昭和二年二月十三日發行
昭和二年二月廿五日再版
昭和二年五月廿八日再版訂正三版

世界の猶太人網　定價金壹圓八拾錢

譯者　包荒子
東京市神田區錦町一丁目十六番地
發行者　宮下軍平
東京市神田區宮本町五番地
印刷者　鈴木梅太郎
東京市神田區宮本町五番地
印刷所　昭榮社印刷所
(83)下谷〇〇四四番

不許複製

發行所　二松堂書店
東京市神田區錦町一ノ一六
振替口座東京三四〇九番
電話神田一四一〇番